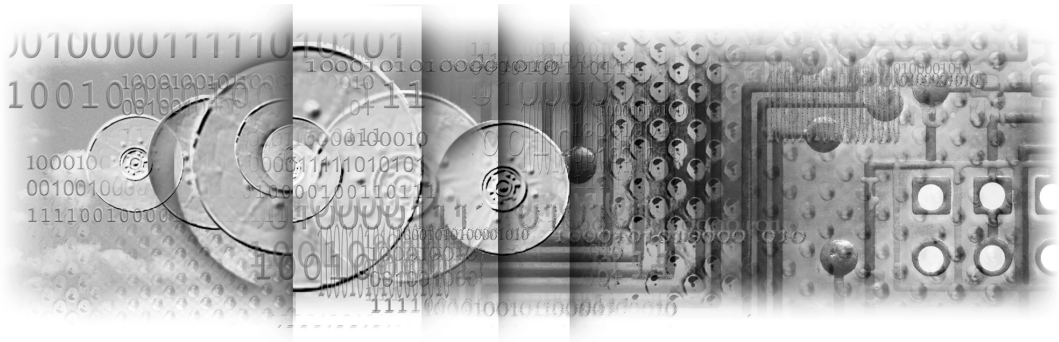


Drive Image® 4.0



ユーザーガイド

Drive Image 4.0 日本語版
Drive Image by PowerQuest

Copyright ©1994–2000 PowerQuest Corporation
All rights reserved. U.S. Patents 5,675,769; 5,706,472; 5,930,831; and 6,088,778;
with other patents pending in the U.S. and elsewhere.

The entire risk of the use or the result of the use of this software and documentation remains with the user. No part of this documentation may be reproduced in any means, electronic or mechanical, for any purpose, except as expressed in the Software License Agreement.

This software and documentation are copyrighted. All other rights, including ownership of the software, are reserved to PowerQuest Corporation. PartitionMagic, ServerMagic, SmartSector, PowerQuest, and the PowerQuest mark are registered trademarks of PowerQuest Corporation in the United States and elsewhere; Drive Image and Server Image are trademarks or registered trademarks of PowerQuest Corporation. DOS, Microsoft, Windows, and Windows NT are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation. NetWare is a registered trademark of Novell. All other brand and product names are trademarks or registered trademarks of their respective owners.

(ご注意)

- * 本ソフトウェア及び付随するドキュメンテーションの著作権は、米国 PowerQuest Corporation にあります。
- * 本ユーザーズガイドの一部または全部を無断で転載、複写、複製することはできません。
- * 本ソフトウェア及びユーザーズガイドを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますので、ご了承ください。
- * 本ソフトウェアの仕様、及びユーザーズガイドに記載されている内容は、将来予告なしに変更することがあります。
- * 本ソフトウェア及びユーザーズガイドは、本書に記載の「Power Quest コンピュータ指定のライセンス契約」の下でのみ使用することができます。

(商標及び登録商標)

- * ServerMagic, Drive Image, Drive Image Professional, DriveCopy, PartitionMagic, PowerQuest, PowerQuest のマーク, Server Image, Magic Mover, SmartSector, Image Shield, DriveMapper は、米国およびその他の国において PowerQuest Corporation の商標あるいは登録商標です。
- * IBM, OS/2 は、International Business Machines Corporation の登録商標です。
- * DOS, Microsoft, Windows, Windows NT, Windows 95, Windows 98 は、Microsoft Corporation の登録商標です。
- * NetWare は、Novell の登録商標です。
- * Norton Utilities と AntiVirus は Symantec Corporation の商標です。
- * Boot Manager は、International Business Machines Corporation の商標です。
- * Jaz と Zip は、Iomega の商標です。
- * SyQuest は、SyQuest Corporation の登録商標です。
- * Disk Manager は、On Track Corporation の、EZ-Drive は、MicroHouse Corporation の商標です。
- * Intel は、Intel Corporation の登録商標です。
- * その他、本書で記載されている会社名、製品名は該当する各社の商標及び登録商標です。

株式会社ネットジャパン
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-18-3
(TEL)03-3864-5210 (FAX)03-3864-5211
sales@netjapan.co.jp
<http://www.netjapan.co.jp>

PowerQuest® コンピュータ指定のライセンス契約

重要 : PowerQuest 社のソフトウェアを使用する前に以下をよくお読みください。

本ライセンス契約は、お客様（「エンドユーザー」）と PowerQuest Corporation（「PowerQuest」）との間の契約書です。同封のソフトウェアを使用することにより、エンドユーザーは以下の条項を受け入れたこととなります。本ライセンス契約において、「本ソフトウェア」という用語は、本ライセンス契約が同封されている CD またはディスク媒体上に含まれているソフトウェアを意味します。「本ソフトウェア」には、PowerQuest 以外の者によって提供または供与されている別途ライセンスの対象となるソフトウェアは含まれません。また、本ライセンス契約はそうしたソフトウェアについてなんらの権利も供与するものではありません。

エンドユーザーがここに記載する条項に合意しない場合には、当該 CD ないしディスク媒体が含まれているソフトウェア・パッケージ、ならびに本製品のその他のコンポーネントを破棄するか、または開封せずにそのまま購入場所まで返却しなければなりません。

- 1. 所有権** : 本ソフトウェアおよび付属書類は、PowerQuest またはそのライセンサーの所有物であり、米国および日本の著作権法、商標法、特許法およびトレードシークレットに関する法律、ならびに国際条約の諸規定によって保護されています。本ソフトウェアおよびその一切のコピー、修正、翻訳および組み込まれた部分の独占的な所有権は、つねに PowerQuest およびそのライセンサーに帰属します。
- 2. ライセンスの許諾および期間** : PowerQuest はここに、エンドユーザーに対して、本ライセンス契約の条項に基づいて本ソフトウェアを使用する非独占的かつ譲渡不能のライセンスを許諾します。本ソフトウェアを一時的にメモリにロードしたり、永続的にメモリにインストールすると、本ソフトウェアをコンピュータ上で使用したものとみなされます。PowerQuest からの書面による許可を事前に行うことなしに、本ライセンスを譲渡または移転することはできません。また、無許可で行われた譲渡は無効とみなされます。

一身専属的ライセンス本ライセンス契約は、エンドユーザーの一身専属的なもの（個人あるいは法人）です。そのため、エンドユーザーは、本ライセンス契約下の利益あるいは権利を第三者に譲渡ないし移転してはならず、また、第三者の便宜やデータのために本ライセンス契約を行使してはなりません。

コンピューター指定のライセンス本ソフトウェアの使用許諾された 1 コピーは、エンドユーザーが所有またはリースを受けている（スタンドアローン、ネットワーク接続に関わらない）特定の 1 台のコンピューターにつねに接続されているハード・ドライブに対してのみ使用することができます。一旦、1 台のコンピューター上で使用すると、他のコンピューター上で使用することはできません。本ソフトウェアをネットワーク上で利用する場合でも、本ソフトウェアに対するアクセスは、特定の 1 台のコンピューターからしか行うことができません。本ソフトウェアが特定の 1 台のコンピューターからすでにアクセスされている場合、追加のライセンスを購入せずに、他のコンピューター上で本ソフトウェアを使用することはできません。

ライセンス許諾される本ソフトウェアのコピー複数のコンピューターまたは複数のユーザーによる本ソフトウェアの使用を許可するライセンスを購入していない場合は、特定の 1 台のコンピューター上で本ソフトウェアの 1 コピーのみを使用する権利が与えられます。エンドユーザーは、バックアップのためにのみ、本ソフトウェアのコピー一部を作成することができます。本ソフトウェアのコピーには全て、PowerQuest の著作権およびその他の法的な表示を含めなくてはなりません。

アップデートおよびサポートエンドユーザーは、本ソフトウェアの付属書類に記載されたテクニカルサポートを無料で受けることができます。エンドユーザーは、随時公表される PowerQuest の方針に従って、シングルユーザーライセンスによって本ソフトウェアのほかのユーザーに提供されるのと同様の条件で、ソフトウェアのアップデート（アップデートは少数点以下の数値の変更で示される）を受け取ることができます。

期間本ライセンス契約は、本ソフトウェアの購入日から有効となり、解約されるまで有効です。エンドユーザーは、本ソフトウェア、付属書類、ならびに一切のコピーを破棄することにより、いつでも本ライセンス契約を解除できます。

- 3. 無許可の使用** : 本ライセンス契約で明示的に許可されている場合を除き、PowerQuest からの書面による明示的な許可を事前に得ることなく、本ソフトウェアまたはその付属書類を電子的またはその他の手段で使用、コピー、修正、改変または転送することはできません。また、本ソフトウェアを翻訳、リバース・プログラミング、ディスアセンブリング、逆コンパイル、およびリバース・エンジニアリングすることもできません。
- 4. 輸出規制** : コンピューター・ソフトウェアの輸出および最終エンドユーザーに関してのアメリカ合衆国の条例による規制の下で、本ソフトウェアの使用が許諾されています。エンドユーザーは、1979 年の輸出管理法に限らず、随時改訂され公表されているアメリカ合衆国の関連条例および法規を、十分に遵守することに同意するものとします。

-
5. **米国政府による使用の制限**：エンドユーザーが米国政府の省庁での使用を目的として本ソフトウェアを取得する場合は、以下の条項が適用されます：本ソフトウェアは民間の費用のみで開発されたものであり、本ソフトウェアとその付属書類は制限付き権利を付して提供されます。米国政府による本ソフトウェアの使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013 のテクニカルデータおよびコンピュータソフトウェアの権利に関する条項 (c)(1)(ii)、または 48 CFR 52.227-19 の商用コンピュータソフトウェアの制限付き権利に関する条項 (c)(1) および (2) のいずれかの既定により制限されます。契約業者 / 製造元 PowerQuest Corporation/P.O. Box 1911/Orem, UT 84059-1911/U.S.A.
6. **限定的保証**：(a) PowerQuest は、エンドユーザーに対して以下を保証します：(i) 本ソフトウェア（第三者ソフトウェアを含まない）がほぼ付属書類通りに作動すること、および、(ii) 本ソフトウェアがディスク媒体上に適切に記録されていること。この限定的保証は、購入の日から 90 日間有効です。PowerQuest は、本ソフトウェアと共に提供される第三者ソフトウェアについては保証しませんが、PowerQuest は、その所有者ないしライセンサーによる保証をエンドユーザーに移行することに合意します。(b) この限定的保証は、本ライセンス契約の条項や本ソフトウェアおよび付属書類上の指示に従わずに改変、損傷、乱用、誤用ないし使用された本ソフトウェアには適用されません。(c) この限定的保証に基づく PowerQuest の責任およびエンドユーザーに対する唯一の救済は、本ソフトウェアの修復または交換、あるいは、本ソフトウェアの購入価格の返済に限定されます。PowerQuest は、本ソフトウェアが、エンドユーザーの保管する領収書のコピーを添えて、保証期間内に PowerQuest またはその代理店に返還されない限り、この限定的保証に基づく責任を負いません。本ソフトウェアの交換されたものについては、当初の保証期間の残存期間または 30 日間のうち、いずれか長い期間につき保証されるものとします。(d) この保証は、明示または暗黙を問わず、商品性、特定の用途への適合性、および第三者の権利侵害についての保証、または商慣行や取引過程で発生する保証を含むがそれに限定されない、本ライセンス契約中に明記されていないその他一切の保証に代わるとともに、それらを排除するものです。(e) この保証はエンドユーザーに特定の法的権利を与えます。エンドユーザーは、居住地域によって異なるほかの権利を与えられる場合もあります。(f) エンドユーザーがユーザ登録を怠った場合、PowerQuest はソフトウェアのアップデートサービスを行うことができず、エンドユーザーは実行とその結果に一切の責任を負うこととなります。
7. **責任の制限**：いかなる場合においても、本ソフトウェアに関する PowerQuest の責任は、本ソフトウェアに対してエンドユーザーが実際に支払ったライセンス料の範囲に限定されます。限定的保証で既定される条件下での購入価格の返済を除き、PowerQuest またはその供給者は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用または使用不能に関連して生じた直接的損害、間接的損害、特別損害、付随的損害、結果的損害、および業務上の利益の喪失、業務の中断による損失、業務情報の喪失、またはその他の金銭的損失を含むがそれに限定されない損害について、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、（契約よると、不法行為による）、保証によると、またはその他一切の法律上の根拠による）一切の責任を負いません。居住する地域によっては、付随的損害または結果的損害に対する責任の除外または制限が認められず、上記の制限が適用されない場合があります。
8. **権利の放棄**：本ライセンス契約のいずれかの当事者による、特定の状況下での本ライセンス契約の特定の部分の不履行は、本ライセンス契約で権利の放棄とはみなされません。当該当事者は、その状況下で本契約の残りの部分を実行することができます、また他の状況下で本契約のすべてまたは一部を実行することができます。
9. **完全な合意**：本ライセンス契約は、本ライセンス契約の主題に関して、エンドユーザーと PowerQuest との間の完全な合意を構成します。本ライセンス契約はユタ州法を準拠法とします。本ライセンス契約に関連して発生する訴訟はすべて、ユタ州に所在する州裁判所または連邦裁判所においてのみ訴訟されます。本契約の一部が無効とされた場合でも、本契約の残りの部分は有効で拘束力を持ち、強制可能です。

エンドユーザーが本契約について質問がある場合、または、エンドユーザーがなんらかの理由により PowerQuest、または、PowerQuest の日本総代理店である（株）ネットジャパンに連絡をとる場合には、下記までご連絡ください。

PowerQuest Corporation/1359 North Research Way, Building K/Orem UT 84097 U.S.A.

株式会社ネットジャパン / 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-18-3 NBS 岩本町ビルディング

Copyright© 1997-2000, PowerQuest Corporation. All rights reserved.

本ソフトウェアは米国特許法をはじめ、米国ならびにその他の地域で懸案中の特許法によって保護される可能性があります。

PowerQuest は PowerQuest Corporation の登録商標です。

目次

序章	1
Drive Image とは	1
Drive Image 4.0 の新機能	1
Drive Image のシステム要件	2
第 1 章 : はじめに	
Drive Image のインストール	4
Windows で緊急用ディスクを作成する	5
緊急用ディスクの制限 (Windows NT/Windows 2000)	5
OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする	5
リムーバブルデバイスドライバをインストールする	6
NetWare クライアントでパラレルポートデバイスを使用する	6
Drive Image を起動する前に	6
Drive Image を実行する	6
Drive Image をハードディスクから実行する	6
緊急用ディスクから Drive Image を実行する	7
Drive Image をスケジュールした時間に実行する	7
Drive Image Scheduler を起動する	7
バックアップタスクをスケジュール設定する	8
スケジュール済みタスクを削除する	10
Drive Image をアンインストールする	10
オンラインヘルプの利用	10
第 2 章 : イメージファイルの作成	
概要	12
イメージファイルとハードウェア構成	12
Windows NT または Windows 2000 パーティションをコピーする	12
準備	13
イメージファイルを CD-R または CD-RW 上に作成する	13
イメージファイルを作成する	14
拡張オプション	20
事例	22
第 3 章 : イメージファイルの復元	
概要	28
CD ドライブからイメージを復元する	28
イメージファイルを復元する	28
サイズ変更オプション	35
拡張オプション	36
事例	37

第 4 章 : ディスク間のコピー	
準備	44
デュアルハードディスクシステムをセットアップする	44
手順	45
拡張オプション	53
事例	55
第 5 章 : 一般的なパーティション操作	
ドライブ情報を表示する	58
画面に表示されるドライブ情報 (パーティションマップ)	58
拡張パーティションを作成する	59
パーティションを削除する	60
パーティションを非表示にする	61
アクティブパーティションを設定する	62
第 6 章 : Drive Image File Editor	
概要	66
Drive Image File Editor のメイン画面	66
イメージを変更する	67
パーティションをイメージファイルにコピーする	67
イメージを複数のファイルに分割する	69
イメージの構成ファイルを結合する	69
イメージにパスワードを追加する	70
イメージファイルを圧縮する	70
イメージファイルの説明を追加または変更する	71
ファイルまたはパーティションを復元する	71
旧バージョンの Drive Image で作成したイメージを扱う	72
イメージファイルを検証する	72
イメージファイルを削除する	72
イメージに関する情報を表示する	73
パーティションに関する情報を表示する	74
Drive Image File Editor のオプション	74
オンラインヘルプ	75
Drive Image File Editor を終了する	75
第 7 章 : PowerQuest DataKeeper	
はじめに	78
DataKeeper のシステム要件	78
DataKeeper をインストールおよび設定する	78
システムを監視する	81
カスタムバックアップの作成	81
モバイルのサポート	84
バックアップを復元する	85
バックアップのバージョンの表示	86

Windows ショートカットから DataKeeper を起動する	86
コマンドラインオプション	87
ヘルプの利用	88
DataKeeper を終了する	88
付録 A: その他の操作	
SCSI ハードディスクドライブで Drive Image を使う	90
ドライブオーバーレイソフトウェアと一緒に Drive Image を使う	90
ノート PC で Drive Image を使う	93
Castlewood ORB ドライブで Drive Image を使う	93
CD-ROM にドライブレターを割り当てる	94
Ghost イメージファイルを Drive Image ファイルに変換する	96
PQCVT.BAT を使用する	96
PQCVT2.BAT を変更する	97
複数のファイルを変換する	97
国際キーボードを使う	98
ジャンパ設定を見つける	98
付録 B: リムーバブルメディアドライブの設定	
ネットワーククライアントでリムーバブルメディアを使用する	99
lomega ドライバ	100
GUEST.INI ファイルを編集する	100
ASPI マネージャについて	101
lomega ドライブにドライブレターを割り当てる	102
MO ディスクドライブ	102
MO ドライバのインストール	102
オプションのスイッチ	103
ASPI マネージャと対応アダプタ	104
付録 C: トラブルシューティング	
CD-ROM ドライブにアクセスする	110
Drive Image の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する	111
MEMMAKER を実行する	111
F8 キーでプログラムのロードを中止する	111
オペレーティングシステムの起動ディスクを作成する	111
CONFIG.SYS ファイルを起動ディスクに作成する	112
オペレーティングシステム圧縮ファイルを削除する	113
診断エラーを修復する	113
パーティションテーブルエラーを修復する	114
パーティションテーブルとウィルス	114
PARTINFO を使って診断レポートを作成する	115
エラーメッセージと解決策	115

付録 D: テクニカルサポート	
テクニカルサポートへ連絡する前に	118
テクニカルサポートフォーム	118
テクニカルサポートを受けるための条件	118
テクニカルサポートの連絡先	119
補足	119
用語集	121
索引	125

序章

Drive Image とは

Drive Image は、ハードディスクドライブの完全なイメージを高速に作成できる低コストの製品です。ファイルをファイル単位でコピーするユーティリティとは異なり、Drive Image では、SmartSector® によるイメージ作成機能を使って、ハードディスク全体または個々のパーティションのイメージを正確に作成します。

Drive Image により、ネットワークドライブ、Jaz、Zip、MO、CD、またはそのほかのリムーバブルメディアデバイス上に、ハードディスク全体または個々のパーティションのイメージファイルを圧縮形式で作成したり、復元することができます。Drive Image では SmartSector のイメージ作成機能が使用されていますので、個人用に最適化した Windows 環境をそのまま復元することができます。Drive Image の SmartSector イメージ作成機能は、FAT、FAT32、NTFS、HPFS、Linux Ext2、および Linux Swap に対応しています。Linux 以外の UNIX と NetWare の場合は、イメージはセクタ単位で作成されます。PowerQuest 社の ServerMagic には、NetWare サーバーのイメージ作成用に開発された Server Image が組み込まれていますので、合わせてご利用ください。

ハードウェア構成が変わるとオペレーティングシステムの競合が発生する可能性がありますので、Drive Image は、異なるハードウェア構成のシステムで使用するためのハードディスクドライブのコピーやイメージ作成はサポートしていません。

Drive Image 4.0 の新機能

- CD-R と CD-RW のサポート
- イメージサイズの推定
- 非表示の FAT、FAT32、および NTFS パーティション上でのイメージの作成
- イメージ状態チェッカー
- Drive Image File Editor の機能向上
- Windows Me のサポート

また、Drive Image CD には、PowerQuest® DataKeeper™ が付属しています。DataKeeper を使用すると、システムのドライブをモニタして、ファイルを連続的にバックアップすることができます。77 ページの「PowerQuest DataKeeper」を参照してください。

Drive Image のシステム要件

ハードウェア / ソフトウェア	要件
プロセッサ	Intel 386SX (Intel 486 以降を推奨)
RAM	16MB(32MBを推奨。FAT32またはNTFSでは32MBが必要)
3.5 インチフロッピー ディスクドライブ	3.5 インチフロッピーディスクドライブ (DOS のみのコン ピュータまたは OS/2 コンピュータ)
CD-ROM ドライブ	必要 (速度の指定なし)。CD にイメージを直接作成するた めの IDE または SCSI 接続の CD-R または CD-RW ドライブ
ハードディスクの 空き領域	8MB
オペレーティング システム	Windows 95、98、Windows Me、NT Workstation 3.51 また は 4.0、Windows 2000 Professional、DOS 5.0、OS/2
モニタ	VGA (SVGA を推奨)
ポインティングデバイス	任意 (マウスを推奨)

重要： Drive Image は、Windows NT Server、Windows 2000 Server、Windows 2000 Advanced Server では使用できません。

DOS または OS/2 コンピュータ上では、Drive Image を緊急用ディスクから実行する必要があります。5 ページの「OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする」を参照してください。

Drive Image File Editor を使うには、Windows 95、Windows 98 または Windows NT Workstation が必要です。

第 1 章

はじめに

この章で説明する内容は次のとおりです。

- Drive Image のインストール
- Windows で緊急用ディスクを作成する
- OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする
- リムーバブルデバイスドライバをインストールする
- Drive Image を起動する前に
- Drive Image を実行する
- Drive Image をアンインストールする
- オンラインヘルプの利用

Drive Image のインストール

Drive Image は、次のいずれかのオペレーティングシステムからインストールできます。

- Windows 95/98
- Windows Me
- Windows NT Workstation 4.0
- Windows 2000 Professional

DOS または OS/2 を使用している場合は、5 ページの「OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする」を参照してください。

1. CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. CD の自動実行が有効になっている場合、Drive Image CD を CD-ROM ドライブに挿入すると、インストールプログラムが自動的に起動されます。CD の自動実行が有効になっていない場合は、[スタート] [ファイル名を指定して実行] をクリックして「*drive:¥SETUP*」と入力し (*drive* は CD-ROM ドライブのドライブレター)、[OK] をクリックします。

次のオプションが示されます。

- [インストール]: Drive Image をローカルハードディスクにインストールします。
 - [緊急用ディスクの作成]: いくつかのディスクを作成します。これには、起動フロッピーと、Drive Image を DOS から起動できるようにするプログラムディスクが含まれます。
 - [ドキュメント]: Drive Image、エラーメッセージ、Windows SysPrep ツール、ハードディスクの基本概念などの、各種 PDF マニュアルを表示します。
3. 必要に応じたオプションを選択して、画面上の指示に従います。
 4. インストール処理の最後に、緊急用ディスクを作成することができます。

緊急用ディスクは作成することをお奨めします。緊急用ディスクは、ハードディスクが起動不能になった場合や、Windows にアクセスできない場合に、緊急用ディスクからコンピュータを起動して Drive Image を実行できます。

Drive Image 4.0 は、コンピュータにインストールされている旧バージョンの Drive Image を上書きしません。以前のバージョンをアンインストールする方法については、10 ページの「Drive Image をアンインストールする」を参照してください。

Windows で緊急用ディスクを作成する

Drive Image の緊急用ディスクは、Windows 95 以降で作成できます。Drive Image のディスクは 3 枚あります。1 つは、DOS 起動ディスクです。残りの 2 つのディスクには、Drive Image のプログラムが含まれます。ハードディスクに障害が発生した場合や、Windows にアクセスできない場合に、緊急用ディスクから Drive Image を実行することができます。

1. Drive Image インストールプログラムの [緊急用ディスクの作成] オプションを選択します。

緊急用ディスクの制限 (Windows NT/Windows 2000)

Windows 95、Windows 98、および Windows Me システムでは、Drive Image はオペレーティングシステムの DOS ファイルを使用して 1 枚目の緊急用ディスクを作成します。Windows NT および Windows 2000 システムの場合、Drive Image は Caldera DOS を使用します。

Caldera DOS を使用して緊急用ディスクから起動する場合、Drive Image は以下の制限を受けます。

- NTFS パーティションが表示されません。
- 1024 シリンダ境界をまたいでいたり、超過したパーティションは表示されません。
- 1024 シリンダ境界をまたいでいたり、超過した拡張パーティションに存在するパーティションは表示されません。

Drive Image 起動ディスク (3 枚のディスクのうちのディスク 1) の代わりに Windows 95/98 起動ディスクを使用することで、上記の制限を回避できます。

これらの制限を除けば、緊急用ディスクから実行した Drive Image の機能はハードディスクから実行した場合と同じです。

OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする

OS/2 および DOS のみのコンピュータでは Windows ベースのインストールプログラムを実行できないため、OS/2 および DOS のみのシステムに Drive Image をインストールするには、Drive Image CD の SETUP¥OS2DOS ディレクトリにある MAKEDISK.BAT ファイルを実行する必要があります。

このバッチファイルは、3 つの緊急用ディスクを作成します。1 つは、DOS 起動ディスクです。これには、リムーバブルメディアアダプスドライバも含まれます。残りの 2 つのディスクには、Drive Image プログラムが含まれます。上記の緊急用ディスクの制限に注意してください。

リムーバブルデバイスドライバをインストールする

セットアップ中に、Iomega および MO リムーバブルメディアデバイスのドライバをインストールできます。

- Iomega ドライバをインストールする場合は、インストール時に Iomega ドライバを選択します。
- MO ドライバをインストールする場合は、MO ドライバを選択してから、必要なドライブタイプ (ATAPI または SCSI) を選択します。

個々のデバイスドライバの詳細については、メーカーに直接お問い合わせください。Iomega および MO ドライバのセットアップの詳細については、99 ページの「リムーバブルメディアドライブの設定」を参照してください。

NetWare クライアントでパラレルポートデバイスを使用する

パラレルポートのデバイスドライバをネットワーククライアントと一緒にロードすると、システムが停止する場合があります。パラレルポートデバイスのデバイスドライバを安全にロードするには、ネットワーククライアントをロードせずにシステムを再起動してください。インストールプログラムで作成した起動ディスクセットを使用することもできます。この問題の解決方法の詳細については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Drive Image を起動する前に

Drive Image を実行する前に、次の操作を行うことをお勧めします。

- 元のドライブの各パーティションに対し、ScanDisk (Windows 95/98) または CHKDSK /F (Windows NT Workstation または Windows 2000 Professional) などのディスクユーティリティを実行し、ファイルシステムのエラーを調べます。
- OS/2 の拡張属性を含む FAT パーティションを復元する際にパーティションのサイズが変更される場合は、その各パーティションに 5MB 以上の未使用領域があることを確認します。
- Drive Image の緊急用ディスクを作成します。5 ページの「OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする」を参照してください。

Drive Image を実行する

Drive Image は、ハードディスクまたはフロッピーディスクから実行できます。

Drive Image をハードディスクから実行する

1. Windows 上で実行しているアプリケーションをすべて終了します。
2. [スタート] [プログラム] [PowerQuest Drive Image 4.0] [Drive Image 4.0] をクリックします。

緊急用ディスクから Drive Image を実行する

1. 起動ディスク (1 枚目の Drive Image 緊急用ディスク) を挿入します。

起動ディスクと Drive Image フロッピー (緊急用ディスク) を作成する方法については、5 ページの「OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする」を参照してください。

イメージを CD-R に作成する場合は、Drive Image を実行する前に PQPACKET.EXE をロードする必要があります。1 枚目の Drive Image 緊急用ディスクではなく独自の起動ディスクを使用する場合は、PQPACKET.EXEを手動でロードする必要があります。

2. コンピュータを再起動します。

DOS がロードされ、A: プロンプトを表示します。

3. Drive Image プログラムフロッピー (Drive Image フロッピーセットのディスク 2) を挿入します。

4. 「PQDI」と入力し、Enter キーを押します。

Drive Image を緊急用ディスクから実行した場合は、いくつかの制限があります。5 ページの「緊急用ディスクの制限 (Windows NT/Windows 2000)」を参照してください。これらの制限を除けば、緊急用ディスクから実行した Drive Image の機能はハードディスクから実行した場合と同じです。

Drive Image をスケジュールした時間に実行する

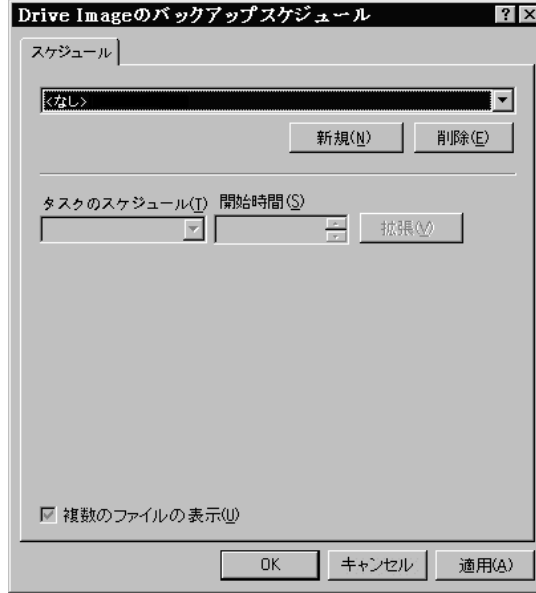
Drive Image Scheduler を使用して、Drive Image を指定した時刻や間隔で実行することができます。Drive Image Scheduler は、単に Drive Image の起動を求めるプロンプトを表示するだけです。コンピュータ上の特定のドライブを自動的にバックアップするではありません。

重要： Drive Image Scheduler は、Windows のタスク機能に基づいています。このため、Windows のインストール時に [タスク] をインストールしていない場合は、Drive Image Scheduler は使用できません。

Drive Image Scheduler を起動する

1. Windows の [スタート] メニューから [プログラム] [PowerQuest Drive Image 4.0] [Drive Image Scheduler] をクリックします。

[Drive Image のバックアップスケジュール] ダイアログボックスが表示されます。



バックアップタスクをスケジュール設定する

1. [Drive Image バックアップスケジュール] ダイアログボックスで、[複数のスケジュールを表示する] チェックボックスがマークされていることを確認します。

1 つのバックアップスケジュールだけを作成する場合は、[複数のスケジュールを表示する] のマークを外して、手順 3 に進みます。

2. [新規] をクリックします。
3. [タスクのスケジュール] ドロップダウンリストから、バックアップの実行間隔を選択します。

Drive Image を実行する頻度を指定するオプションを選択します。次に、選択したオプションの詳細を指定します。

オプション	詳細
[日単位]	<ul style="list-style-type: none">• 開始時刻• 日 (毎日、1 日ごと、など)
[週単位]	<ul style="list-style-type: none">• 開始時刻• 週 (毎週、1 週おき、など)• 曜日

オプション	詳細
[月単位]	<ul style="list-style-type: none"> 開始時刻 日にち(1, 15など)または相対日付(月の第1月曜日など)日にちとして 29、30、または 31 を選択した場合は、タスクはその日にちを含む月にだけ実行されます。 タスクを実行する月(1月、2月など)
[1回のみ]	<ul style="list-style-type: none"> 時刻 バックアップを実行する正確な日付
[システム起動時]	このオプションを選択すると、コンピュータの起動時に Drive Image が起動されます。
[ログオン時]	このオプションを選択すると、コンピュータへのログイン時に Drive Image が起動されます。
[アイドル時]	このオプションを選択すると、指定した分数だけコンピュータがアイドル状態だったときに Drive Image が起動されます。

[日単位]、[週単位]、[月単位]、および [1回のみ] オプションには、オプションの詳細設定があり、タスクの開始日や終了日を指定できます。

4. [OK] をクリックします。

スケジュール設定されたタスクが、Windows のタスクフォルダに表示されます。スケジュール設定されたタスクを表示するには、Windows デスクトップのマイコンピュータを右クリックして、[開く] をクリックし、[タスク] をダブルクリックします。

上記の手順を繰り返すことで、別のバックアップスケジュールも作成できます。新しいバックアップスケジュールを作成するごとに、[スケジュール] タブの上部にあるドロップダウンリストにタスクが追加されます。([複数のスケジュールを表示する] を選択している必要があります。) 特定のスケジュール済みタスクを起動したい場合は、単にそれをドロップダウンリストから選択して、[OK] をクリックします。

既存のスケジュール済みバックアップタスクを編集するには、Windows のタスクフォルダで [Drive Image のバックアップ] をダブルクリックして、[スケジュール] タブをクリックします。

スケジュール済みタスクを削除する

複数のスケジュールを作成している場合、必要なくなったスケジュールをドロップダウンリストから削除できます。

1. [Drive Image のバックアップスケジュール] ダイアログボックスで、[複数のスケジュールを表示する]チェックボックスがマークされていることを確認します。
2. [スケジュール]タブの上部にあるドロップダウンリストからスケジュール済みタスクを選択します。
3. [削除]をクリックします。

Drive Image をアンインストールする

1. [スタート] [プログラム] [PowerQuest Drive Image 4.0] [Drive Image のアンインストール]をクリックします。
または、[スタート] [設定] [コントロールパネル] [アプリケーションの追加と削除] [Drive Image 4.0]をクリックすることもできます。
2. 以降は、画面に表示される指示に従って操作してください。

オンラインヘルプの利用

1. [ヘルプ] [目次]をクリックすれば、Drive Image ヘルプを使用するための全般的な説明が表示されます。または、いつでも F1 キーを押してヘルプ索引を表示できます。

Drive Image File Editor は Windows プログラムであり、完全な Windows ヘルプシステムが用意されています。

第 2 章

イメージファイルの作成

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 概要
- イメージファイルとハードウェア構成
- Windows NT または Windows 2000 パーティションをコピーする
- 準備
- イメージファイルを作成する
- 拡張オプション
- 事例

概要

Drive Image を使用して、DOS によってドライブレターを割り当てられた任意の物理ドライブや論理ドライブ、たとえばフロッピードライブ、第2ハードディスクドライブ、CD-R または CD-RW ドライブ、ネットワークドライブ、およびリムーバブルメディアドライブである Jaz、Zip、および MO ドライブなどにイメージファイルを作成できます。

また、非表示の NTFS、FAT、および FAT32 パーティションや、ドライブレターを割り当てられていない IDE または SCSI 接続の CD-R や CD-RW ドライブ上にもイメージファイルを作成できます。

あるドライブがイメージファイルの保存に使用できるかどうか不明な場合は、[参照] をクリックすると使用可能なドライブがすべて表示されます。

イメージファイルとハードウェア構成

ハードウェア構成が変わるとオペレーティングシステムの競合が発生する可能性があるの
で、Drive Image は、異なるハードウェア構成のシステムで使用するためのハードディスク
ドライブのコピーやイメージ作成はサポートしていません。

あるコンピュータ上でイメージを作成し、そのイメージをハードウェア構成が異なるコン
ピュータ（マザーボードやビデオカードが異なるコンピュータなど）で復元すると、オペ
レーティングシステムが正常に起動しない場合があります。したがって、イメージの作成
と復元は、ハードウェア構成が同一のコンピュータ間でのみ行うことをお勧めします。

ハードディスクのイメージ作成などの処理に際して、オペレーティングシステムなどのソ
フトウェアをコピーする場合は、ソフトウェアの製造元のライセンス契約の内容に留意し
てください。

Windows NT または Windows 2000 パーティションを コピーする

Drive Image を使って、Windows がインストールされている Windows NT または Windows
2000 パーティションをコピーすると、BOOT.INI ファイルに関連する問題が発生する場
合があります。BOOT.INI ファイルには、Windows ロードの起動オプションおよび Windows
パーティションの順序に関する情報が記述されています。Drive Image を使って Windows
パーティションをコピーした結果パーティションの順序が変更された場合、Windows NT
または Windows 2000 オペレーティングシステムファイルの新しい順序が BOOT.INI ファ
イルに反映されないことがあります。この結果、Windows パーティションを起動できな
くなります。

PowerQuest は BOOT.INI ファイルの更新および編集を可能にする方法を開発しました。実
行ファイルは NTFSIN1.EXE です。詳細（英語）については、PowerQuest の Web サイト
(www.powerquest.com/support/pm/pm6076.html) をご覧ください。

準備

1. Drive Image でイメージを作成する前に、ScanDisk や Norton の Disk Doctor などのディスクユーティリティプログラムを使ってハードディスク上のエラーを検出し、エラーがあれば修復します。

Windows NT Workstation および Windows 2000 ユーザーの場合は、CHKDSK /F を実行してください。

2. ディスクの断片化を修復するユーティリティを使って、ハードディスクドライブを最適化しておくとなおよいでしょう。
3. イメージファイルを作成する前に、BIOS でのウイルス検出機能を無効にしておいてください。

ウイルス検出機能を有効にしたまま [完了] をクリックすると、Drive Image が停止してしまうことがあります。

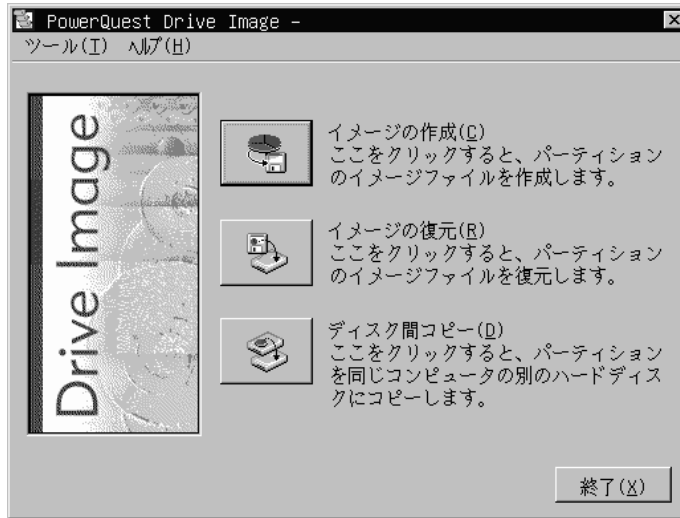
4. イメージを作成するドライブが DOS で使用可能であることを確認します。使用可能なドライブを表示するには、[イメージファイル名] 画面で [参照] をクリックします。詳細については、16 ページの手順 6 を参照してください。イメージを作成する前には、リムーバブルメディアのセットアップ、およびネットワークドライブにアクセスするための起動ディスクの作成が必要です。

イメージファイルを CD-R または CD-RW 上に作成する

Drive Image では、CD-R メディアに直接イメージファイルを作成できます。ただし、以下の条件が満たされていない場合、CD-R ドライブはイメージファイルの対象先ドライブとして認識されません。

- CD-R または CD-RW ドライブは IDE または SCSI 接続にする。USB や FireWire 接続の CD-R ドライブはサポートされません。
- HIMEM.SYS を CONFIG.SYS ファイルにロードする。
- EMM386.EXE を CONFIG.SYS ファイルにロードしない。
- PQPACKET.EXE を実行してから、Drive Image 実行ファイルの PQDI を動作させる。Drive Image をメインインストールディレクトリまたは緊急用ディスクから起動した場合、PQPACKET は自動的に実行されます。Drive Image を別のディレクトリから起動する場合は、その前に PQPACKET を検索して手動で実行しておく必要があります。Drive Image を別のドライブから起動する場合は、PQPACKET を実行してから Drive Image を起動するようにバッチファイルを作成することもできます。
- CD-RW メディアにイメージを作成する場合、そのメディアは空で未フォーマット状態でなければなりません。

イメージファイルを作成する



1. イメージファイルを作成する前に、ドライブ上で ScanDisk を実行します。
2. Drive Image のメイン画面で [イメージの作成] をクリックします。
[元のドライブの選択] 画面が表示されます。



3. イメージファイルにしたいパーティションがあるハードディスクを選択します。
コンピュータ上にあるすべてのハードディスクのパーティションを選択するには、**[全ディスク]**をクリックします。

4. **[次へ]**をクリックします。

[元のパーティションの選択]画面が表示されます。この画面には、選択したハードディスクにあるすべてのパーティションが表示されます。画面の上部のパーティションマップには、ハードディスクの内容がグラフィカルに表示されます。2GBのブートコード境界が青のインジケータ(三角マーク)で示され、1024のシリンダ境界が黒のインジケータで示されます。インジケータは、起動可能にするパーティションを作成するときに便利です。多くのオペレーティングシステムではハードディスクの最初の2GB内に起動コードを置く必要があるからです。



5. イメージファイルに含めるパーティション(元のパーティション)をパーティションリストから選択するか、**[全てを選択]**をクリックしてすべてのパーティションを自動的に選択します。

コンピュータ上にあるすべてのパーティションを表示するには、画面をスクロールする必要があるかもしれません。コンピュータに複数のハードディスクがある場合、パーティションリストの最初の列には、パーティションが存在する物理ハードディスクが表示されます。

パーティションの選択を解除するには、パーティションをもう一度クリックします。すべてのパーティションの選択を一度に解除するには、**[選択なし]**をクリックします。

6. [次へ] をクリックします。



7. [イメージファイル] フィールドにイメージファイルのパスとファイル名を入力します。たとえば、「D:\MYIMAGE.PQI」と入力します。

イメージファイルは、イメージファイルに含めないパーティションに保存してください。[参照]をクリックして、イメージファイルの保存先ディレクトリを検索することもできます。CD-R のドライブレターを入力するだけでは CD にイメージを保存できません。[参照]をクリックして、CD-R または CD-RW ドライブを選択してください。CD ドライブはリストに ¥¥.¥pqcdx¥ ドライブ名として表示されます。x は CD ドライブの番号です。

[参照]をクリックすると [新規イメージファイル] ダイアログボックスが表示されるので、そこから非表示の NTFS、FAT、または FAT32 パーティションを選択してイメージを保存することもできます。非表示の NTFS パーティションは、[ドライブ] リストに ¥¥.¥Diskn.Partm という名前が表示されます。n はディスクの番号で、m はそのディスク上のパーティションの番号です。ドライブおよびパーティション番号は 0 で始まります。NTFS パーティションが最初のディスク上の 3 番目のパーティションである場合は、¥¥.¥Disk0.Part2 と表示されます。非表示のパーティションを更に詳しく識別するために、ボリュームラベルがある場合はそれが表示されます。

既存のイメージファイルを上書きしたくなければ、同じ名前のイメージファイルが既に存在していないことを確認してください。デフォルトでは、イメージファイル名の拡張子は .PQI です。

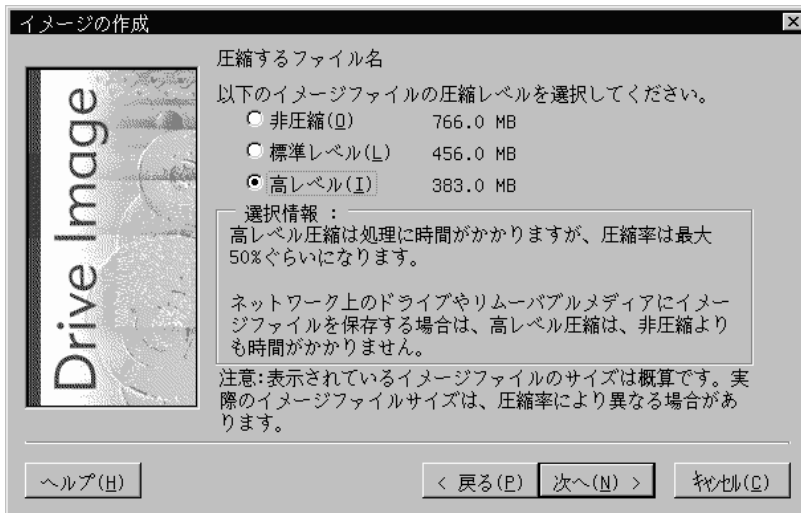
重要： ファイル名には、スペースや拡張文字を使用しないでください。日本語も使用できません。ファイル名にスペースや拡張文字が含まれていると、Drive Image、DOS、または Drive Image File Editor からイメージファイルにアクセスできない場合があります。

Drive Image の実行中にネットワークドライブにアクセスするには、DOS 起動ディスクを作成しなければならない場合があります。ネットワーク管理者に相談して正しいネットワークドライバを入手し、Drive Image の 1 枚目の緊急用ディスクにコピーしてください。

8. (必要に応じて)[イメージファイルのコメント]フィールドに、イメージファイルについての短いコメントを入力します。

イメージファイルについてのコメントは、(半角英数字)232文字まで入力できます。Drive Image は、ドライブ、パーティション、およびラベルに関する情報を自動的に挿入します。

9. [次へ]をクリックします。



10. 圧縮レベルを選択します。

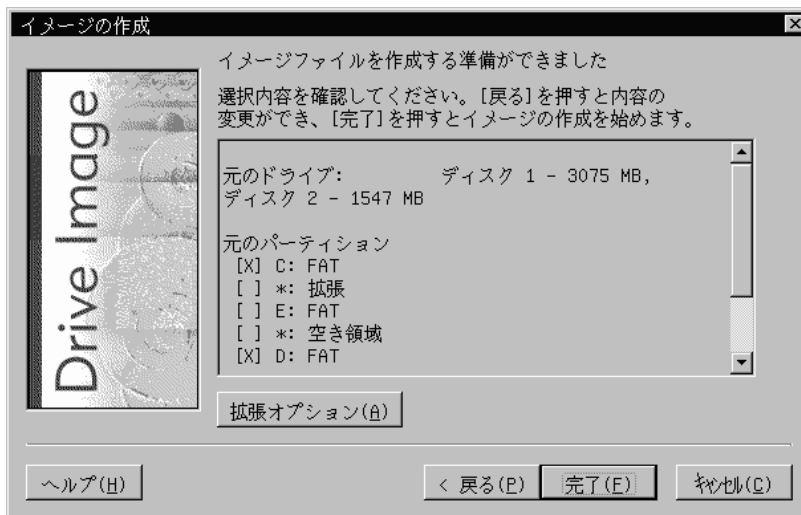
Drive Image は、圧縮の各レベルに対するイメージファイルのサイズを推定します。リムーバブルメディア上にイメージファイルを作成している場合、Drive Image ではイメージファイルを保存するのに必要なメディアの数も推定します。表示される数値は概算です。実際のイメージファイルサイズは、圧縮率により異なる場合があります。

- [非圧縮]は、イメージファイルの作成方法のうち、最も高速な方法であり、空き領域が十分ある場合に効果的です。ただし、混雑したネットワークドライブや比較的速度の遅いリムーバブルメディアにイメージファイルを保存するときは、ファイルを圧縮した方が処理が速い場合があります。ファイルを圧縮すると、データの転送量が少なくなるためです。デフォルトでは、[非圧縮]が選択されています。
- [標準レベル]の圧縮率は、平均 40% です。
- [高レベル]の圧縮率は、平均 50% です。

最新バージョンの Drive Image を使って作成したイメージファイルは、以前のバージョンの Drive Image では読み込めません。つまり、Drive Image 4.0 で作成したイメージファイルは、それ以前のバージョンでは読み込めません。Drive Image 4.0 では、Drive Image の旧バージョンで作成されたイメージファイルを読み込みます。

11. [次へ]をクリックします。

この時点までに入力した情報がすべて表示されます。



設定した情報を変更したいときは、[戻る]をクリックしてください。

12. (必要に応じて)[拡張オプション]をクリックすると、(リムーバブルメディア用に)イメージファイルの分割、ファイルシステムエラーの診断または SmartSector コピーの無効化、イメージファイルのパスワード保護、および作成したイメージファイルの状態検証やディスクの書き込み検証を選択できます。

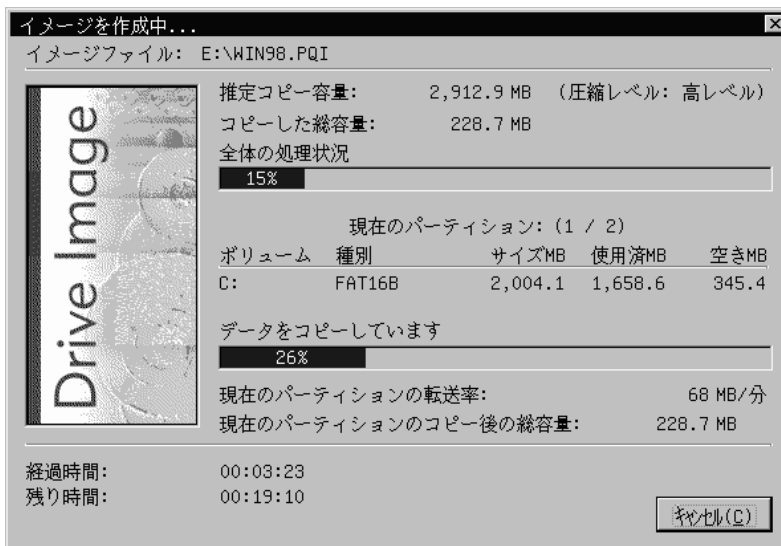
詳細については、20 ページの「拡張オプション」を参照してください。

13. [完了]をクリックして、イメージファイルの作成を開始します。

手順 6 で既存のイメージファイル名を入力した場合、指定した <パスとファイル名> が既に存在することを通知するメッセージが表示されます。この場合、既存のイメージファイルを上書きするか、新しい別のイメージファイルの名前を指定してください。[アップグレード]をクリックすると、既存のイメージファイルがただちに削除されます。

イメージファイルをフロッピーディスクやリムーバブルメディアに保存しようとする、メディア分割機能が自動的に有効になり、イメージファイルを複数のディスクに分割できるようになります。イメージファイルを保存するディスクには、それぞれ最低 100 KB の空き領域が必要です。メディア分割機能を使う場合は、イメージファイルを復元するときにディスクを正しい順番で挿入しなければならないので、ディスクに番号を付けておくようにしてください。

[イメージを作成中] ダイアログボックスが表示されます。



処理が完了すると、次のメッセージが表示されます。「イメージファイルが作成されました:<イメージファイル名>」

14. [OK] をクリックして、Drive Image のメイン画面に戻ります。

重要： ハードウェア構成の相違が原因でオペレーティングシステムの競合が発生する可能性があるため、ハードウェアが異なるシステム上で作成したイメージを復元しないでください。

拡張オプション

[イメージファイルを作成する準備ができました]画面で[拡張オプション]をクリックすると、[イメージ作成拡張オプション]ダイアログボックスが表示されます。

オプション	目的
[ファイルシステムエラーの診断]	<p>エラーを診断しない場合は、[ファイルシステムエラーの診断]チェックボックスからマークを外します。</p> <p>ScanDisk などのディスクユーティリティプログラムで既にハードディスクドライブのエラーを診断してある場合は、Drive Image でファイルシステムのエラーを診断する必要はありません。[ファイルシステムエラーの診断]チェックボックスからマークを外すと、パーティションのコピーにかかる時間を節約できます。</p> <p>Drive Image をロードする前にディスクユーティリティプログラムを実行しなかった場合は、[ファイルシステムエラーの診断]チェックボックスのマークを付けたままにしてください。ScanDisk では、Drive Image の診断機能を使用した場合よりも多くのエラーが発見されます。</p>
[SmartSector コピーを使用しない]	<p>Drive Image の SmartSector テクノロジーは、データが含まれているクラスタやセクタだけをコピーすることにより、データのコピーを高速化します。しかし、厳しいセキュリティが設定されている環境で使用している場合など、データの有無にかかわらず元の状態のまますべてのクラスタやセクタをコピーした方がよい場合もあります。</p> <p>すべてのクラスタやセクタをコピーする場合は、[SmartSector コピーを使用しない]チェックボックスをマークします。[SmartSector コピーを使用しない]チェックボックスをマークすると、処理時間が長くなり、イメージファイルのサイズが大きくなります。</p>
[ディスクの書き込み検証]	<p>ディスクにデータが書き込まれていることを Drive Image で検証する場合に、このオプションを選択します。ディスクの書き込み検証は必須ではありません。この検証によって、イメージファイルの作成がかなり遅くなる場合があります。</p> <p>CD-R に新しいイメージファイルを作成する場合、このオプションはデフォルトで選択されており、異なる機能も実行されます。CD にイメージファイルを焼き付けた後、Drive Image はイメージファイルが CD から読み込めるかどうかを確認します。したがって、イメージに問題が生じた場合は再作成できます。CD-R に対してこのオプションを選択しても、イメージファイルのサイズは変わりません。</p>

オプション	目的
[イメージファイルの検証]	<p>このオプションを選択すると、Drive Image では以下の機能が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ内のすべてのファイルが開けるかどうかを検査する。 • イメージファイル内の内部データ構造が、使用可能なデータと一致するかどうかを検査する。 • イメージファイルが圧縮解除でき、元どおりのサイズのデータが作成されるかを検査する。 • 作成されたイメージファイル内のデータが、イメージ化されたディスクの内容と一致するかどうかを検査する。
[イメージファイルのパスワード保護]	<p>Drive Image は、イメージファイルが状態診断に合格したか、不合格だったかをレポートします。</p> <p>イメージファイルをパスワードで保護するには、[イメージファイルのパスワード保護]チェックボックスをマークし、[パスワード]フィールドにパスワードを入力します。パスワードの大文字と小文字は区別されます。パスワードを変更するか、元に戻すには、Drive Image File Editor を使う必要があります。70 ページの「イメージにパスワードを追加する」を参照してください。</p> <p>重要： イメージファイルのパスワードは、安全な場所に保管しておいてください。パスワードを忘れると、ファイルを復元できなくなります。</p>
[イメージファイルを分割して保存]	<p>イメージファイルを作成した後にリムーバブルメディアにコピーする場合は、Drive Image によって大きなイメージを小さなファイルに分割できます。ファイルを分割するには、[イメージファイルを分割して保存]チェックボックスをマークし、[ファイルサイズ(バイト)]フィールドに各イメージファイルの最大サイズをバイト単位で入力します。イメージファイルを CD に保存する場合は、ファイルサイズとして 650,000,000 (およそ 650MB) 以下にするとよいでしょう。</p>

事例

Zip ドライブにイメージファイルを作成する

システム構成

1.2GB のハードディスクドライブ 1 台

- 800MB のアクティブな基本 FAT パーティション (C:)。Windows 95 で動作し、使用済み領域は 300MB、未使用領域は 500MB。
- 1 つの論理 FAT パーティションを含む 400MB の拡張パーティション (D:)。400MB のうち、使用済み領域は 350MB、未使用領域は 50MB。

Zip ドライブ (E:) 1 台。250MB のカートリッジ付き。

目的

ハードディスクドライブの論理パーティション (D:) のイメージファイルを作成し、Zip ドライブに保存します。

手順

1. Drive Image のインストール時に、Iomega ドライバをインストールするオプションを選択します。
2. D: パーティションに対して ScanDisk を実行してエラーを検出し、エラーがあれば修復します。
3. イメージファイルのサイズが 1 枚の Zip ディスクに収まらない大きさになるため、複数のディスクに分割してイメージを作成します。

1 枚目の Zip ディスクに、「MYIMAGE DISK #1」というラベルを貼ります。イメージファイルの作成中に別のメディアが必要になると、新しいメディアの挿入を求めるプロンプトが表示されます。以降、新しく作成する Zip ディスクに、順番に「MYIMAGE DISK #2」、「MYIMAGE DISK #3」というようにラベルを貼ります。

4. Zip ディスクをフォーマットし、カートリッジのエラーを検出して修復します。
5. Drive Image を実行します。

Drive Image により Zip ドライブが自動的にロードされるので、Zip ドライブに割り当てられたドライブレターを書き留めておいてください。ここでは、Zip ドライブを E: とします。

6. 「MYIMAGE DISK #1」というラベルの Zip ディスクを Zip ドライブに挿入します。
7. Drive Image のメイン画面で、[イメージの作成] をクリックします。

8. 既に [ディスク 1] が選択されているはずですが、[次へ] をクリックします。
ハードディスクが 1 台しかない場合、この手順は省略されます。
9. 論理パーティション (D:) を選択し、[次へ] をクリックします。
10. [イメージファイル] フィールドに 「E: ¥MYIMAGE.PQI」 と入力します。または、
[参照] をクリックして、ドライブ E: を選択し、イメージファイル名を入力してから、
[OK] をクリックします。
11. [次へ] をクリックします。
12. 圧縮レベルとして、[高レベル] を選択します。
[高レベル] を選択すると、400MB の論理パーティションのイメージが約 50% 圧縮
されます。
13. [次へ] をクリックします。
14. [完了] をクリックします。
15. 次のメディアを挿入するように要求されたら、Zip ドライブのビジー状態を示すライ
トが消えるまで待ちます。ライトが消えたら Zip ドライブから 「MYIMAGE DISK #1」
を取り出し、「MYIMAGE DISK #2」を挿入します。
16. イメージの作成処理が完了したら、[OK] をクリックして Drive Image のメイン画面に
戻り、Drive Image を終了します。

結果

400MB の論理パーティションが、分割イメージファイルとして 2 枚の Zip ディスクに保存
されます。この論理パーティションは、パーティションを作成していない領域が 400MB
以上あるハードディスクドライブに復元できます。

Zip ドライブからイメージを復元する方法については、37 ページの 「Zip ドライブからイ
メージファイルを復元する」を参照してください。

CD-R にイメージファイルを作成する

システム構成

1.8GB のアクティブな基本パーティション (C:) が 1 つ含まれている 3GB のハードディス
クドライブ 1 台。Windows 95 で動作し、使用済み領域は 1.5GB、未使用領域は 300MB。

1 台の CD-R または CD-RW ドライブ (E:)。

目的

ハードディスクドライブのアクティブな基本パーティション (C:) のイメージファイルを作
成し、CD-R または CD-RW に保存します。

手順

1. 既にデータを含んでいる CD-RW メディアを使用する場合は、既存のファイルを CD から削除する必要があります。
2. イメージファイルのサイズが大きく、1 枚の CD(~ 900MB) に収まらないため、CD を 2 枚作成してください。
3. C: パーティションに対して ScanDisk を実行してエラーを検出し、エラーがあれば修復します。
4. Drive Image を実行します。
PQPACKET を Drive Image より先に実行してください。そうしないと CD-R ドライブが表示されません。13 ページの「イメージファイルを CD-R または CD-RW 上に作成する」を参照してください。
5. Drive Image のメイン画面で、[イメージの作成] をクリックします。
6. 既に [ディスク 1](使用しているハードディスクドライブ) が選択されています。
7. [次へ] をクリックします。
8. アクティブな基本 C: パーティションを選択して、[次へ] をクリックします。
9. [参照] をクリックして、使用可能なドライブのリストから CD-R ドライブを選択します。
ドライブ名は ¥¥.¥pqcd0¥ ドライブ名形式で表示されます。目的の CD ドライブがリストにない場合は、Drive Image に CD ドライブを認識させる方法について 13 ページの「イメージファイルを CD-R または CD-RW 上に作成する」を参照してください。
10. [ファイル名] の下にイメージファイルの名前を入力して、[OK] をクリックします。
11. [次へ] をクリックします。
12. 圧縮レベルとして、[標準レベル] を選択します。
[標準レベル] を選択すると、1.8GB の基本パーティションのイメージが約 40% 圧縮されます。
13. [次へ] をクリックします。
14. [完了] をクリックします。
15. イメージの作成処理が完了したら、[OK] をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。
これで、イメージファイルを格納している CD が最低でも 2 枚できたこととなります。CD に分かりやすいラベルを貼って、イメージファイルを後で復元できるようにします。

結果

1.8GB の基本パーティションが、2 つの分割イメージファイルとして、2 枚の CD に保存されます。この基本パーティションは、パーティションを作成していない領域が 1.8GB 以上あるハードディスクに復元できます。CD からイメージを復元する方法については、39 ページの「CD ドライブからイメージファイルを復元する」を参照してください。

第 2 ハードディスクドライブにイメージファイルを作成する

システム構成

ディスク 1: 3.5GB ハードディスクドライブ 1 台

- 1.5GB の基本 FAT32 パーティション (C:)。Windows 98 で動作し、1.5GB のうち、使用済み領域は 500MB、未使用領域は 1GB。
- 1 つの論理 FAT パーティションを含む 1GB の拡張パーティション (E:)。1GB のうち、使用済み領域は 400MB、未使用領域は 600MB。
- パーティションを作成していない 1GB の空き領域。

ディスク 2: 2GB のハードディスクドライブ 1 台

- 1GB の基本 FAT パーティション (D:)。1GB すべてが未使用領域。
- 1 つの論理パーティションを含む 1GB の拡張 FAT パーティション (F:)。1GB のうち、使用済み領域は 600MB、未使用領域は 400MB。

目的

ディスク 1 にある 1GB の論理パーティション (E:) のイメージファイルを作成し、それをディスク 2 の基本パーティション (D:) に保存します。

1. 両方のハードディスクドライブに対して ScanDisk を実行し、エラーをチェックおよび修復します。
2. Drive Image を実行します。
3. Drive Image のメイン画面で、[イメージの作成] をクリックします。
4. [ディスク 1] を選択します。
5. [次へ] をクリックします。
6. E: パーティションを選択します。
7. [次へ] をクリックします。
8. [イメージファイル] フィールドで、「D:¥MYIMAGE.PQI」と入力します。

9. 圧縮レベルとして、[非圧縮]を選択します。

[非圧縮]は、イメージファイルを作成する上で最も高速な方法です。空き領域を十分に確保できる場合は、このオプションを使うとよいでしょう。

10. [次へ]をクリックします。

11. [完了]をクリックします。

12. イメージの作成処理が完了したら、[OK]をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。

結果

ディスク 1 にある 1GB の論理パーティション (E:) のイメージは、MYIMAGE.PQI という名前のイメージファイルとして、ディスク 2 の基本パーティション (D:) に格納されます。この論理パーティションは、パーティションを作成していない領域が 1GB 以上あるハードディスクドライブに復元できます。

第 3 章

イメージファイルの復元

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 概要
- CD ドライブからイメージを復元する
- イメージファイルを復元する
- サイズ変更オプション
- 拡張オプション
- 事例

概要

この章では、Drive Image ファイルを別のドライブまたは別のパーティションに復元する方法について説明します。

重要： あるコンピュータ上でイメージを作成し、そのイメージをハードウェア構成が異なるコンピュータ（マザーボードやビデオカードが異なるコンピュータなど）で復元すると、オペレーティングシステムが正常に起動しない場合があります。したがって、イメージの復元は、ハードウェア構成が同一のコンピュータ間でのみ行うことを推奨します。

関連作業

- 圧縮または分割したイメージファイルから一部のファイルを選択して復元するには、71 ページの「ファイルまたはパーティションを復元する」を参照してください。
- 1994 年以前の BIOS を搭載したコンピュータで、イメージファイルを復元して新しいハードディスクドライブをセットアップする場合は、90 ページの「ドライブオーバーレイソフトウェアと一緒に Drive Image を使う」を参照してください。
- Ghost で作成したイメージファイルを復元するには、96 ページの「Ghost イメージファイルを Drive Image ファイルに変換する」を参照してください。

CD ドライブからイメージを復元する

PQPACKET.EXE を実行してから、Drive Image 実行ファイルの PQDI を動作させます。Drive Image をメインインストールディレクトリまたは緊急用ディスクから起動した場合、PQPACKET は自動的に実行されます。Drive Image を別のディレクトリから起動する場合は、その前に PQPACKET を検索して手動で実行しておく必要があります。

[イメージファイルの選択] 画面で [参照] をクリックすると、CD ドライブが ¥¥.¥pqcdx と表示されます。x は CD ドライブの番号です。ドライブを選択すると、イメージファイルが表示され、復元できるようになります。

CD ドライブはドライブレターで表示される場合もあります。ただし、ドライブレターは選択しないでください。¥¥.¥pqcdx で表示されるドライブ番号を指定します。

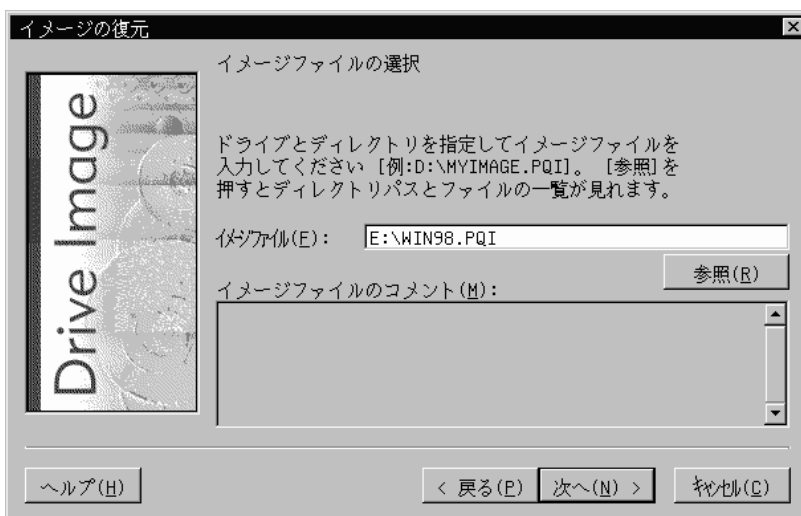
イメージファイルを復元する

1. BIOS でのウイルス検出機能を無効にします。

ウイルス検出機能を有効にしたまま [完了] をクリックしてイメージファイルを復元しようとする、Drive Image は停止してしまうことがあります。

2. Drive Image のメイン画面で、[イメージの復元] をクリックします。

3. [イメージファイル] フィールドに、復元するイメージファイルのパスとファイル名を入力します。または、[参照] をクリックして、復元するイメージファイルを選択します。



イメージファイルは、DOS によりドライブレターが割り当てられた物理ドライブまたは論理ドライブへ復元できます。このようなドライブには、フロッピーディスクドライブ、第 2 ハードディスクドライブ、ネットワークドライブ、およびほとんどのリムーバブルメディアドライブがあります。

CD からイメージを復元する場合は、28 ページの「CD ドライブからイメージを復元する」を参照してください。

Drive Image の実行中にネットワークドライブにアクセスするには、DOS 起動ディスクから Drive Image を実行しなければならない場合があります。

[参照] をクリックすると [イメージファイルを開く] ダイアログボックスが表示されるので、そこから非表示の NTFS、FAT、または FAT32 パーティションを選択してイメージを復元できます。非表示の NTFS パーティションは、[ドライブ] リストに ¥¥.¥Diskn.Partm という名前で表示されます。n はディスクの番号で、m はそのディスク上のパーティションの番号です。ディスクおよびパーティションの番号は 0 から始まります。最初のディスク上の最初のパーティションは、¥¥.¥Disk0.Part0 と表示されます。非表示のパーティションを更に詳しく識別するために、ボリュームラベルがある場合はそれが表示されます。

[参照] をクリックしてイメージファイルを選択した場合、復元する前にイメージファイルの状態を検証できます。[検証] をクリックすると、イメージのセグメント (たとえば myfile.pqi、myfile.002、myfile.003) をすべて開くことができるか、イメージファイルの内部データ構造が使用可能なデータと一致するか、イメージファイルを解凍して適切な量のデータを作成できるかなどを確認できます。Drive Image は、イメージファイルが状態診断に合格したか、不合格だったかをレポートします。

4. [次へ]をクリックします。

イメージファイルの復元を実際に開始する前であれば、いつでも[戻る]をクリックして前の手順に戻り、設定を変更することができます。

5. [対象先のドライブの選択]ダイアログボックスで、イメージファイルの復元先にする空き領域またはパーティションを含むドライブを選択します。

ハードディスクが1台しかない場合、この手順は省略されます。

6. パーティションが複数ある場合は、その中から復元したいパーティションを選択します。復元対象のパーティションを1つずつクリックして選択するか、[全てを選択]をクリックして、すべてのパーティションを選択してください。



列の幅を変更するには、列の境界線をドラッグします。

パーティションの選択を解除するには、パーティションをもう一度クリックします。すべてのパーティションの選択を一度に解除するには、[選択なし]をクリックします。

7. [次へ]をクリックします。

8. イメージファイルの復元先とする既存のパーティションまたは空き領域を選択します。

パーティションリストには、使用しているコンピュータ上のすべてのパーティションが表示されます。ハードディスクが複数ある場合は、パーティションリストの最初の列にパーティションが存在するハードディスクが表示されます。



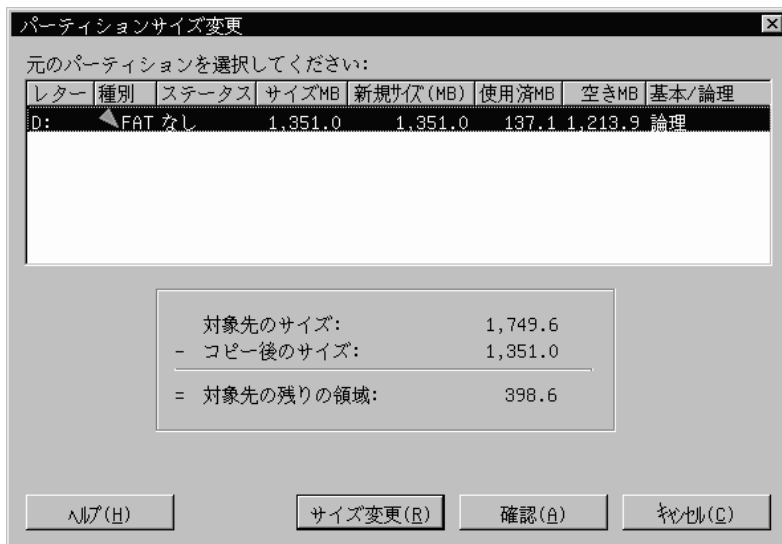
イメージを空き領域に復元すると、そのイメージ用のパーティションが作成されます。イメージの復元先とする空き領域は、少なくともそのイメージの使用済み領域と同じ大きさでなければなりません。たとえば、500MB のうち、300MB がデータに使用されている FAT32 パーティションのイメージを作成する場合、イメージの復元先には少なくとも 300MB の空き領域が必要です。NTFS パーティションの復元に関しては、NTFS パーティションはサイズ変更用にある程度の未使用領域が必要であり、パーティションに含まれるデータの量にかかわらず、マスターファイルテーブル (MFT) を下回るサイズには変更できません。

復元先のパーティションや空き領域に元のパーティションを復元するのに十分な領域がない場合、または容量の大きなドライブに、パーティションサイズを自動調整するオプションを使わずに特定のサイズを指定してイメージファイルを復元する場合は、パーティションのサイズ変更が必要になります。

パーティションのサイズを変更しない場合は、手順 14 に進んでください。

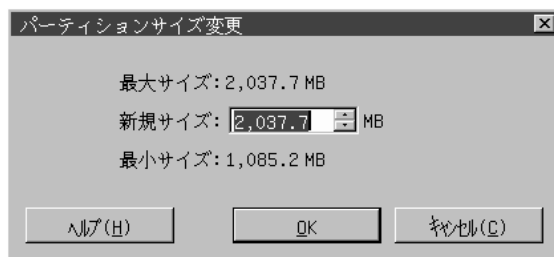
9. [元のパーティションのサイズ変更] をクリックします。

[パーティションサイズ変更] ウィンドウが表示され、復元対象として選択したパーティションが [元のパーティションを選択してください] グループボックスに表示されます。



10. [サイズ変更] をクリックします。

[パーティションのサイズ変更] ダイアログボックスが表示されます。



11. [新規サイズ] フィールドに新しいパーティションのサイズを MB 単位で入力し、[OK] をクリックします。

入力するサイズは、ダイアログボックスに表示される [最小サイズ] から [最大サイズ] までの範囲内の値にします。パーティションはシリンダ境界で終わらなければならないため、入力した新しいサイズは次のシリンダ境界までの値に丸められます。

12. [確認] をクリックします。

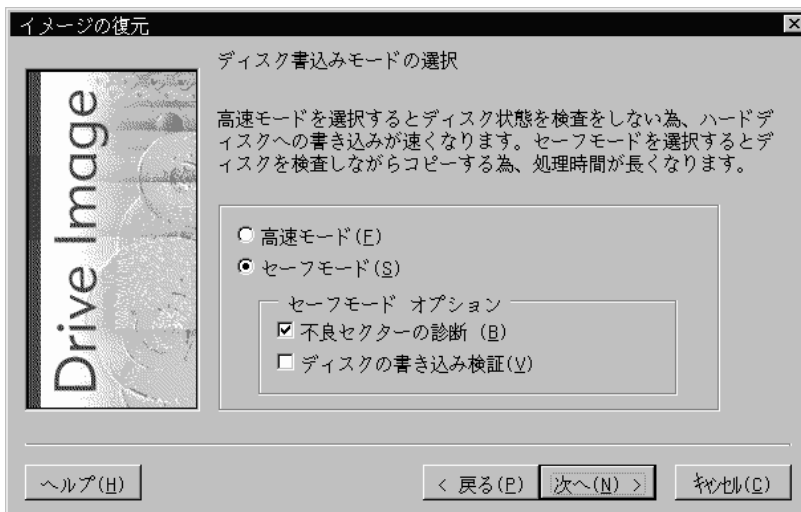
これで、イメージファイルを復元するときにパーティションのサイズが変更されます。

13. [次へ] をクリックします。

既存のパーティションを復元先として選択した場合は、イメージを復元する前に既存のパーティションが削除されるという内容のメッセージが表示されます。選択したパーティションは、[復元の準備ができました]画面で[完了]をクリックするまで削除されません。[完了]をクリックする前に復元処理をキャンセルした場合、パーティションはそのまま残ります。

復元先のドライブの空き領域が選択したパーティションの復元に必要な領域よりも大きい場合は、[サイズ変更オプション]ダイアログボックスが表示されます。詳細については、35 ページの「サイズ変更オプション」を参照してください。

[ディスク書き込みモードの選択]画面が表示されます。

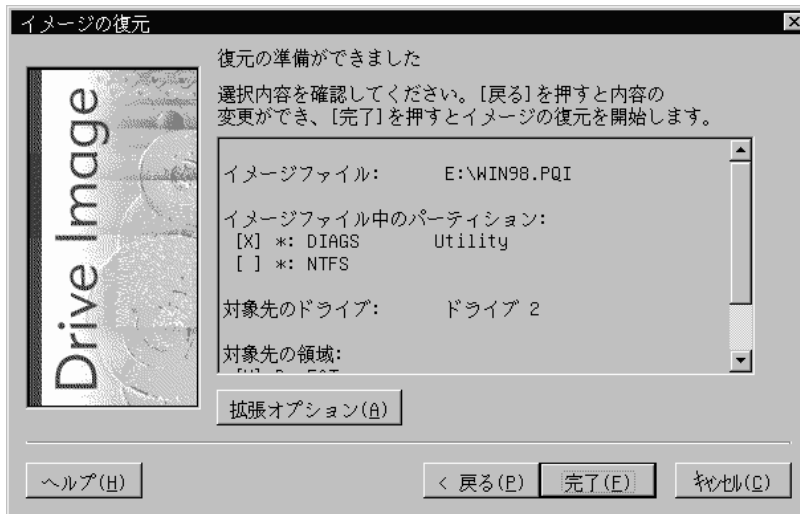


14. ディスク状態を診断せずにデータを高速でコピーする場合は、[高速モード] をクリックします。ディスク状態を診断しながらデータをコピーする場合は、[セーフモード] をクリックします。

[セーフモード] を選択すると、データのコピー時間が長くなります。[セーフモード] を選択すると、ハードディスクの不良セクタの診断と、ディスクの書き込みの検証を選択できます。不良セクタの診断は、コピー先のディスクが古いモデルの場合や、ディスクの状態が不明な場合に有効です。ディスクの書き込み検証を選択すると、コピー後のデータが検証され、そのデータを読み取れるかどうか診断されます。ディスクの書き込みを検証すると、データのコピー時間が大幅に長くなります。このオプションは必要に応じて指定します。

15. [次へ] をクリックします。

この時点までに入力した情報がすべて表示されます。設定した情報を変更するには、[戻る] をクリックします。



16. (必要に応じて) 不良セクタの診断を行う、DOS によるディスクの書き込み検証を行う、ファイルシステムエラーの検証を行う、または復元後にパーティションを非表示にする、などというオプションを選択したいときは、[拡張オプション] をクリックします。詳細については、36 ページの「拡張オプション」を参照してください。

重要： パーティションを復元すると、後続パーティションのドライブレターが変更される場合があります。この結果、コンピュータが起動できなくなったり、アプリケーションに障害が発生する場合があります。

重要： オペレーティングシステムを含む基本パーティションを復元する場合に、既存の基本パーティションを置き換えないときは、[拡張オプション] をクリックして、復元後にパーティションを非表示にするように選択します。そうしないと、データの破損が起こる可能性があります。

17. [完了] をクリックして、イメージファイルの復元を開始します。

イメージファイルを作成した時にパスワードを設定した場合は、[イメージファイルのパスワードを取得しました] ダイアログボックスが表示されます。パスワードを入力しないと、イメージファイルを復元できません。パスワード保護されたイメージをパスワードなしで復元する回避策は提供しません。

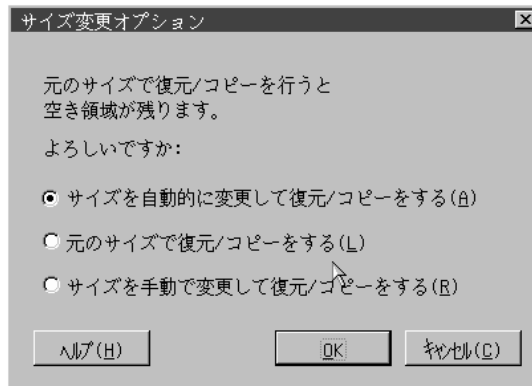
イメージファイルをリムーバブルメディアから復元しようとする、メディアの分割機能が自動的に有効になり、イメージファイルを複数のディスクから読み込めるようになります。ディスクを 1 枚ずつドライブに挿入するように要求されるので、順番どおりに挿入してください。

[イメージの復元中] ダイアログボックスが表示され、イメージ復元処理の進捗状況が表示されます。イメージの復元が完了すると、というメッセージが表示されます。「イメージは正常に復元されました。」

18. [OK] をクリックして、Drive Image のメイン画面に戻ります。

サイズ変更オプション

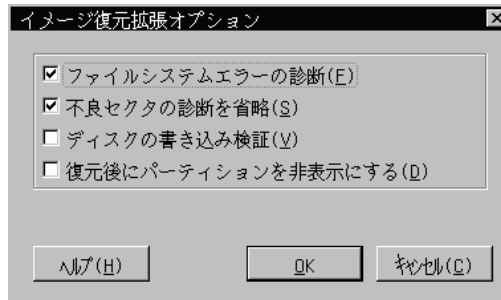
コピー先のドライブの空き領域が、復元するパーティションに必要な領域より大きい場合は、余分な領域を処理するために 3 つのオプションがあります。



オプション	目的
[サイズを自動的に変更して復元/コピーをする]	コピー先ドライブに残る空き領域を可能なかぎり使用するよう、パーティションのサイズを自動的に調整します。
[元のサイズで復元/コピーをする]	パーティションを復元した後、復元先のドライブの空き領域を未使用のまま (パーティションを作成しない状態) にしておきます。パーティションのサイズは元のままです。
[サイズを手動で変更して復元/コピーをする]	[パーティションのサイズ変更]ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、復元先のドライブの残りの空き領域に合わせてパーティションのサイズを手動で設定できます。 パーティションのサイズを変更する方法については、28ページの「イメージファイルを復元する」の手順 9 以降を参照してください。

拡張オプション

[復元の準備ができました]画面で[拡張オプション]をクリックすると、次のオプションを設定できます。



オプション	説明
[ファイルシステムエラーの診断]	エラーを診断しない場合は、[ファイルシステムエラーの診断]チェックボックスからマークを外します。 このオプションを選択したままにすると、Drive Image はイメージファイルの復元後にディスクのエラーを診断します。
[不良セクタの診断を省略]	デフォルトでは、イメージファイルの復元にかかる時間を短縮するため、このチェックボックスにマークが付けられています。 ほとんどの場合ハードディスクドライブに不良セクタはありませんが、問題が起きる可能性は、使い続けていくにつれて増加します。古いハードディスクドライブを使っている場合は、[不良セクタの診断を省略]チェックボックスからマークを外して、不良セクタの診断を有効にしておく方が賢明です。
[ディスクの書き込み検証]	DOSによるディスクの書き込み検証を有効にする場合は、[ディスクの書き込み検証]チェックボックスをマークします。ディスクの書き込み検証は、イメージファイルを安全に復元する上でそれほど重要ではありません。ディスクの書き込み検証を有効にすると、イメージファイルの復元処理が大幅に遅くなる場合があります。

オプション	説明
[復元後にパーティションを非表示にする]	<p>複数の論理パーティションを復元すると、後続のパーティションのドライブレターが変更される場合があります。この結果、コンピュータが起動できなくなったり、アプリケーションに障害が発生する場合があります。</p> <p>ほとんどのオペレーティングシステムでは、一度に表示（起動）できる基本パーティションは1つだけです。基本パーティションのイメージを復元するときに、そのパーティションを表示（起動）できないようにするには、[復元後にパーティションを非表示にする] チェックボックスをマークします。そうしないと、データの破損が起こる可能性があります。</p> <p>たとえば、第2ドライブを第1ドライブの完全なバックアップとして使う場合は、[復元後にパーティションを非表示にする] チェックボックスをマークすると、ドライブレターは一切変更されずに第2ドライブの情報がすべて保持されます。コンピュータを起動すると、非表示のパーティションにはドライブレターが割り当てられません。パーティションを非表示にする方法については、61ページの「パーティションを非表示にする」を参照してください。</p>

事例

Zip ドライブからイメージファイルを復元する

システム構成

2.1GB のハードディスクドライブ 1 台

- 1.1GB のアクティブな基本 FAT パーティション (C:)。Windows 95 で動作し、使用済み領域は 600MB、未使用領域は 500MB。
- パーティションを作成していない 1GB の空き領域。

CD-ROM ドライブ (D:) 1 台。

Zip ドライブ (E:) 1 台。

目的

2 枚の Zip ディスクに分割されているイメージファイル (MYIMAGE.PQI) から 400MB の論理 FAT パーティションを復元します。論理パーティションの復元先はハードディスクドライブのパーティションを作成していない空き領域にし、その領域を 1GB にサイズ変更します。

手順

1. Drive Image を実行します。
Drive Image により Zip ドライバが自動的にロードされるので、Zip ドライブに割り当てられたドライブレターを書き留めておいてください。ここでは、Zip ドライブを E: とします。
2. Drive Image のメイン画面で、[イメージの復元]をクリックします。
3. 「MYIMAGE DISK #1」というラベルの Zip ディスクを Zip ドライブに挿入します。
4. [イメージファイル]フィールドで、「E:¥MYIMAGE.PQI」と入力します。
[参照]をクリックして Zip ドライブのディレクトリツリーを表示し、そこから目的のイメージファイルを検索することもできます。
5. [次へ]をクリックします。
6. 400MB の論理パーティションを選択します。
7. [次へ]をクリックします。
8. 既に [ディスク 1] が選択されているはずですが、[次へ]をクリックします。
ハードディスクが 1 台しかない場合、この手順は省略されます。
9. パーティションを作成していない 1GB の空き領域を選択します。
10. [次へ]をクリックします。
11. [サイズ変更オプション] ウィンドウが表示されたら、[サイズを自動的に変更して復元/コピーをする]を選択し、[OK]をクリックします。
その他のオプションについては、35 ページの「サイズ変更オプション」を参照してください。
12. [完了]をクリックします。
13. 次のメディアを挿入するように要求されたら、Zip ドライブから「MYIMAGE DISK #1」を取り出し、「MYIMAGE DISK #2」を挿入します。
14. イメージの復元処理が完了したら、[OK] をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。
15. コンピュータを再起動します。

結果

再起動すると、ハードディスクドライブはアクティブな基本パーティション (C:) と 1GB の論理パーティションを 1 つ (D:) 含む拡張パーティションになります。CD-ROM ドライブは E: に、Zip ドライブは F: になります。

ドライブレーターが変更される理由については、Drive Image CD から Setup を起動し、[ドキュメント] をクリックし、「基本概念」の「ハードディスクとは」を参照してください。

CD ドライブからイメージファイルを復元する

システム構成

3GB のハードディスクドライブ 1 台

- 損傷により起動できない、1.8GB のアクティブな基本 FAT パーティション (C:)。Windows 95 で動作し、使用済み領域は 1GB、未使用領域は 800MB。
- 1 つの論理パーティションを含む 1.2GB の拡張パーティション (D:)。1.2GB すべてが未使用領域。

CD-ROM ドライブ (E:) 1 台。

目的

損傷したアクティブな基本パーティション (C:) を CD-ROM に格納されているパーティションのバックアップイメージで置き換えます。

手順

1. Drive Image を起動する前に PQPACKET を実行してください。それにより、Drive Image が CD ドライブを認識できるようになります。
2. 「PQDI」と入力し、Enter キーを押します。
3. Drive Image のメイン画面で、[イメージの復元] をクリックします。
4. 「MYIMAGE DISK #1」というラベルの CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。
5. また、[参照] をクリックして CD ドライブのディレクトリツリーを表示し、そこから目的のイメージファイルを検索することもできます。

CD ドライブは ¥¥.¥pqcdx¥ として表示されます。x は 0 から始まるドライブの番号です。ドライブの名前も表示されます。

イメージファイルを分割している場合は、イメージファイルの名前を表示する必要があるときにメディアの挿入を促すメッセージが表示されます。セットの最後のメディアを挿入する必要があります。メッセージは、この時点かまたは手順 6 で [次へ] をクリックした後で表示されます。

6. [次へ] をクリックします。

7. 1.8GB の基本パーティション (C:) を選択します。
8. [次へ] をクリックします。
9. 既に [ディスク 1] が選択されているはずですが。
10. [次へ] をクリックします。
11. ハードディスクドライブの1.8GBの損傷している基本パーティション(C:)を選択します。
12. [次へ] をクリックします。
次のメッセージが表示されます。
「選択した場所は空き領域ではありません。ディスクイメージは現存の領域にしか復元できません。イメージを復元する前にこのパーティションを削除します。
警告：パーティションの削除はこのパーティション内のデータをすべて削除します。」
13. [OK] をクリックします。
14. [完了] をクリックします。
C: パーティションは削除され、空き領域としてラベルが付けられます。
15. 次のメディアを挿入するように要求されたら、CD-ROM ドライブから「MYIMAGE DISK #1」を取り出し、「MYIMAGE DISK #2」を挿入します。
16. イメージの復元処理が完了すると、アクティブ（起動可能）にする基本パーティションを選択するように要求されます。復元したばかりのパーティションを選択します。
17. [OK] をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。
18. コンピュータを再起動します。

結果

復元された基本パーティション (C:) は、損傷したアクティブな基本パーティション (C:) が置き換えられたものです。これで、Windows 95 を起動し、以前のように正常に操作できるはずですが。C: パーティションには、このパーティションのイメージファイルを作成した時点で存在していたデータがすべて含まれています。

コンピュータが CD からの起動をサポートしている場合、Drive Image CD でコンピュータを起動し、Drive Image を CD から起動して、イメージファイルを復元することができます。

第2ハードディスクドライブからイメージファイルを復元する

システム構成

ディスク 1: 3.5GB ハードディスクドライブ 1 台

- 1.5GB のアクティブな基本 FAT パーティション (C:)。Windows 95 で動作し、1.5GB のうち、使用済み領域は 500MB、未使用領域は 1GB。
- 1つの論理パーティションを含む 1GB の拡張 FAT32 パーティション (E:)。1GB のうち、使用済み領域は 400MB、未使用領域は 600MB。
- パーティションを作成していない 1GB の空き領域。

ディスク 2: 2GB のハードディスクドライブ 1 台

- 1GB の基本 FAT パーティション (D:)。1GB すべてがイメージファイル MYIMAGE.PQI で使用され、未使用領域は 0MB。
- 1つの論理パーティションが含まれている 1GB の拡張パーティション (F:)。1GB のうち、使用済み領域は 600MB、未使用領域は 400MB。

目的

イメージファイル D:¥MYIMAGE.PQI から、1GB の論理パーティションを、ディスク 1 のパーティションを作成していない空き領域に復元します。

手順

1. Drive Image を実行します。
2. Drive Image のメイン画面で、[イメージの復元]をクリックします。
3. [イメージファイル]フィールドで、「D:¥MYIMAGE.PQI」と入力します。
また、[参照]をクリックして第2ハードディスクドライブのディレクトリツリーを表示し、そこから目的のイメージファイルを検索することもできます。
4. [次へ]をクリックします。
5. 1GB の論理パーティションを選択します。
6. [次へ]をクリックします。
7. [ディスク 1]を選択します。
8. [次へ]をクリックします。
9. パーティションを作成していない 1GB の空き領域を選択します。

10. [次へ]をクリックします。
11. [完了]をクリックします。
12. イメージの復元処理が完了したら、[OK]をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。
13. コンピュータを再起動します。

結果

再起動後、ディスク 1 の内容は、1.5GB のアクティブな基本パーティション (C:) と 1GB の論理パーティションを 2 つ (E: と F:) 含む拡張パーティションになります。ディスク 2 の内容は、1GB の基本パーティション (D:) と 1GB の論理パーティションを 1 つ (G:) 含む拡張パーティションになります。

第 4 章

ディスク間のコピー

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 準備
- 手順
- 拡張オプション
- 事例

準備

新しいハードディスクドライブにアップグレードする場合は、90 ページの「SCSI ハードディスクドライブで Drive Image を使う」またはドライブオーバーレイソフトウェアと一緒に Drive Image を使うを参照してください。

新しいハードディスクドライブへのアップグレードや Drive Image を使ったディスク間コピーを行う前に、次の手順を実行しておくことを強く推奨します。

- Drive Image の緊急用ディスクを作成します。5 ページの「Windows で緊急用ディスクを作成する」を参照してください。
- Drive Image を実行する前に、ScanDisk や Norton Disk Doctor などのディスクユーティリティプログラムを使ってハードディスクドライブ上のエラーを検出し、エラーがあれば修復します。
- コピー先のドライブやパーティションが、元のドライブ以上の大きさであることを確認します。元のパーティションやドライブより小さいパーティションやドライブへコピーすることもできますが、コピー先のパーティションやドライブに、元のドライブの使用領域を格納できるだけの空き領域が必要です。

同じハードディスクドライブのパーティション間でコピーを実行する場合は、45 ページの「手順」の手順 1 に進んでください。

重要： Drive Image を使って Windows NT または Windows 2000 パーティションをコピーする場合は、12 ページの「Windows NT または Windows 2000 パーティションをコピーする」で BOOT.INI の説明を参照してください。

デュアルハードディスクシステムをセットアップする

1. 両方のドライブについて、製造元のインストールマニュアルを用意します。
インストールマニュアルには、ドライブのインストール、BIOS の設定、およびジャンパ設定の変更について記述されています。手元にマニュアルがない場合は、ハードディスクドライブの製造元に直接お問い合わせください。ほとんどのハードディスクドライブの製造元は、Web サイトでセットアップ情報を公開しています。
2. コンピュータの電源を切ります。
3. 金属製のファイリングキャビネットなどの接地した金属物に触れ、静電気を逃がします。
重要： コンピュータ内部の部品に静電気が接触しないようにしてください。コンピュータの電子部品が破損するおそれがあります。
4. コンピュータのカバーを取り外します。
5. どちらのドライブをマスターにしてどちらをスレーブにするかを決め、マニュアルの指示に従ってハードディスクドライブのジャンパ設定を変更します。
6. 第 2 ドライブにインターフェイスケーブルと電源ケーブルを接続します。

7. 第2ドライブを取り付けます。
8. コンピュータを起動し、コンピュータが完全に起動する前に BIOS(Basic Input/Output System) のセットアッププログラムに入ります。

BIOS のセットアッププログラムに入るには、通常、起動時に画面の下部に表示されるプロンプトに応じて、Del キー、F1 キー、または F2 キーを押します。
9. BIOS のセットアッププログラムに自動検出オプションがある場合は、そのオプションを選択して、マスターとスレーブのドライブを検出します。

自動検出オプションがない場合は、ドライブのヘッド数、シリンダ数、およびメガバイト数の入力が必要な場合もあります。これらの情報は、通常、ドライブのカバーに印刷されています。印刷されていない場合は、ドライブの製造元にお問い合わせください。
10. 504MB より大きいハードディスクドライブを BIOS がサポートしていない場合は、ドライブ製造元のマニュアルに従って、ドライブに付属のソフトウェアをインストールします。

1994 年以前の BIOS は一般に EIDE 規格をサポートしておらず、504MB より大きいハードディスクドライブを使用できません。504MB より大きいハードディスクドライブには、通常 OnTrack Disk Manager、Maxtor Max-Blast Disk Manager、MicroHouse EZ-Drive などのソフトウェアが付属しています。これらのソフトウェアを使うと、504MB より大きいハードディスクドライブを認識できるようになります。

使用しているコンピュータが EIDE 規格をサポートしていない場合は、ドライブに付属のソフトウェアが正しくインストールされていることを確認してください。

実際のサイズより極端に小さいサイズが表示される場合は、EIDE サポートソフトウェアが正しく機能していません。
11. コンピュータの電源を切り、再起動します。

手順

ディスク間コピー機能は、イメージファイルを作成せずに、パーティションを別の場所に直接コピーします。

ディスク間コピーを実行する前に、コピー先のパーティションをフォーマットしたり、ハードディスクドライブにパーティションを作成したりする必要はありません。いずれも Drive Image によって自動的に行われます。

1. Drive Image のメイン画面で、[ディスク間コピー] をクリックします。

[元のドライブの選択]画面が表示されます。



2. コピーするパーティションが含まれているディスクを選択し、[次へ]をクリックします。ディスクは複数選択することもできます。

パーティションを実際にコピーする前であれば、いつでも [戻る] をクリックして前の手順に戻り、設定を変更することができます。

3. コピーするパーティションを選択するか、または [全てを選択] をクリックして、すべてのパーティションを選択します。



コンピュータ上にあるすべてのパーティションを見るには、画面をスクロールする必要があります。コンピュータに複数のハードディスクがある場合、パーティションリストの最初の列には、パーティションが存在する物理ハードディスクが表示されます。

選択したパーティションの左側にあるチェックボックスがマークされます。パーティションの選択を解除するには、パーティションをもう一度クリックします。すべてのパーティションの選択を一度に解除するには、[選択なし] をクリックします。

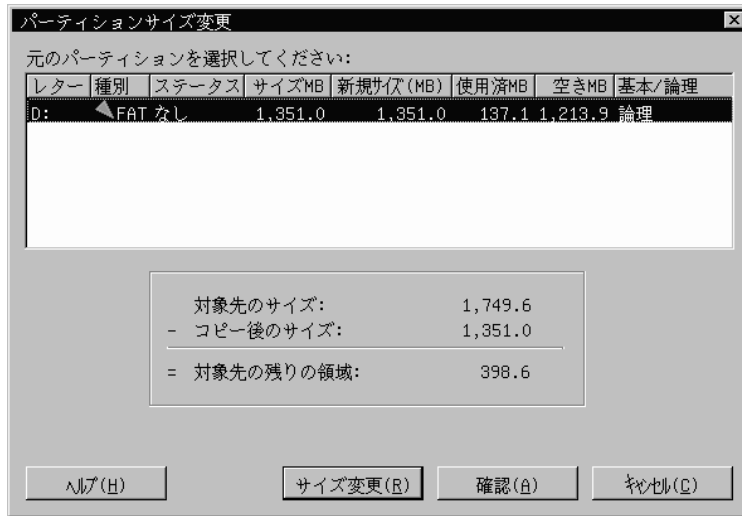
4. [次へ] をクリックします。
5. コピーしたパーティションを保存するためのパーティションまたは空き領域を含むコピー先のドライブを選択し、[次へ] をクリックします。
6. コピー先のパーティションまたは空き領域を選択し、[次へ] をクリックします。



コンピュータ上にあるすべてのパーティションを見るには、画面をスクロールする必要があります。コンピュータに複数のハードディスクがある場合、パーティションリストの最初の列には、パーティションが存在する物理ハードディスクが表示されます。

重要： パーティションをコピーするには、コピー先のパーティションまたはドライブに、コピー元パーティションの使用領域の合計以上の空き領域が必要です。コピー先のパーティションにある既存のデータは、コピーするデータによって上書きされます。

7. コピーしようとしているパーティションがコピー先のパーティションや空き領域に収まらない場合や、容量の大きいドライブにコピーする際に自動サイズ変更オプションを使わずにサイズを指定したい場合は、[パーティションのサイズ変更]をクリックして、コピー後のパーティションのサイズを指定します。コピーするパーティションのサイズを変更しない場合は、手順 12 に進んでください。
8. [元のパーティションのサイズ変更]をクリックします。
[パーティションサイズ変更]ウィンドウが表示されます。



- [元のパーティションの選択]グループボックスに、コピー対象として選択したパーティションが表示されます。また、コピー先のパーティションのサイズ、選択したパーティションの現在のサイズ、コピー先のパーティションの残りの空き領域も表示されます。
9. サイズを変更する場合は、[サイズ変更]をクリックします。変更しない場合は、[確認]をクリックします。
[パーティションのサイズ変更]ダイアログボックスが表示されます。



10. [新規サイズ (MB)] フィールドにパーティションのサイズを MB 単位で入力し、[OK] をクリックします。

入力するサイズは、ダイアログボックスに表示される [最小サイズ] から [最大サイズ] までの範囲内の値にします。

パーティションはシリンダ境界で終わらなければならないため、入力した [新規サイズ] は次のシリンダ境界までの値に丸められます。

NTFS パーティションはサイズ変更用にある程度の未使用領域が必要であり、マスターファイルテーブル (MFT) を下回るサイズに変更することができません。そのため、最小サイズはパーティションにデータを収容するのに必要なサイズよりも大きくなる場合があります。

11. [OK] をクリックし、[確認] をクリックします。

これで、パーティションをコピーするときにパーティションのサイズが変更されます。

12. [次へ] をクリックします。

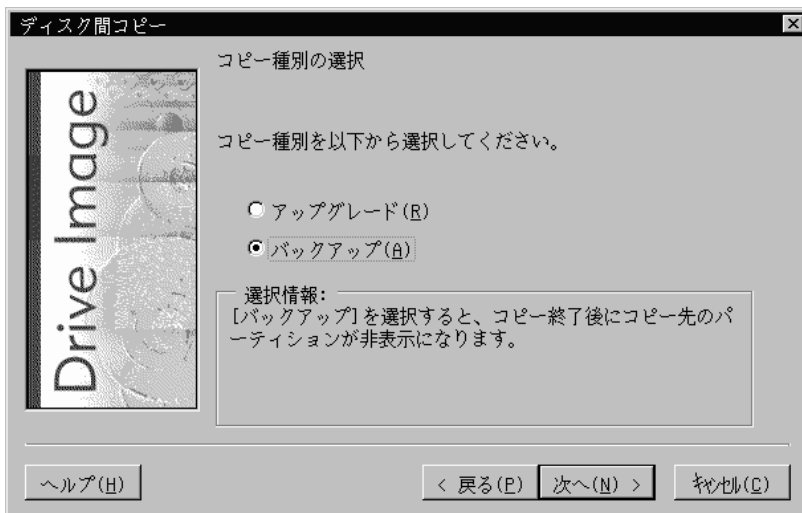
既存のパーティションをコピー先として選択した場合は、コピーする前に既存のパーティションが削除されるという内容のメッセージが表示されます。

パーティションは、実際には、[ディスク間コピーの準備ができました] 画面で [完了] をクリックするまで削除されません。

13. コピー先のドライブの空き領域が、選択したパーティションのコピーに必要な領域より大きい場合は、[サイズ変更オプション] ダイアログボックスが表示されます。必要なオプションをクリックして、[OK] をクリックします。

オプション	目的
[サイズを自動的に変更して復元/コピーをする]	コピー先ドライブに残る空き領域を可能なかぎり使用するように、パーティションのサイズを自動的に調整します。
[元のサイズで復元/コピーをする]	パーティションのコピー後に、コピー先のドライブで残りの空き領域を未使用のままにしておきます。
[サイズを手動で変更して復元/コピーをする]	[パーティションのサイズ変更] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、コピー先のドライブの残りの空き領域に合わせてパーティションのサイズを手動で設定できます。[パーティションのサイズ変更] ウィンドウについての詳細は、手順 8 を参照してください。

[コピー種別の選択]画面が表示されます。



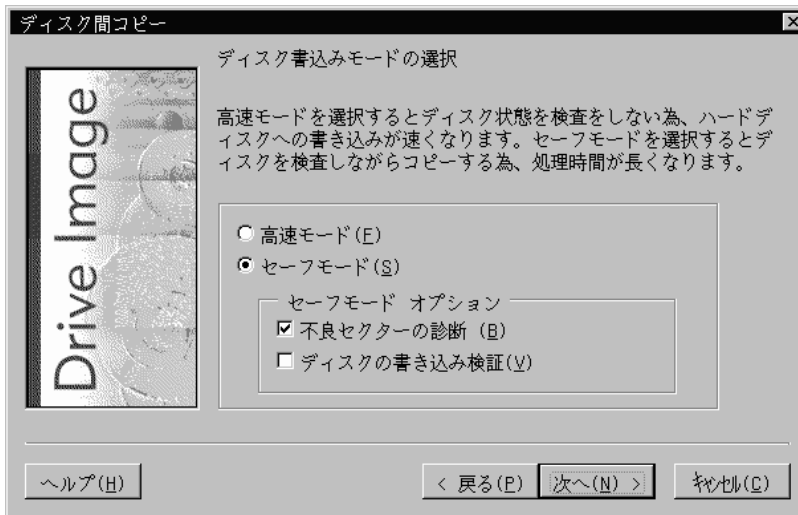
14. [アップグレード]または[バックアップ]を選択して作業の目的を指定し、[次へ]をクリックします。

ハードディスクをシステムに追加し、Drive Image を使って古いディスクドライブから新しいディスクドライブにデータをコピーする場合は、[アップグレード]を選択します。

[アップグレード]を選択すると、コピー後にコピー元のパーティションは非表示になります。[バックアップ]を選択すると、コピー後にコピー先のパーティションが非表示になります。

コピー元のパーティションまたはコピー先のパーティションを非表示にすると、コンピュータを再起動しても、ドライブレターは変更されません。パーティションを非表示にすると、コンピュータの再起動時に、同一のオペレーティングシステムのパーティションが2つ表示されることにより発生する問題を回避することもできます。コピー元のパーティションとコピー先のパーティションの両方が表示されていても、コンピュータが起動できなくなったり、ドライブレターの変更による問題が発生しないという確信がある場合は、[ディスク間コピーの準備ができました]画面で[拡張オプション](手順 17 を参照)をクリックし、Drive Image のデフォルト設定を変更してもかまいません。

[ディスク書き込みモードの選択]画面が表示されます。

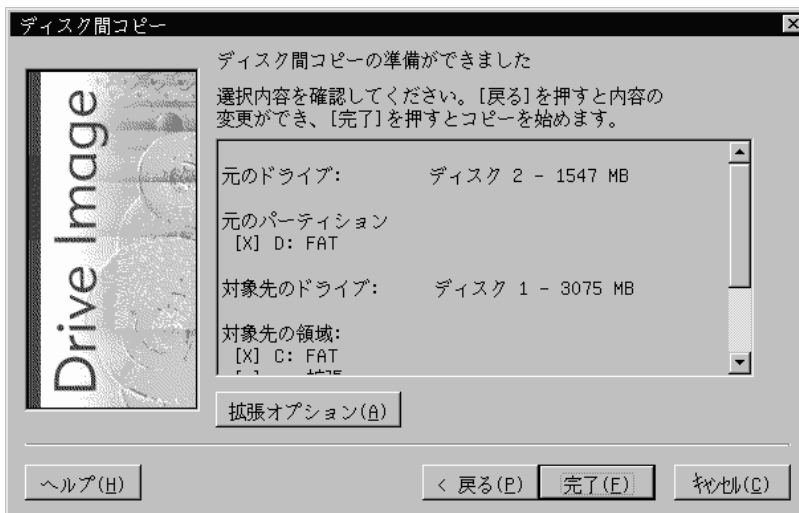


15. ディスク状態を診断せずにデータを高速でコピーする場合は、[高速モード]をクリックします。ディスク状態を診断しながらデータをコピーする場合は、[セーフモード]をクリックします。

[セーフモード]を選択すると、データのコピー時間が長くなります。[セーフモード]を選択すると、ハードディスクの不良セクタの診断と、ディスクの書き込みの検証を選択できます。不良セクタの診断は、コピー先のディスクが古いモデルの場合や、ディスクの状態が不明な場合に有効です。ディスクの書き込み検証を選択すると、コピー後のデータが検証され、そのデータを読み取れるかどうか診断されます。ディスクの書き込みを検証すると、データのコピー時間が大幅に長くなります。このオプションは必要に応じて指定します。

16. [次へ]をクリックします。

この時点までに入力した情報がすべて表示されます。



17. (必要に応じて) 設定した情報を変更するには、[戻る]をクリックします。ファイルシステムエラーの診断の有無やコピー後のパーティションの非表示などのオプションを設定するには、[拡張オプション]をクリックします。詳細については、53 ページの「拡張オプション」を参照してください。

複数の論理パーティションをコピーすると、後続パーティションのドライブレターが変更される場合があります。この結果、コンピュータが起動できなくなったり、アプリケーションに障害が発生する場合があります。ドライブレターが変更される理由については、Drive Image CD から Setup を起動し、[ドキュメント]をクリックし、「基本概念」の「ハードディスクとは」を参照してください。

18. [完了]をクリックして、選択したパーティションのコピーを開始します。

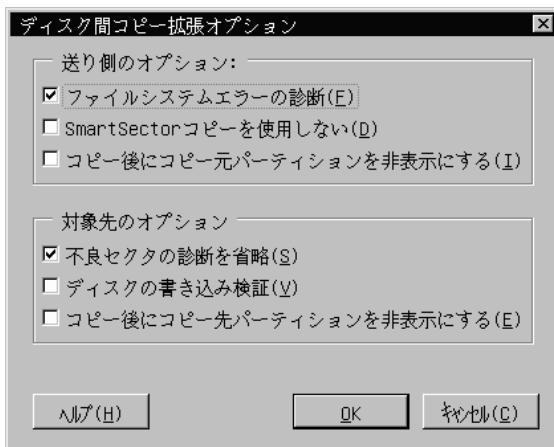
[ディスク間コピー] ダイアログが表示され、進捗状況が表示されます。ディスク間コピーが完了すると、「選択したパーティションは正常にコピーされました。結果を見ますか?」というメッセージが表示されます。

19. [OK] をクリックして、Drive Image のメイン画面に戻ります。

アクティブパーティションを非表示のバックアップパーティションで置き換える場合 (C: パーティションのデータを失った場合など) は、Drive Image の [ディスク間コピー] をもう一度実行します。非表示のパーティションをコピー元、アクティブパーティションをコピー先として選択します。コピー処理が完了すると、アクティブパーティションを設定するように求められます。コピー先の新しいパーティションを選択します。

拡張オプション

[ディスク間コピーの準備ができました] 画面で [拡張オプション] をクリックすると、[ディスク間コピー拡張オプション] ダイアログボックスが表示されます。



オプション

目的

送り側のオプション

[ファイルシステムエラーの診断]

エラーを診断しなくてよい場合は、[ファイルシステムエラーの診断] チェックボックスからマークを外します。

ScanDisk などのディスクユーティリティプログラムで既にハードディスクドライブのエラーを診断してある場合は、Drive Image でファイルシステムのエラーを診断する必要はありません。[ファイルシステムエラーの診断] をしないと、パーティションのコピーにかかる時間を短縮できます。Drive Image をロードする前にディスクユーティリティプログラムを実行していない場合は、[ファイルシステムエラーの診断] チェックボックスのマークを外さないでください。

[SmartSector コピーを使用しない]

Drive Image の SmartSector テクノロジーは、データが含まれているクラスタやセクタだけをコピーすることにより、データのコピーを高速化します。ただし、厳しいセキュリティが設定されている環境で使用している場合など、データの有無にかかわらず元の状態のまますべてのクラスタやセクタをコピーした方がよい場合もあります。

すべてのクラスタやセクタをコピーする場合は、[SmartSector コピーを使用しない] チェックボックスをマークします。[SmartSector コピーを使用しない] チェックボックスをマークすると、コピーにかかる時間が増加します。

オプション	目的
[コピー後にコピー元パーティションを非表示にする]	<p>[コピー種別の選択]画面で[アップグレード]を選択すると、このオプションはデフォルトで選択されます。コピー元のパーティションを非表示にすると、コンピュータを再起動してもドライブレターは変更されません。また、同一のオペレーティングシステムが2つ表示されることにより発生する問題を回避することもできます。</p> <p>このオプションは、オペレーティングシステムを新しいディスクにコピーして元のパーティションを非表示にする場合に使用できます。新しいパーティションはアクティブになります。新しいドライブをマスターに設定して古いドライブをスレーブに設定しておき、何か問題が発生したときのために古いドライブを残したままで新しいオペレーティングシステムを再起動してテストすることができます。</p>
対象先のオプション	
[不良セクタの診断を省略]	<p>パーティションのコピーにかかる時間を短縮するため、デフォルトでは、このチェックボックスにマークが付けられています。ほとんどの場合ハードディスクドライブに不良セクタはありませんが、問題が起きる可能性は、使い続けていくにつれて増加します。古いハードディスクドライブを使っている場合は、[不良セクタの診断を省略]チェックボックスからマークを外して、不良セクタの診断を有効にしておく方が賢明です。</p>
[ディスクの書き込み検証]	<p>DOS によるディスクの書き込み検証を有効にする場合は、[ディスクの書き込み検証]チェックボックスをマークします。</p> <p>ディスクの書き込み検証は、ファイルを安全にコピーする上でそれほど重要ではありません。ディスクの書き込み検証を有効にすると、コピー処理が大幅に遅くなる場合があります。</p>
[コピー後にコピー先パーティションを非表示にする]	<p>[コピー種別の選択]画面で[バックアップ]を選択すると、このオプションがデフォルトで選択されます。ほとんどのオペレーティングシステムでは、一度に表示(起動)できる基本パーティションは1つだけです。基本パーティションをコピーして、そのパーティションを起動可能にしない場合は、[コピー後にコピー先パーティションを非表示にする]チェックボックスをマークします。</p> <p>第2ドライブを第1ドライブのバックアップとして使う場合は、[コピー後にコピー先パーティションを非表示にする]チェックボックスをマークすると、ドライブレターは一切変更されず、第2ドライブの情報がはすべて保護されます。コンピュータを起動するとき、非表示のハードディスクドライブにはドライブレターが割り当てられません。パーティションを非表示にすることについては、61 ページの「パーティションを非表示にする」を参照してください。</p>

事例

同じハードディスクドライブ上にあるパーティション間でコピーする

システム構成 2GB のアクティブな基本パーティション (C:) が 1 つ含まれている
2GB のハードディスクドライブ 1 台。Windows 98 で動作し、2GB
のうち、使用済み領域は 500MB、未使用領域は 1.5GB。

目的 アクティブパーティションを同じハードディスクドライブ上にコ
ピーして、バックアップとします。

1. PowerQuest 社の PartitionMagic を使って、既存の基本パーティションのサイズをハードディスクドライブの合計サイズの約半分 (1GB) に変更します。
2. Drive Image を実行します。
3. Drive Image のメイン画面で、[ディスク間コピー] をクリックします。
4. 既に [ディスク 1] が選択されているはずですが、[次へ] をクリックします。
5. 基本パーティション (C:) を選択し、[次へ] をクリックします。
6. 既に [ディスク 1] が選択されているはずですが、[次へ] をクリックします。
7. 基本パーティションのサイズを変更したときにできた空き領域を選択し、[次へ] をクリックします。
[サイズ変更オプション] ウィンドウが表示されたら、[サイズを自動的に変更して復元 / コピーをする] を選択し、[OK] をクリックします。
8. [ディスク間コピーの準備ができました] 画面で、[拡張オプション] をクリックします。
9. [送り側のオプション] で、[ファイルシステムエラーの診断] チェックボックスからマークを外します。
10. [対象先のオプション] で、[コピー後にコピー先パーティションを非表示にする] をクリックし、[OK] をクリックします。
11. [完了] をクリックします。
12. コピー処理が完了したら、[OK] をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。

コンピュータが再起動し、Windows 98 に戻ります。一度に 1 つの基本パーティションしか表示されないため、Windows エクスプローラには新しいパーティションは表示されません。

デュアルハードディスクシステム内のドライブ間でコピーする

システム構成 ディスク 1: 3GB のハードディスクドライブ 1 台

- 1.5GB のアクティブな基本パーティション (C:)。Windows 98 で動作し、1.5GB のうち、使用済み領域は 500MB、未使用領域は 1GB。
- 1 つの論理パーティションを含む 1GB の拡張パーティション (E:)。1GB のうち、使用済み領域は 400MB、未使用領域は 600MB。
- パーティションを作成していない 500MB の空き領域。

ディスク 2: 2GB のハードディスクドライブ 1 台

- 1GB の基本パーティション (D:)。1GB のうち、使用済み領域は 400MB、未使用領域は 600MB。
- 1 つの論理パーティションを含む 1GB の拡張パーティション (F:)。1GB のうち、使用済み領域は 200MB、未使用領域は 800MB。

目的 ディスク 1 の E: パーティションをディスク 2 の F: パーティションにコピーします。

1. Drive Image を実行します。
2. Drive Image のメイン画面で、[ディスク間コピー] をクリックします。
3. [ディスク 1] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. E: パーティションを選択し、[次へ] をクリックします。
5. [ディスク 2] を選択し、[次へ] をクリックします。
6. F: パーティションを選択し、[次へ] をクリックします。
選択したパーティションがコピーする前に削除されるという内容のメッセージが表示されます。
7. [OK] をクリックします。
8. [ディスク間コピーの準備ができました] 画面で、[拡張オプション] をクリックします。
9. [送り側のオプション] で、[ファイルシステムエラーの診断] チェックボックスからマークを外し、[OK] をクリックします。
10. [完了] をクリックします。
11. コピー処理が完了したら、[OK] をクリックして Drive Image のメイン画面に戻り、Drive Image を終了します。

コンピュータが再起動し、Windows 98 に戻ります。ドライブレターは変わりませんが、F: パーティションには E: パーティションと同じデータが含まれています。

第 5 章

一般的なパーティション操作

この章では、[ツール]メニューから実行できる次の機能を説明します。

- ドライブ情報を表示する
- 拡張パーティションを作成する
- パーティションを削除する
- パーティションを非表示にする
- アクティブパーティションを設定する

イメージファイルの作成やパーティションのコピーなどの際に、Drive Image によって自動的に実行されるパーティションに対する一般的な処理は、Drive Image のメイン画面にある [ツール] ドロップダウンメニューを使って手動で行うこともできます。 [ツール] メニューを使うと、イメージファイルの作成や復元、またはパーティションのコピーを行わないでも、パーティションの操作を実行できます。

ドライブ情報を表示する

[ドライブ情報の表示] オプションは、現在のハードディスクドライブ上のパーティションに関する以下の情報を表示します。

- ドライブレター
- ボリューム (パーティション) ラベル
- 色で識別されたボリューム (パーティション) の種別
- 状況 (アクティブパーティション)
- パーティションサイズ
- パーティション内の使用済み容量 (MB)
- パーティション内の空き容量 (MB)
- パーティションの種類 (基本パーティション、または論理パーティション)

1. Drive Image のメイン画面で、 [ツール] [ドライブ情報の表示] をクリックします。
2. [物理ドライブ] ドロップダウンリストから、情報を表示するパーティションを含んでいるドライブを選択します。
3. パーティションリストからパーティションを選択します。

画面に表示されるドライブ情報 (パーティションマップ)

Drive Image のダイアログボックスの中には、ハードディスクのパーティションを示すパーティションマップが表示されるものがあります。選択したハードディスクに論理パーティションが含まれている場合、そのパーティションは拡張パーティション内に表示されます。パーティションは色で分類されていますので、ファイルシステムの種類を用途ごとに識別できます。たとえば、濃い緑色は FAT32 パーティションを意味します。更に、パーティション内で使用済みのスペースと未使用のスペースが識別できるように、色分けされています。

また、パーティションマップには空き領域 (どのパーティションにも割り当てられていない領域) も表示されます。

パーティションマップには、三角形のインジケータがあり、2GB の起動コード境界と 1024 シリンダ制限にマークが付けられます。境界のマーカーは、イメージファイルを復元したり、新しいパーティションをアクティブに設定するときに役立ちます。たとえば、ハードディスクの最初の 2GB の領域に起動コードが必要なオペレーティングシステムの場合は、起動可能な場所にパーティションがあるかどうかが一目で分かります。

拡張パーティションを作成する

基本パーティションのイメージを作成し、それを論理パーティションとして復元する場合は、ハードディスクドライブに拡張パーティションがあることが前提となります。たとえば、ハードディスクが2つあり、それぞれに基本パーティションがあるとします(起動パーティション C: とデータパーティション D:)。両方のパーティションを新たにマスターディスクとする新しいハードディスクにコピーする場合、新しいハードディスクに基本パーティションが2つ作成されるのを回避するために、パーティション D: を論理パーティションにコピーしてください。また、マスタードライブの基本パーティションは、オペレーティングシステム専用しておくのがよいでしょう。

論理パーティションのイメージを復元する場合は、事前に拡張パーティションを作成する必要はありません。ハードディスクドライブに拡張パーティションがなくても Drive Image により自動的に作成されます。

1. Drive Image のメイン画面で、[ツール] [拡張パーティションの作成] をクリックします。

[拡張パーティションの作成] ウィンドウが表示されます。



2. 空き領域をパーティションリストから選択します。

コンピュータに空き領域がない場合は、既存のパーティションを削除して空き領域を作成する必要があります。

3. [作成] をクリックします。

選択した空き領域に拡張パーティションが作成されます。

4. [閉じる] をクリックして、Drive Image のメイン画面に戻ります。

パーティションを削除する

既存のパーティションを削除してハードディスクドライブに空き領域を作成します。既存のパーティションを削除すると、パーティション内のデータもすべて削除される点に注意してください。

1. Drive Image のメイン画面で、[ツール] [パーティションの削除] をクリックします。
[パーティションの削除] ウィンドウが表示されます。



2. [物理ドライブ] ドロップダウンリストから、削除するパーティションを含んでいるディスクを選択します。
3. 削除するパーティションをクリックします。
コンピュータ上にあるすべてのパーティションを表示するには、画面をスクロールする必要があります。もしもありません。
4. [削除] をクリックします。
[パーティションの削除] ダイアログボックスが表示され、選択したパーティションとそのボリュームラベルが表示されます。
5. 表示されたボリュームラベルを正確に入力し、[OK] をクリックします。
パーティションが削除され、次のメッセージが表示されます。「ボリューム < ボリューム名 > は削除されました」
6. [閉じる] をクリックして、Drive Image のメイン画面に戻ります。

パーティションを非表示にする

表示 / 非表示の機能により、ユーザーアクセスを制限してパーティションを保護することができます。非表示のパーティションは、コンピュータの起動時にドライブレターが割り当てられないため、アクセスできません。パーティションを表示設定にすると、次にコンピュータを起動したときにドライブレターが割り当てられ、アクセス可能になります。

パーティションの非表示 / 表示設定を変更する場合は、次の点に注意してください。

- パーティションの非表示 / 表示設定を変更すると、後続パーティションのドライブレターが変更される場合があります。この結果、コンピュータが起動できなくなったり、アプリケーションに障害が発生する場合があります。ドライブレターの変更とその対処方法については、Drive Image CD から Setup を起動し、[ドキュメント] をクリックし、「基本概念」の「ハードディスクとは」を参照してください。
- ハードディスクドライブに複数の基本パーティションがあっても、デフォルトでは 1 つのパーティションしか表示されません。[アクティブパーティションの設定] 機能を使用すると、Drive Image は選択された基本パーティションを表示し、同時にそのほかの基本パーティションを自動的に非表示にします。62 ページの「アクティブパーティションを設定する」を参照してください。
- 非表示のパーティションは起動もアクセスもできないため、Drive Image がインストールされているパーティションを非表示にした場合は、新しいアクティブ (起動) パーティションに Drive Image をもう一度インストールしないと、Drive Image を起動できません。

パーティションの非表示 / 表示設定を変更するには、次の手順に従います。

1. Drive Image のメイン画面で、[ツール] [パーティションの非表示 / 表示] をクリックします。

[非表示パーティション] ウィンドウが表示されます。



2. 非表示にするパーティションをクリックします。
通常、パーティションを選択すると、[非表示] ボタンが使用できるようになります。このボタンが有効にならない場合は、パーティションを非表示にできません。
3. [非表示] をクリックして、選択したパーティションを非表示にします。
パーティションの状態表示が「非表示」に変わります。
4. 非表示のパーティションをクリックします。
通常、パーティションを選択すると、[表示] ボタンが使用できるようになります。このボタンが有効にならない場合は、パーティションを表示できません。
5. [表示] をクリックして、選択したパーティションを表示します。
パーティションの状態表示が「なし」に変わります。
6. [閉じる] をクリックして、Drive Image のメイン画面に戻ります。
7. [終了] をクリックして、Drive Image を終了します。
8. コンピュータを再起動します。

アクティブパーティションを設定する

[アクティブパーティションの設定]機能で、基本パーティションをアクティブ(起動)パーティションに設定できます。アクティブとして設定できる基本パーティションは、一度に1つだけです。ほとんどのオペレーティングシステムでは、起動できるようにするために、基本パーティションが先頭の(マスター)ドライブにあってオペレーティングシステムがインストールされていなければなりません。これは、コンピュータが起動時に先頭ドライブのパーティションテーブルでアクティブパーティションを検出し、そこから起動するためです。

警告： アクティブパーティションを設定するときは、そのパーティションが起動可能かどうかを事前に確認してください。起動できないパーティションである場合、または起動可能かどうか不明な場合は、Drive Image をインストールしたときに作成した起動ディスクを用意しておいてください。コンピュータを正常に再起動できなかった場合は、このフロッピーディスクから起動します。次に、Drive Image のインストール時に作成したプログラムディスクを使ってDrive Image を起動し、別のパーティションをアクティブに設定してください。Drive Image 画面の説明については、58 ページの「画面に表示されるドライブ情報(パーティションマップ)」を参照してください。Drive Image 画面には、パーティションが起動可能かどうか判断するのに役立つ情報が表示されています。

1. Drive Image のメイン画面で、[ツール] [アクティブパーティションの設定] をクリックします。

[アクティブパーティションの設定] ウィンドウが表示されます。



2. 現在アクティブになっていない基本パーティションを選択します。
3. [アクティブ設定] をクリックします。
選択したパーティションの状態表示が「アクティブ」に変わります。
4. [閉じる] をクリックします。
5. [終了] をクリックして、Drive Image を終了します。
6. コンピュータを再起動します。

第 6 章

Drive Image File Editor

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 概要
- Drive Image File Editor のメイン画面
- イメージを変更する
- ファイルまたはパーティションを復元する
- イメージファイルを検証する
- イメージファイルを削除する
- イメージに関する情報を表示する
- パーティションに関する情報を表示する
- Drive Image File Editor のオプション
- オンラインヘルプ
- Drive Image File Editor を終了する

概要

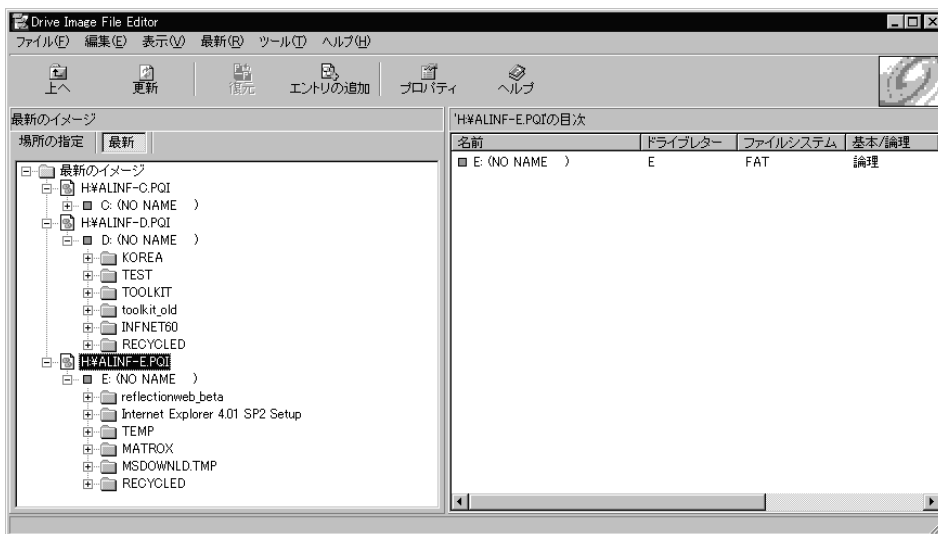
PowerQuest の Drive Image File Editor を使うと、イメージファイルを簡単に操作できます。アクセスするイメージファイルに対するあらゆる操作を 1 つの画面から行うことができます。イメージファイルの内容の表示、イメージファイルのコピー、ファイル内のパーティションのコピー、イメージからの個々のプログラムやデータファイルの復元、イメージファイルへのパスワード保護の追加などが可能です。

また、個々のイメージファイルやパーティションを簡単に識別できるように、コメントを付けることもできます。

Drive Image File Editor を使うには、Windows 95、Windows 98、Windows NT Workstation、または Windows 2000 Professional が必要です。

Drive Image File Editor のメイン画面

Drive Image File Editor のメイン画面は、[場所の指定]、[最新]、[目次] の 3 つのパネルから構成されています。



画面領域	説明
[場所の指定]パネル	マシン上のすべてのドライブ(ローカルハードディスクとネットワークドライブ)をツリー形式で表示します。
[最新]パネル	最近参照したか開いたイメージファイルをツリー形式で表示します。最新イメージのリストをクリアするには、[最新] [最新のイメージリストの消去]をクリックします。
[目次]	選択したドライブ、フォルダ、イメージファイル、またはパーティションの内容を表示します。
ツールバー	一般的な操作をすばやく行うためのボタンが表示されます。ツールバーを表示するかどうかは、[表示]メニューで切り替えられます。また、[表示]メニューを使ってツールバーのボタンに文字列のラベルを表示するかどうかも指定できます。
ステータスバー	ポインタが位置するツールバーボタンの簡単な説明を表示します。ステータスバーを表示するかどうかは、[表示]メニューで切り替えられます。

イメージを変更する

Drive Image File Editor の [イメージにコピー] 機能を使うと、新規または既存のイメージファイルに 1 つまたは複数のパーティションをコピーできます。ファイル、パーティション、またはイメージをコピーするときには、結果のイメージの圧縮レベルを設定したり、イメージにパスワードを追加したり、イメージを複数のファイルに分割したりできます。

パーティションをイメージファイルにコピーする

コピー元のイメージファイルからコピー先のイメージファイルにパーティションをドラッグアンドドロップします。または [編集] メニューを使ってパーティションをコピーすることもできます。パーティションをコピーしても、コピー先のイメージファイルにあるパーティションが上書きされることはありません。したがって、1 つのイメージファイルに、名前やドライブレターが同じパーティションが複数できる場合があります。

パーティションまたはイメージファイルをコピーするには、いくつかの方法があります。

- [最新]または[場所の指定]パネルから[場所の指定]パネルのドライブまたはフォルダへパーティションまたはイメージをドラッグアンドドロップします。
- イメージファイルのパーティションを[場所の指定]パネル内の他のイメージファイルまたはフォルダへドラッグアンドドロップします。
- パーティションを選択して、[ファイル] [イメージにコピー] をクリックします。

- パーティションを右クリックして、[ファイル] [イメージにコピー]をクリックします。
- パーティションを選択して、[編集] [コピー]をクリックし、新しい場所にカーソルを置いて、[編集] [貼り付け]をクリックします。

コピーするもの	結果
.PQIイメージファイル全体	[イメージにコピー] ダイアログボックスが開き、[場所の指定]パネルで現在選択されているドライブやフォルダに応じて[対象イメージ]テキストボックスに値が表示されます。
イメージファイル内のパーティション	パーティションを他のイメージファイルへコピーする場合、[イメージにコピー] ダイアログボックスが開き、パーティションがイメージファイルに追加されます。このパーティションは、コピー先のイメージファイルの特性(圧縮率、パスワードなど)を継承します。パーティションをフォルダにコピーする場合は、[イメージにコピー] ダイアログボックスが表示され、新規作成された .PQI イメージファイルにパーティションが追加されます。

[イメージにコピー] ダイアログボックスには、変更するイメージファイルのファイル名が表示されます(新しいイメージファイルの場合はファイル名を入力します)。また、イメージファイルの分割、分割イメージを構成する複数のファイルの結合、イメージへのパスワードの追加、イメージの圧縮レベルの選択などができます。



イメージを複数のファイルに分割する

既存のイメージファイルを、分割形式で複数のリムーバブルメディア（フロッピーディスク、Jaz、Zip などのディスク）に保存するには、[イメージファイルの分割機能]を使います。また、既に作成したイメージファイルを Drive Image File Editor を使って、後から分割することも可能です。分割したイメージファイルをいったんネットワークドライブに保存して、後から CD-ROM などのリムーバブルメディアに転送することもできます。

イメージを分割するには、イメージ全体または選択したパーティションを新しいイメージファイルにコピーして、このファイルを分割します。

1. [場所の指定]または[最新]パネルから、分割するイメージファイルを[場所の指定]パネルにコピーします。
[イメージにコピー中]ダイアログボックスが表示されます。
2. [対象イメージ]テキストボックスに、新しいイメージファイルのパスとファイル名を入力します。
3. [イメージをセグメントに分割]を選択します。
4. イメージファイルの各セグメントに対して最大サイズを入力します。
たとえば、後で CD に保存するイメージファイルを作成する場合は、「650000000」と入力します。
5. 必要に応じて、新しいイメージファイルに対するその他のオプションを指定します（説明、パスワード、圧縮レベルなど）。
6. [コピー]をクリックします。

イメージファイルを分割した場合は、イメージファイルが指定したサイズになるか、リムーバブルデバイスのメディアがいっぱいになると、新しいメディアを挿入するよう求めるメッセージが表示されます。

イメージの構成ファイルを結合する

分割イメージ（複数のファイルに分割されたイメージ）の一部であるファイルを選択して新しいイメージファイルにコピーすると、Drive Image File Editor は自動的にそのイメージのすべての構成部分を新しい対象イメージに結合します。

[イメージをセグメントに分割]チェックボックスのマークが外れていることを確認してください。このチェックボックスがマークされていると、新しいイメージファイルは、1 つのファイルに結合される代わりに指定されたサイズに分割されます。

この機能は、リムーバブルメディアに保存したイメージファイルをネットワークディレクトリやハードディスクに保存する場合に便利です。

イメージにパスワードを追加する

1. [場所の指定] または [最新] パネルから、パスワードによる保護を追加したいイメージファイルを [場所の指定] パネルにコピーします。
[イメージにコピー] ダイアログボックスが表示されます。
2. [イメージ保護] で [パスワードの設定] をクリックします。
3. [パスワード] および [パスワードの確認] フィールドにパスワードを入力します。
パスワードは、大文字と小文字が区別されます。パスワード保護されたイメージファイルはパスワードを入力しなければコピー、変更、復元できないため、パスワードは安全な場所に保存しておいてください。また、イメージに割り当てられている現在のパスワードがわからないと、イメージファイルのパスワードを変更することはできません。PowerQuest では、パスワードを忘れた場合にパスワード保護されたイメージファイルにアクセスするための回避策を提供しません。
4. 必要に応じて、新しいイメージファイルに対するその他のオプションを指定します (説明、圧縮レベル、分割サイズなど)。
5. [コピー] をクリックします。

イメージファイルを圧縮する

1. [場所の指定] または [最新] パネルから、圧縮したいイメージファイルを [場所の指定] パネルにコピーします。
[イメージにコピー] ダイアログボックスが表示されます。
2. [圧縮レベル] で圧縮のレベルを選択します。

非圧縮 非圧縮は、一般的に最も速くイメージファイルを保存できる方法であり、ディスクの空き領域が十分ある場合に効果的です。ただし、混雑したネットワークドライブや比較的速度の遅いリムーバブルメディアにイメージファイルを保存するときは、イメージを圧縮した方が処理が速い場合があります。ファイルを圧縮すると、データ書き込み量が少なくなるためです。

標準レベル 標準レベルの圧縮率は、平均 40% です。

高レベル 高レベルの圧縮率は、平均 50% です。

3. 必要に応じて、新しいイメージファイルに対するその他のオプションを指定します (説明、パスワード、分割サイズなど)。
4. [コピー] をクリックします。

イメージファイルの説明を追加または変更する

1. [場所の指定] または [最新] パネルから、説明を追加したいイメージファイルを [場所の指定] パネルにコピーします。
[イメージにコピー] ダイアログボックスが表示されます。
2. [概要] テキストボックスに、イメージファイルに関するコメントを入力します。
コメントは、(半角英数字)232文字まで入力できます。
3. 必要に応じて、新しいイメージファイルに対するその他のオプションを指定します
(パスワード、圧縮レベル、分割サイズなど)。
4. [コピー] をクリックします。

ファイルまたはパーティションを復元する

Drive Image File Editor を使用して、イメージファイル内から個々のファイルまたはパーティションを復元できます。分割または圧縮されているイメージから、イメージファイル全体は復元しないまま、ファイルやフォルダを個別に復元することができます。

1. [場所の指定] または [最新] パネルで、復元するファイルがあるパーティションを含むイメージファイルをダブルクリックします。
2. (必要に応じて) イメージファイルのパスワードを入力して [OK] をクリックします。
3. パーティションをダブルクリックします。
4. 復元するフォルダまたはファイルを選択します。
5. [ファイル] [復元] をクリックします。

または、復元先の場所にファイルをドラッグするか、ファイルを右クリックしてポップアップメニューから [復元] を選択します。

旧バージョンの Drive Image または Drive Image File Editor で作成されたイメージファイルを選択した場合、Drive Image File Editor がイメージインデックスを展開する間、進捗状況バーが表示されます。古いイメージファイルの処理を高速化する方法については、72 ページの「旧バージョンの Drive Image で作成したイメージを扱う」を参照してください。

6. [指定先] をクリックし、復元後のファイルの保存先を指定します。参照ボタンをクリックし、保存先のフォルダへ移動します。
フォルダやファイルを元の場所に復元する場合は、[変更前のパスに復元] をクリックします。イメージを作成したときにパーティションが表示されていなかったために元の場所にドライブレターが含まれていない場合は、復元する前にパーティションのドライブレターを入力する必要があります。
7. [復元] をクリックしてファイルを復元します。

8. ファイルの復元が完了したら、[OK] をクリックします。
9. [閉じる] をクリックして、Drive Image File Editor のメイン画面に戻ります。

旧バージョンの Drive Image で作成したイメージを扱う

旧バージョンの Drive Image File Editor (Drive Image 4.0 より前のバージョン) で作成されたイメージからファイルを復元する場合は、次のいずれかの方法で処理を高速化できます。これらの手順は、必須ではありません。

- イメージのインデックスファイル(*.PQX) が、イメージが保存されているディレクトリと同じディレクトリに保存されているようにします。イメージと同じディレクトリにインデックスファイルを検出すると、Drive Image File Editor は復元処理中にインデックスを新しく作成する代わりにそのインデックスファイルを使用します。
- イメージのインデックスファイルがない場合は、Drive Image File Editor を使用してイメージを新しい 4.0 イメージファイルにコピーできます。

イメージファイルを検証する

イメージファイルが有効か壊れているかを確認するには、[イメージの検証] を使用します。このオプションを選択すると、イメージ内のファイルをすべて開くことができるか、イメージファイルの内部データ構造が使用可能なデータと一致するか、イメージファイルを解凍して適切な量のデータを作成できるかなどを確認できます。

この機能は、パーティションを追加したイメージの状態を確認する場合に便利です。

1. [場所の指定] または [最新] ペインで、検証するイメージファイルを選択します。
2. [ファイル] [イメージの検証] をクリックします。
3. 確認が完了したら、[OK] をクリックします。

イメージファイルを右クリックし、ポップアップメニューで [イメージの検証] をクリックすることもできます。

イメージファイルを削除する

すべてのパーティション、フォルダ、ファイルを含めてイメージファイル全体を削除する場合は、[削除] を使用します。ローカルハードディスクにあるイメージファイルを削除すると、このイメージファイルは Windows の [ごみ箱] へ送信されます。

1. [場所の指定] または [最新] ペインで、削除するイメージファイルを選択します。
イメージファイル内の個々のパーティション、選択したファイルやフォルダを削除することはできません。
2. [ファイル] [イメージの削除] をクリックします。

3. 続行する場合は [はい]、取り消す場合は [いいえ] をクリックします。

または、イメージファイルを右クリックしてポップアップメニューから [イメージの削除] をクリックするか、Windows のエクスプローラからイメージを削除することもできます。

イメージに関する情報を表示する

1. [場所の指定] または [最新] パネルでイメージファイルを選択します。
2. [ファイル] [プロパティ] をクリックするか、イメージファイルを右クリックして [プロパティ] をクリックします。

[イメージのプロパティ] ダイアログボックスには、次の表に示すオプションが表示されます。

概要	パーティションに付けたコメント。
MS-DOS 名	ユーザーがイメージに割り当てた名前。
イメージ ファイルのサイズ	イメージの合計サイズ。
イメージの日付 / 時刻	イメージファイルが作成された日時。
分割	イメージファイルが複数のディスクまたは同じディスク上の複数のファイルに分割されているかどうか。
圧縮	選択したパーティションが圧縮されているかどうか。圧縮レベル ([標準レベル] または [高レベル]) も表示されます。標準レベルの圧縮の場合、圧縮率は約 40% です。高レベルの圧縮の場合、圧縮率は約 50% です。
パスワード保護	イメージがパスワードで保護されているかどうか。

3. [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

パーティションに関する情報を表示する

1. [場所の指定]または[最新]パネルで目的のパーティションを含んでいるイメージファイルをダブルクリックします。
2. パーティションを選択します。
3. [ファイル] [プロパティ]をクリックするか、パーティションを右クリックして [プロパティ] をクリックします。

名前の表示	パーティションに付けた名前。
概要	パーティションに付けたコメント。
ドライブレター	パーティションのドライブレター。
種別	パーティションで使われているファイルシステムの種類 (FAT、NTFS、HPFS など)。
基本 / 論理	選択したパーティションのドライブのステータス (基本または論理)。
パーティション サイズ	パーティションの合計サイズ。合計サイズとは、使用済み領域と未使用領域の合計です。
パーティション 内の使用領域	パーティションの使用領域のサイズ。
パーティション 内の未使用領域	パーティションの未使用領域のサイズ。
イメージ内の物 理サイズ	イメージファイル内のパーティションの実際のサイズ。パーティションの使用領域と空き領域のサイズや圧縮レベルによっては、パーティションサイズとは異なる場合があります。

4. [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

Drive Image File Editor のオプション

イメージファイルのデフォルトの復元パスやデフォルトのサイズを指定できます。デフォルトのサイズは、イメージがコピー中に分割されるサイズです。このサイズは、[イメージにコピー]ダイアログボックスに表示されます。

1. [ツール] [オプション] [全般] をクリックします。
2. (必要に応じて) デフォルトの復元場所に対するフルパスを指定します。
このパスは、ドラッグアンドドロップ機能やコピーと貼り付け機能を使用せずにイメージの復元を開始する場合に使用されます。

3. (必要に応じて)イメージファイルを分割するときのデフォルトサイズをバイト単位で指定します。

たとえばファイルをいったんハードディスクに保存してからCDにコピーする場合は、650,000,000 バイト (650 MB) より小さいファイルサイズを指定します。

4. [OK] をクリックします。

Drive Image File Editorにイメージファイルとして表示されるファイル拡張子を指定することもできます。

1. [ツール] [オプション] [イメージエクステンション] をクリックします。
2. [エクステンション] テキストボックスにイメージファイルの拡張子を入力します。
ファイル拡張子は、3 文字までの英数字で指定します。ピリオドを入力する必要はありません。ピリオドは自動的に追加されます。
3. [追加] をクリックします。
4. ファイル拡張子を更に追加するには、手順 2 と 3 を繰り返します。終了したら、[OK] をクリックします。
リストに追加した拡張子と一致するイメージファイルは、すべて [場所の指定] または [最新] パネルに表示されます。

拡張子を削除するには、リストボックスから拡張子を選択し、[削除] をクリックします。追加した拡張子をすべて削除するには、[消去] をクリックします。リストから *.PQI を削除することはできません。

オンラインヘルプ

1. [ヘルプ] [目次] をクリックします。
2. 表示したいヘルプトピックを選択するか、[索引] または [検索] をクリックしてトピックを検索します。

Drive Image File Editor を終了する

1. [ファイル] [終了] をクリックします。

Drive Image File Editor を再起動する場合は、前回の表示設定が使用されます。

第 7 章

PowerQuest DataKeeper

この章で説明する内容は次のとおりです。

- はじめに
- システムを監視する
- カスタムバックアップの作成
- モバイルのサポート
- バックアップを復元する
- Windows ショートカットから DataKeeper を起動する
- ヘルプの利用
- DataKeeper を終了する

はじめに

PowerQuest DataKeeper は、重要なデータのバックアップ作業を安全かつ自動的に行う簡単な方法を提供します。バックアップ先としては、ローカルハードディスク、ファイルシステム (FAT32 など) とドライブレターが割り当てられた別パーティション、ネットワークドライブ、またはリムーバブルメディア (LS120、JAZ、Zip ドライブなど) が使用できます。DataKeeper は、次のような目的に使用できます。

- コンピュータ上のファイルやフォルダを、パスワード保護やファイル圧縮などのオプションを指定してバックアップする。
- 1つのファイル (圧縮バックアップからでも可)、特定のファイルの最新バージョン、または特定のファイルの古いバージョンを復元する。

DataKeeper のシステム要件

DataKeeper をインストールする前に、コンピュータが最低限次のシステム要件を満たしていることを確認してください。

プロセッサ	486DX/66 MHz 以上
RAM	<ul style="list-style-type: none">• 8 MB (Windows 95)• 16 MB (Windows 98 または Me)• 32 MB (Windows NT 4.0 Workstation)• 32 MB (Windows 2000 Professional)
ハードディスク領域	4 MB
ファイルシステム	FAT、FAT32、または NTFS
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none">• Windows 95b 以降• Windows 98• Windows Me• Windows NT 4.0 Workstation (Service Pack 6 を適用)• Windows 2000 Professional
モニタ	VGA 以上の解像度

DataKeeper をインストールおよび設定する

DataKeeper のインストールは2つのプロセスからなります。

- DataKeeper をインストールする。Windows NT または Windows 2000 を実行している場合は、administrator 権限で DataKeeper をインストールする必要があります。

- バックアップ先を設定する。インストールした後で DataKeeper を初めて起動するときには、基本バックアップ先と代替バックアップ先を指定する必要があります。通常 Windows NT や Windows 2000 で行われるように、複数のユーザーが 1 台のコンピュータを共有している場合は、各ユーザーが DataKeeper を実行して、それぞれ独自の基本バックアップ先と代替バックアップ先を設定する必要があります。

インストールを単純にして、ファイルの復元がすばやく簡単に行えるようにするには、プログラムのデフォルト設定を使用することをお奨めします。

1. DataKeeper CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
2. DataKeeper のセットアップウィンドウで [インストール] をクリックし、画面に表示される指示に従ってプログラムをインストールします。
3. セットアップが完了したら、[はい、DataKeeper を起動します。] のマークを外してから [完了] をクリックします。

画面に DataKeeper セットアップウィンドウが自動的に表示されない場合は、プログラムを手動でインストールできます。

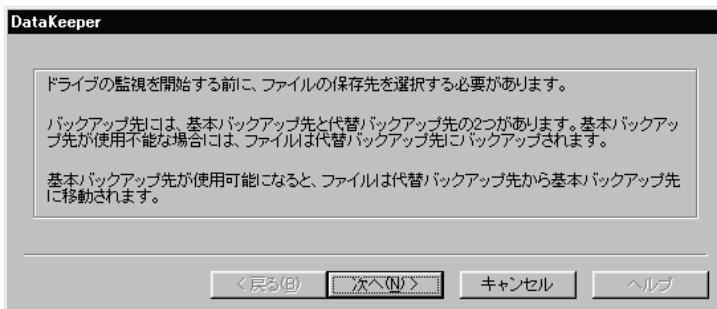
1. Windows タスクバーの [スタート] [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行] テキストボックスに「D:¥SETUP」と入力します。
3. お使いの CD-ROM ドライブのドライブレターが D でない場合は、D を適切なドライブレターに代えてください。
4. [OK] をクリックし、画面に表示される指示に従ってプログラムをインストールします。
5. セットアップが完了したら、[はい、DataKeeper を起動します。] のマークを外してから [完了] をクリックします。

システム管理者の場合は、これでプログラムのインストールが完了です。ユーザーの場合は、それぞれ監視対象ファイルの基本バックアップ先と代替バックアップ先を設定する必要があります。

バックアップ先の設定

DataKeeper を初めて起動したときには、監視対象ファイルの基本バックアップ先と代替バックアップ先を指定するように指示されます。バックアップ設定が完了する前に [キャンセル] をクリックすると、DataKeeper が終了します。

1. Windows タスクバーから DataKeeper を起動します。



2. [次へ] をクリックします。
3. テキストボックスに基本バックアップ先へのフルパスを入力し、[次へ] をクリックします。基本バックアップ先として指定できるのは、ローカルの固定ハードディスク、ネットワークディスク、またはリムーバブルメディア (LS120、JAZ、Zip ドライブなど) です。
4. ステップ 3 で入力した基本バックアップ先がローカルの固定ハードディスクである場合は、次のステップ 5 に進みます。代替バックアップ先を指定する必要はありません。
5. それ以外の場合は、テキストボックスに代替バックアップ先へのフルパスを入力し、[次へ] をクリックします。代替バックアップ先は、マシン上のローカルの固定ハードディスクでなければなりません。基本バックアップ先が使用できない場合に、ファイルはこの代替バックアップ先に格納されます。
6. [完了] をクリックします。
7. ファイルの初期バックアップを作成することをお奨めします。このためには、[いますぐバックアップ] をクリックします。
8. これで、指定したバックアップ条件に一致するすべてのファイルをバックアップできるようになりました (デフォルト)。または、前回のバックアップ時または特定の日付 / 時刻以降に作成または変更されたファイルだけをバックアップの対象にすることができます。
9. [OK] をクリックしてバックアップを開始します。

システムを監視する

デフォルトで DataKeeper は、システム上のすべての固定ドライブに対する変更を監視し、ハードウェアディスクに保存したすべてのファイルのバックアップを自動的に作成します。プログラムファイルディレクトリ、環境変数 Temp および Tmp で指定されたディレクトリ、および基本バックアップ先は、自動バックアップの対象から除外されます。これにより、バックアップにかかる時間を短縮し、システムへの影響を最小限に抑えます。これらのディレクトリやその他のファイルをバックアップしたい場合は、81 ページの「カスタムバックアップの作成」を参照してください。

監視（自動バックアップ）は、DataKeeper が動作している間、または [バックアップ] タブから [監視の停止] をクリックするまでの間、システム上で有効になっています。

バックアップファイルを復元する手順については、85 ページの「バックアップを復元する」を参照してください。

カスタムバックアップの作成

DataKeeper にはデフォルト設定以外に多くのオプションがあり、データのバックアップ方法をカスタマイズできます。選択したすべてのオプションをバックアップ定義ファイル (.DKS) に保存して後で使用することもできます。

1. DataKeeper で [バックアップ] タブをクリックします。

必要であれば、[監視の停止] をクリックして [バックアップ] タブのバックアップオプションにアクセスします。



2. 以下のバックアップオプションを選択します。

オプション	説明
監視対象のフォルダを選択	[監視対象のフォルダを選択] グループボックスでは、監視してバックアップするフォルダを選択します。
ファイルの種類を指定	[監視対象のフォルダを選択] グループボックスで、[ファイルの種類を指定] をクリックします。バックアップに含めるファイルの種類 (監視対象フォルダに含まれる場合) と、バックアップ時に無視するファイルの種類を確認します。 [一致するバックアップファイル] リストボックスと [次に一致するファイルを無視] リストボックスとの間でファイルタイプを移動するには、目的のファイルを選択し、適切な矢印 (<< または >>) をクリックしてファイルを移動します。 リストボックスにファイルの種類を追加するには、[ファイルの種類を追加] テキストボックスで「*.< ファイル拡張子 >」と入力して、[<< または >>] をクリックします。 ファイルタイプを削除するには、目的の拡張子を選択し、[削除] をクリックします。
バックアップ先: 基本	[バックアップ先] グループボックスで、指定された基本バックアップ先を確認します。または、[参照] をクリックして新しいバックアップ先を選択します。基本バックアップ先として指定できるのは、ローカルの固定ハードディスク、ネットワークディスク、またはリムーバブルメディア (LS120、JAZ、Zip ディスクなど) です。オプション名 [基本] の後に (アクティブ) という語が示されている場合、このバックアップ先が有効になっていることを表しています。基本バックアップ先が使用できない状態になると、代替バックアップ先が (アクティブ) 状態になります。
バックアップ先: 基本バックアップ先を選択	基本バックアップ先が利用できない場合は、[バックアップ先] グループボックスで、指定した代替バックアップ先を確認します。または、[参照] をクリックしてハードディスク上の代替バックアップ先を選択します。オプション名の後に (アクティブ) という語が示されている場合、基本バックアップ先が非アクティブ (利用できない状態) であることを表しています。これにより、代替バックアップ先が有効になっていることが分かります。
保存するバージョン	[オプション] グループボックスで、保持したいバックアップのバージョンの数 (1 ~ 99) を指定します。ファイルのバージョン管理によって、ファイルに誤った変更を加えた場合や、現在のバックアップが壊れた場合などに、以前のバックアップに戻ることができます。どのバージョンを復元するかを決めるには、バックアップの日付と時刻を確認します。

オプション	説明
日次 / 週次 / 月次アーカイブを保持	<p>[オプション] グループボックスで、[日次 / 週次 / 月次アーカイブを保持] を選択します。</p> <p>このオプションを選択すると、バージョン数を超えた場合でも、アーカイブコピーが保持されます。たとえば、最新の 5 バージョンのバックアップを保存するように指定した場合、[日次 / 週次 / 月次アーカイブを保持] を選択すると、DataKeeper は次のように処理します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指定されたファイルの最新の 5 つのバージョンを保存します。 • 古いファイルから順に 5 つのファイルを上書きします。 • 5 つの最新ファイルに加えて、日次で 7 つ、週次で 5 つ、月次で 12 までのアーカイブコピーを保存します。 • 前回のバックアップから変更されていないファイルについては、日次、週次、月次のバージョンを作成しません。
バックアップファイルを圧縮	<p>[オプション] グループボックスで、[バックアップファイルを圧縮] を選択します。</p> <p>バックアップ時にファイルを圧縮すると、使用するハードディスク領域を節約できます。</p>
パスワードによってバックアップファイルをロック	<p>[オプション] グループボックスで、[パスワードによってバックアップファイルをロック] を選択し、[パスワード] および [パスワードの確認] テキストボックスにパスワードを入力して [OK] をクリックします。</p> <p>パスワードは大文字と小文字を区別します。パスワード保護されたバックアップを復元すると、DataKeeper はパスワードの入力を求めます。正しいパスワードを入力しなかった場合、またはパスワードを忘れた場合は、バックアップファイルを開くことができません。</p>

3. (必要に応じて) 後で使用できるように、選択したバックアップオプションをバックアップ定義ファイル (.DKS) に保存します。[ファイル] [保存] をクリックし、バックアップ定義ファイルの名前を入力して [保存] をクリックします。

このステップは、バックアップするデータの種類に基づいて異なるオプションを選択することが多い場合に役立ちます。後で別に作成したバックアップに対してその .DKS ファイルを使用することができます。 .DKS ファイルを選択するには、[ファイル] [開く] をクリックし、目的のバックアップ定義ファイルを選択して [開く] をクリックします。バックアップオプションがすべて設定されます。

4. 新しくカスタマイズしたバックアップセットの初期バックアップを行うことをお奨めします。このためには、[いますぐバックアップ]をクリックします。

ここで、指定されたバックアップ条件を満たすファイルをすべてバックアップするように選択できます。これはデフォルトの選択です。または、前回のバックアップ以降に変更されたファイルだけをバックアップしたり、特定の日付および時刻より後に作成または変更されたファイルだけをバックアップしたりできます。

5. [OK] をクリックしてバックアップを開始します。
6. 初期バックアップを作成したら、[監視を開始] をクリックすると、DataKeeper がバックグラウンドで動作して、変更されたファイルを自動的にバックアップします。
選択したカスタムバックアップオプションは、再度変更を加えるまで有効です。

モバイルのサポート

出張先などでラップトップコンピュータを使用していて、バックアップ時に基本バックアップ先（ネットワークディスク）が利用できない場合は、ファイルを自動的に代替バックアップ先に保存します。代替バックアップ先を変更するには、[バックアップ] タブの [基本格納先が利用できない場合に代替の格納先として使用] テキストボックスの右側にある [参照] をクリックします。

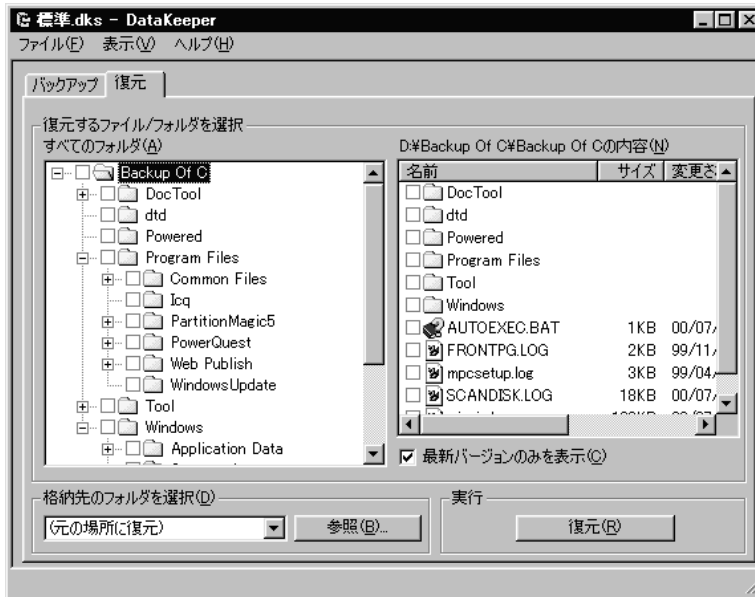
現在のバックアップ先が代替バックアップ先であるときに、起動時に監視が有効になっていて基本バックアップ先（ネットワークディスク）が検出された場合は、代替バックアップ先を基本バックアップ先に変更するように指示されます。基本バックアップ先に変更すると、すべてのバックアップファイルは指定された基本バックアップ先にコピーされ、代替バックアップ先からは削除されます。

代替バックアップ先を基本バックアップ先に変更しないように選択した場合は、監視を再起動して基本バックアップ先が検出されるたびに同じメッセージが表示されます。

バックアップを復元する

バックアップされた個々のファイルやフォルダまたは複数のファイルやフォルダを、1回の簡単な操作で復元できます。

1. DataKeeper の [復元] タブをクリックします。



2. バックアップ先を選択し、[OK] をクリックします。
ファイルのバックアップ先が1箇所しかない場合は、この手順をとばして手順3に進みます。
3. 復元するファイル、フォルダ、およびドライブを選択します。
4. 各ファイルの最新のバックアップバージョンだけを表示するには、[最新バージョンのみを表示] を選択します。ファイルのすべてのバージョンを表示する場合は、このオプションの選択を解除します。DataKeeper を使用してバックアップしたものだけが復元できます。
5. ドロップダウンリストから復元先のフォルダまたはドライブを選択します。[参照] をクリックして復元先のフォルダを選択することもできます。
復元先のフォルダを指定しない場合は、元の場所に復元されます。
6. [復元] をクリックしてファイルの復元を開始します。

バックアップのバージョンの表示

1. DataKeeper の [復元] タブをクリックし、バックアップ先を選択します。
2. [目次] ペインの [タグ] および [バージョン] 列をマークします。これらの列が表示されていない場合は、右側にスクロールして表示します。[バージョン] 列には次の情報が表示されています。
 - D: 日次バックアップ
 - W: 週次バックアップ
 - M: 月次バックアップアーカイブファイル以外のファイルに対しては、この列は空白になっています。

[タグ] 列のタグ値 (aa、ab、ac など) は固有の識別子であり、バックアップの順序や古さには無関係です。

Windows ショートカットから DataKeeper を起動する

デスクトップ上の Windows ショートカットから DataKeeper を起動すると、DataKeeper は指定されたバックアップ定義ファイルを自動的に実行します。保存してあるそれぞれのバックアップ定義ファイルのショートカットを作成しておくくと便利です。

1. デスクトップにショートカットを作成する方法については、Windows のオンラインヘルプを参照してください。
2. [ショートカットの作成] ダイアログボックスの [コマンドライン] フィールドに、DataKeeper プログラム (DATAKEEPER.EXE) へのフルパスを入力します。
3. (必要に応じて) [コマンドライン] フィールドのフルパスの末尾 (二重引用符の右側) に、以下のコマンドを 1 つまたは複数追加します。
コマンドラインオプションの順序は重要ではありません。

コマンドラインオプション

[*.DKS] の代わりに実際のバックアップ定義ファイルの名前を指定してください。

コマンドライン オプション

説明

[*.DKS]	DataKeeper を起動し、指定されたバックアップ定義ファイルをロードします。例： "C:¥Program Files¥DataKeeper¥DataKeeper.exe" C:¥My Backup Specs¥Manuals.dks
-c [*.DKS]	DataKeeper を起動し、指定されたバックアップ定義ファイルをロードし、監視を開始します。例： "C:¥Program Files¥DataKeeper¥DataKeeper.exe" -c C:¥My Backup Specs¥Manuals.dks
-r [*.DKS]	DataKeeper を起動し、指定されたバックアップ定義ファイルをロードし、バックアップを実行した後で DataKeeper を終了します。例： "C:¥Program Files¥DataKeeper¥DataKeeper.exe" -r C:¥My Backup Specs¥Manuals.dks
-a.	-r オプションと併用して使用します。DataKeeper を起動し、指定されたバックアップ定義ファイルをロードし、選択されたファイルのバックアップを実行した後で DataKeeper を終了します。例： "C:¥Program Files¥DataKeeper¥DataKeeper.exe" -r -a C:¥My Backup Specs¥Manuals.dks
-m	-r オプションと併用して使用します。DataKeeper を起動し、指定されたバックアップ定義ファイルをロードし、前回のバックアップ時以降に変更されたファイルのバックアップを実行した後で DataKeeper を終了します。例： "C:¥Program Files¥DataKeeper¥DataKeeper.exe" -r -m C:¥My Backup Specs¥Manuals.dks
-s="date"	-r オプションと併用して使用します。DataKeeper を起動し、指定されたバックアップ定義ファイルをロードし、指定された日付以降に変更されたファイルのバックアップを実行した後で DataKeeper を終了します。日付は引用符で囲み、-s="yyyy/mm/dd hh:mm:ss." の形式で指定しなければなりません。例： "C:¥Program Files¥DataKeeper¥DataKeeper.exe" -r C:¥My Backup Specs¥Manuals.dks -s="2000/07/25 9:15:00"

ヘルプの利用

このマニュアルに記載された以外の情報が必要な場合は、オンラインヘルプを参照してください。DataKeeper のいずれかのダイアログで [ヘルプ] をクリックするか、またはメニューバーの [ヘルプ] [ヘルプトピック] をクリックします。

DataKeeper を終了する

1. DataKeeper の [ファイル] [終了] をクリックします。

DataKeeper が終了し、ファイルはバックアップされません。

DataKeeper ウィンドウの右上隅にある [_] をクリックすると、プログラムがアイコン化されて Windows システムトレイに入れられます。

付録 A

その他の操作

この付録で説明する内容は次のとおりです。

- SCSI ハードディスクドライブで Drive Image を使う
- ドライブオーバーレイソフトウェアと一緒に Drive Image を使う
- ノート PC で Drive Image を使う
- Castlewood ORB ドライブで Drive Image を使う
- CD-ROM にドライブレターを割り当てる
- Ghost イメージファイルを Drive Image ファイルに変換する
- 国際キーボードを使う
- ジャンパ設定を見つける

SCSI ハードディスクドライブで Drive Image を使う

Drive Image を SCSI ハードディスクで使うには、ソフトウェア割り込み 13(INT13)に対応した SCSI コントローラカードが必要です。ほとんどの SCSI コントローラカードは、BIOS のソフトウェア割り込み 13 に対応するように設定できます。設定できない場合は、その SCSI アダプタに接続されたドライブで Drive Image を使うことはできません。使用しているアダプタがソフトウェア割り込み 13 に対応しているかどうかは、製造元に直接お問い合わせください。一般に、FDISK でパーティションを作成できるドライブであれば、Drive Image も使うことができます。

ドライブオーバーレイソフトウェアと一緒に Drive Image を使う

古いバージョンの BIOS を使用しているシステムでディスクコピーを IDE から IDE、または IDE から SCSI に実行する場合は、Disk Manager や EZ-Drive などのドライブオーバーレイソフトウェアが必要です。

重要： SCSI から SCSI にコピーする場合は、SCSI 自体が独自の転送メカニズムを備えているため、古いバージョンの BIOS では動作しません。

ここでは、IDE と SCSI ハードディスクドライブのインストール方法について説明します。次からの例では、システム構成別にインストール手順をステップごとに説明していきます。

事例 1

- システムは、504MB を超えるドライブをサポートしていない BIOS を採用しています。
- コピー元のドライブは、504MB より小さい IDE ドライブです。ドライブオーバーレイプログラムはインストールされていません。
- コピー先のドライブは、504MB を超える IDE ドライブです。古いバージョンの BIOS で認識するには、ドライブオーバーレイプログラムが必要です。

手順

1. コピー先のドライブをマスタードライブ、コピー元のドライブをスレーブドライブとしてセットし、BIOS で自動検出機能を実行します。
2. ドライブオーバーレイの起動ディスクからコンピュータを再起動します。
3. マスタードライブとして設定したコピー先のドライブにドライブオーバーレイプログラムをインストールします。その方法については、製造元にお問い合わせください。
4. もう一度コンピュータを再起動して、ドライブオーバーレイプログラムをロードします。

5. Drive Image の起動ディスクをフロッピーディスクドライブ (A:) に挿入します。
6. ドライブオーバーレイの起動メニューで、フロッピーディスクから起動するオプションを選択します。
7. Drive Image が表示したドライブ別の容量と、コピーシーケンスの順番が正しいかどうかを確認します。
8. コピー処理を完了します。

事例 2

- システムは、504MB を超えるドライブをサポートしていない BIOS を採用しています。
- コピー元のドライブは、504MB を超える IDE ドライブです。ドライブオーバーレイプログラムはロードされています。
- コピー先のドライブは SCSI ドライブです。ドライブオーバーレイプログラムは必要ありません。

手順

1. コピー元のドライブをマスタードライブのままにしておきます。
2. SCSI ドライブを SCSI チェーンで最下位の SCSI ID にセットします。
3. BIOS の自動検出機能を実行し、IDE ドライブが認識されていることを確認します。
4. SCSI BIOS を実行し、SCSI ドライブが認識されていることを確認します。
5. コンピュータを再起動して、ドライブオーバーレイプログラムをロードします。
6. Drive Image の起動ディスクをフロッピーディスクドライブ (A:) に挿入します。
7. ドライブオーバーレイの起動メニューで、フロッピーディスクから起動するオプションを選択します。
8. Drive Image が表示したドライブ別の容量と、コピーシーケンスの順番が正しいかどうかを確認します。
9. コピー処理を完了します。

事例 3

- システムは、504MB を超えるドライブをサポートしていない BIOS を採用しています。
- コピー元のドライブは、504MB を超える IDE ドライブです。ドライブオーバーレイプログラムはインストールされています。
- BIOS は、大容量ドライブに対応したものに更新されています。
- コピー先のドライブは、504MB を超える SCSI ドライブです。

手順

1. コピー元のドライブをマスタードライブのままにしておきます。
2. コピー先のドライブをインストールし、それをドライブ 0 として設定します。
3. BIOS を実行し、ドライブを自動検出します。
4. LBA が元のドライブに対してオフになっているかどうかを確認します。
5. SCSI BIOS を実行し、SCSI ドライブが認識されているかどうかを確認します。
6. コンピュータを再起動して、ドライブオーバーレイプログラムをロードします。
7. Drive Image の起動ディスクをフロッピーディスクドライブ (A:) に挿入します。
8. ドライブオーバーレイの起動メニューで、フロッピーディスクから起動するオプションを選択します。
9. Drive Image が表示したドライブ別の容量と、コピーシーケンスの順番が正しいかどうかを確認します。
10. コピー処理を完了します。

事例 4

- システムは、504MB を超えるドライブをサポートしていない BIOS を採用しています。
- コピー元のドライブは、504MB を超える IDE ドライブです。ドライブオーバーレイプログラムはインストールされています。
- BIOS は、大容量ドライブに対応したものに更新されています。
- コピー先のドライブは、504MB を超える IDE ドライブです。

手順

1. コピー元のドライブをマスタードライブとして設定します。
2. コピー先のドライブをスレーブドライブとして設定します。
3. 新しい BIOS を実行し、ドライブを自動検出します。
4. LBA がコピー先のドライブに対してオン、コピー元のドライブに対してオフになっているかどうかを確認します。
5. コンピュータを再起動して、ドライブオーバーレイプログラムをロードします。
6. Drive Image の起動ディスクをフロッピーディスクドライブ (A:) に挿入します。
7. ドライブオーバーレイの起動メニューで、フロッピーディスクから起動するオプションを選択します。

8. Drive Image が表示したドライブ別の容量と、コピーシーケンスの順番が正しいかどうかを確認します。
9. コピー処理を完了します。

ノート PC で Drive Image を使う

ノート型コンピュータで Drive Image を使うために PCMCIA スロットをアクティブにするには、DOS で正しいドライバをロードする必要があります。

1. 使用しているハードウェア用の適切なカードサービス DOS ドライバを特定します。
このドライバは、ハードウェアの製造元により提供されます。ドライバの名前は製造元によってさまざま、代表的なものにカードサービス、カードバスサービス、CardWare などがあります。必要なドライバがわからない場合は、ハードウェアのマニュアルを参照するか、ハードウェアの製造元にお問い合わせください。
2. カードサービスドライバをロードするためのステートメントを CONFIG.SYS ファイルに追加します。
たとえば、`DEVICE=PCMI80CL.SYS` のようなステートメントにします。
デバイスを設定するための別のスイッチがある場合もあります。詳細については、ハードウェアの製造元の情報を参照してください。
3. 必要な NIC ドライバまたは SCSI ドライバをロードするためのステートメントを CONFIG.SYS ファイルに追加します。
たとえば、`DEVICE=C:\¥3COM¥EL589ND4.SYS` のようなステートメントにします。

Castlewood ORB ドライブで Drive Image を使う

Drive Image で Castlewood ORB ドライブを使うには、コンピュータの BIOS でドライブが正しく設定されていなければなりません。ドライブが正しく設定されていると、DOS によりドライブレターが割り当てられ、サイズの大きいファイルを読み取ったり、コピーを行うことができるようになります。Drive Image は、コンピュータの BIOS でドライブをリムーバルメディアとして認識できるよう設定できる場合のみ、ORB ドライブをリムーバルメディアとして認識します。

DOS 環境で ORB ドライブを設定する方法については、お手持ちの ORB ドライブのオーナーズマニュアルを参照するか、Castlewood Systems, Inc.(www.castlewood.com または help@castlewood.com) にお問い合わせください。

Drive Image で ORB ドライブを使用する方法については、Web サイト (www.powerquest.com/support/orb) を参照してください。

CD-ROM にドライブレターを割り当てる

コンピュータに CD-ROM ドライブやその他のリムーバブルメディアドライブを接続している場合は、この種のデバイスにドライブレターが割り当てられるときに問題が発生する場合があります。

Drive Image はドライブレターを割り当てません。これはオペレーティングシステムの機能です。オペレーティングシステムがドライブレターを割り当てる順序は決まっています。まず、各ハードディスクドライブ上で最初に認識した基本パーティションにドライブレターを割り当て、次に、各ドライブ上のすべての論理パーティションにドライブレターを割り当てます。最後に、CD-ROM ドライブなどその他のリムーバブルメディアドライブにドライブレターを割り当てます。

CD-ROM ドライブは最後にドライブレターを割り当てられるドライブのひとつであるため、ハードディスクドライブでパーティションを作成または削除すると、CD-ROM ドライブのドライブレターはその影響を受けて変更されます。このようなドライブレター割り当ての変更は、通常、オペレーティングシステムによって自動的に行われます。ただし、オペレーティングシステムが新しいドライブレターを CD-ROM ドライブに割り当てることができないこともあります。この問題が発生した場合は、次の手順で対処してください。

DOS/Windows 3.11 を使用している場合や、CD-ROM ドライブを Windows 95 の DOS にロードしている場合は、次の手順に従います。

1. DOS プロンプトに続けて、「EDIT C:¥CONFIG.SYS」と入力します。
DOS のエディタプログラムが起動し、CONFIG.SYS ファイルが開きます。
2. LASTDRIVE=*drive* という行の *drive* を Z に変更します。*drive* には、任意のアルファベット 1 文字が入っています。
これにより、オペレーティングシステムは Z までのドライブレターを割り当てようになります。
3. [ファイル] [終了] をクリックします。
4. [はい] をクリックしてファイルを保存します。
5. C:¥ プロンプトに続けて、「EDIT C:¥AUTOEXEC.BAT」と入力します。
DOS のエディタプログラムが起動し、AUTOEXEC.BAT ファイルが開きます。
6. MSCDEX が含まれる行を探します。/L:*drive* パラメータがこの行末に表示されます。*drive* には、Drive Image でパーティションを変更する前に CD-ROM に割り当てられていたドライブレターが指定されています。このドライブレターを Z に変更します。
こうしておけば、オペレーティングシステムがほかのドライブにドライブレターを割り当てるときに Z は使用しないので、この後にパーティションを変更したとしても、CD-ROM のドライブレターが無効になることはありません。

詳細については、DOS プロンプトに続けて「HELP MSCDEX」と入力して参照してください。

コンピュータがネットワークに接続されている場合は、ネットワークにログインするとき、Zをはじめアルファベットの末尾にある文字がネットワークの検索ドライブに割り当てられることがあります。この場合は、ネットワークの検索ドライブに使用されている先頭文字の1つ前のアルファベットをCD-ROMに割り当ててください。

7. [ファイル] [終了]をクリックします。ファイルを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。
8. DOS プロンプト (C:\) が表示されたら、コンピュータを再起動します。

Windows 95 を使用していて、CD-ROM に Windows 95 のドライバを使っている場合は、次の手順に従います。

1. [スタート] [設定] [コントロールパネル] [システム]をクリックします。
2. [システムのプロパティ]画面で、[デバイスマネージャ]を選択します。
コンピュータに接続されているデバイスのリストが表示されます。
3. [CD-ROM] をダブルクリックし、表示された CD-ROM デバイスをダブルクリックします。
4. [設定] タブをクリックします。
5. [設定] ページの下部に、[予約ドライブ文字] があります。ここには、[開始ドライブ] と [終了ドライブ] の2つのドロップダウンリストボックスがあります。これらのリストボックスの値をZに変更します。
オペレーティングシステムがほかのドライブにドライブレターを割り当てるときにZまでは使用しないため、この後にパーティションを変更したとしても、CD-ROM のドライブレターが無効になることはありません。
6. [OK] をクリックして、[設定] ページを閉じます。
7. [OK] をクリックして、[システムのプロパティ] ページを閉じます。
8. [はい] をクリックして、コンピュータを再起動します。

Ghost イメージファイルを Drive Image ファイルに変換する

Drive Image CD の ¥SETUP¥OS2DOS ディレクトリには、Ghost イメージファイルを Drive Image ファイルに変換するバッチファイルのサンプルが 3 つ用意されています。この処理を実行するには、Ghost がインストールされたコンピュータが必要です。また、復元したときに最大サイズとなる Ghost イメージを格納できるだけの容量があるスクラッチハードディスクドライブをそのコンピュータに接続します。

これらのバッチファイルは、まず Ghost イメージをスクラッチハードディスクドライブに復元し、次に Drive Image を使ってそのハードディスクドライブから Drive Image ファイルを作成します。このとき、スクラッチハードディスクドライブにデータが残っていると復元時に上書きされてしまいますので注意してください。コンピュータの基本ハードディスクドライブを保護するために、第 2 ハードディスクドライブをスクラッチハードディスクドライブとして使うことができます。

用意されているバッチファイルは、PQCVT.BAT、PQCVT2.BAT、および PQCVT3.BAT です。

サンプルファイルは、お使いのコンピュータとネットワーク環境に合わせて変更（ディレクトリパスと実行ファイルの位置を指定）する必要があります。

PQCVT.BAT を使用する

PQCVT.BAT ファイルは、コマンドラインからプログラムパス、イメージファイル名、および作業ドライブ情報を指定するときに使います。

バッチファイルを実行するには、次の引数を指定します。

```
PQCVT <Ghost exe path> <Ghost image file path> <Drive Image  
exe path> <Drive Image image file path> <disk drive number>
```

引数	説明
<Ghost EXE path>	Ghost EXE プログラムへのフルパス
<Ghost image file path>	変換対象の Ghost イメージファイルへのフルパス
<Drive Image EXE path>	Drive Image EXE プログラムへのフルパス
<Drive Image image file path>	これから作成する Drive Image ファイルへのフルパス
<disk drive number>	作業ディスクドライブの番号。 1= 基本ドライブ、2= 第 2 ドライブ。

たとえば、次のように指定します。

```
PGCVT S:¥BIN¥GHO210 T:¥OLD¥I12345.GHO S:¥BIN¥DM
T:¥NEW¥I12345.PQI 2
```

この例では、s:¥bin¥gho210 に置かれている Ghost プログラムを実行し、イメージファイル t:¥old¥i12345.gho を第 2 ハードディスクドライブに復元します。次に、s:¥bin¥dm に置かれている Drive Image プログラムを実行し、第 2 ハードディスクドライブからイメージファイルを t:¥new¥i12345.pqi に新しく作成します。

コマンドシェルからバッチファイルを実行して出力先を変更すれば、ログファイルを作成できます。たとえば、次のように指定します。COMMAND/C PQCVT IMAGE.GHO >CVT.LOG

PQCVT2.BAT を変更する

PQCVT2.BAT ファイルは、プログラムパスと作業ドライブ情報を「密結合する」ときに使います。バッチファイル自体にこの情報を入力しておけば、バッチコマンドラインに引数としてイメージファイル名を入力するだけで済みます。たとえば、次のように入力します。

```
PQCVT2 I12345
```

PQCVT2.BAT ファイルのパスを編集して実行すると、Ghost イメージプログラムが実行され、イメージファイル I12345.GHO が第 2 ハードディスクドライブに復元されます。次に、Drive Image のプログラムが実行され、新しいイメージファイルが作成されます。

バッチファイルを変更するには、次の手順に従います。

1. PQCVT2.BAT ファイルをメモ帳や DOS Editor などの DOS テキストエディタで読み込みます。
2. ファイルを編集し、ggg1、ggg2、ddd1、ddd2、および 9999 の記述を Ghost 実行ファイルのパス情報、新しいイメージファイルのパス情報、およびドライブ番号にそれぞれ置き換えます。
3. REM 文に続く先頭の GOTO 行を削除してファイルを保存します。

複数のファイルを変換する

既存の複数の Ghost イメージファイルを変換するには、PQCVT3.BAT ファイルを使い、次のように指定します。

```
PQCVT3 <file path and pattern>
```

このバッチコマンドは、指定したディレクトリから Ghost イメージファイルを検索し、指定のファイルパターンに一致する各ファイルに対して PQCVT2 バッチコマンドを呼び出します。特定のファイルを指定する代わりに、MS-DOS の入力規則を使うことができます。たとえば、「*」を使って任意の数の文字を表わしたり、「?」を使って任意の 1 文字を表わします。

国際キーボードを使う

Drive Image の緊急用ディスクを使うと、慣れた方法でキーボードが使えなくなったり、拡張文字を正しく表示できなくなったりすることがあります。Drive Image 緊急用ディスクには、これらの問題を解決するためのファイルが収められています。

国際キーボードまたは文字セットを使う場合は、緊急用ディスク上の AUTOEXE2.BAT ファイルおよび CONFIG.SYS ファイルを編集する必要があります。

1. AUTOEXE2.BAT ファイルでは、以下の行がコメントアウトされています。各行の先頭にある REM を削除し、変数 *xx* および *yyy* を使用言語に合ったキーボードコードおよび文字セットコードページに置き換えます。

```
MODE CON CP PREP=((yyy)EGA.CPI)
MODE CON CP SEL=yyy
KEYB xx,yyy
```

xx = 2 文字のキーボードコード (US や FR など)

yyy = 文字セットコードページ (437 など)

2. AUTOEXE2.BAT ファイルを保存します。
3. CONFIG.SYS ファイルでは、以下の行がコメントアウトされています。この行の先頭にある REM を削除し、変数 *yyy* を使用言語に合った文字セットコードページに置き換えます。

```
DEVICE=DISPLAY.SYS CON=(EGA,yyy,)
```
4. CONFIG.SYS ファイルを保存します。
5. 最初の緊急用ディスクから再起動します。

ジャンパ設定を見つける

ハードディスクドライブのジャンパ設定を見つけるには、ハードディスクドライブのインストールガイドを参照するか、ハードディスクドライブの製造元に直接お問い合わせください。ハードディスクドライブの製造元の Web サイトには、通常、ハードディスクドライブを正しくインストールするために必要な情報が掲載されています。

また、www.thetechpage.com の Web サイトにも役立つ情報が掲載されています。この Web サイトには、代表的なハードディスクドライブの製造元一覧のほか、これまでに製造されたあらゆるハードディスクドライブのジャンパ設定が掲載されています。その他のジャンパ設定に関する情報は、OnTrack の Web サイト (www.ontrack.com) から入手できます。(株) ネットジャパンではこれらの Web サイトの内容に責任を負いません。また、Web サイトのアドレスは変更されている場合もあります。

付録 B

リムーバブルメディアドライブの設定

付録 B では、Drive Image に付属しているリムーバブルメディアドライブのデバイスドライバとそのインストール方法について説明します。

Drive Image のインストールプログラム (Windows 用) または MAKEDISK.BAT ファイル (OS/2 と DOS 用) を使うと、リムーバブルメディアドライブのドライバのインストールと設定を行うことができます。ここでは、これらのドライバを手動で設定したり、標準の設定を変更する方法を説明します。MAKEDISK.BAT ファイルの詳細については、5 ページの「OS/2 または DOS のみのコンピュータにインストールする」を参照してください。

ネットワーククライアントでリムーバブルメディアを使用する

パラレルポートデバイス (Jaz または Zip) をネットワーククライアントで使用している場合に、パラレルポートのデバイスドライバをネットワーククライアントと一緒にロードすると、システムが停止する場合があります。パラレルドライブのデバイスドライバを正常にインストールするには、ネットワーククライアントをロードせずにシステムを再起動してください。

Iomega ドライバ

Iomega では、AUTOEXEC.BAT ファイルからドライバをロードするためのドライバのローダープログラムを提供しています。Iomega ドライバプログラムは、ASPI マネージャと一緒にロードしないと Zip ドライブや Jaz ドライブを使用できません。Drive Image インストールプログラムは、SCSI、IDE、パラレルポートの各インターフェイス用の各種 ASPI マネージャを DRIVERS ディレクトリにコピーします。

Iomega ドライバプログラムは、ASPI マネージャを 1 つずつロードして合致するものを探し出します。このような正しい ASPI マネージャを探し出す過程がなければ、ロード時間を短縮できます。

Iomega では、USB(Universal Serial Bus) ポートに接続する Zip ドライブ用の DOS ドライバを提供していません。したがって、USB ポートに接続された Zip ドライブに対して、イメージファイルの作成や復元を行うことはできません。

PowerQuest のサポート Web サイトでドキュメント『Using Drive Image with Iomega Removable Drivers』にアクセスすることができます。support.powerquest.com にアクセスして、"Iomega" を検索してください。このドキュメントは英語版のみが提供されています。Iomega ドライバの詳細については、Iomega 製品に付属しているインストールディスク、または Iomega の Web サイト (<http://www.iomega.com>) を参照してください。

GUEST.INI ファイルを編集する

1 つまたは 2 つのホストアダプタしか使わない場合は、GUEST.INI ファイルを編集して必要のない ASPI マネージャをコメントアウトすることができます。そのためには、REM コマンドを使います。こうすることによって、通常使用する ASPI マネージャだけをロードして確認できます。

1. DRIVERS ディレクトリから、Windows のメモ帳や DOS の EDIT などのテキストエディタを使って、GUEST.INI ファイルを開きます。
2. 使用しているドライブ用の Iomega ドライバの ASPI マネージャが記述されている行を探します。たとえば、通常 Iomega の PC1616 アダプタを使用している場合は、ASPI=ASPI1616.SYS の記述がある行が該当します。

次の表は、サポートされている Iomega アダプタと、対応する ASPI マネージャの一覧です。

Iomega アダプタ	ASPI マネージャ
Jaz jet PCI (PC/Mac モデル)	ADVASPI.SYS
Jaz jet (PC モデル)	ASPI8DOS.SYS
Jaz jet ISA	ASPIPC16.SYS
Jaz Traveller	ASPIPPM1.SYS
パラレルポート Zip ドライブ	ASPIPPM1.SYS

Iomega アダプタ	ASPI マネージャ
Zip zoom SCSI アクセラレータ	ASPIPC16.SYS
ZipカードPCMCIA SCSIアダプタ	ASPIPC16.SYS
Zip IDE ドライブ	ASPIIDE.SYS
PC1616 アダプタ	ASPI1616.SYS
PC1600 アダプタ	ASPIPC16.SYS

SCSI Zip ドライブで Iomega 以外の SCSI アダプタを使用している場合は、ASPI との互換性がある SCSI アダプタが必要です。SCSI アダプタの製造元から ASPI マネージャを入手してください。

- ロードする必要のないASPIマネージャが記述されている行の先頭にREMを追加します。

Zip ドライブや Jaz ドライブを Iomega の PC1616 アダプタに接続している場合は、ASPI1616.SYS 以外の行に REM を追加します。

```
REM ASPI=ASPIPPM1.SYS /INFO FILE=NIBBLE.ILM SPEED= 1
REM ASPI=ASPIIDE.SYS /INFO
REM ASPI=ASPI8DOS.SYS /D
REM ASPI=ADVASPI.SYS
REM ASPI=ASPIPC16.SYS INFO
ASPI=ASPI1616.SYS /SCAN /INFO
```

- GUEST.INI ファイルを変更したら、その内容を保存してエディタを終了します。ワードプロセッサで変更した場合は、必ず ASCII テキストまたは DOS テキストの形式でファイルを保存してください。

コメントアウトしたASPIマネージャが後で必要になった場合は、もう一度GUEST.INI ファイルを編集して ASPI マネージャの行から REM コマンドを削除します。

ASPI マネージャについて

Iomega ドライバプログラムで使用できる ASPI マネージャについては、Iomega インストールディスクの「インストールマニュアル」(MANUAL.EXE) を参照してください。

- WindowsまたはDOSのDOSプロンプトに続けて「A: 」と入力し、Enterキーを押します。
- 「MANUAL」と入力し、Enter キーを押します。

lomega ドライブにドライブレターを割り当てる

Iomega ドライブに割り当てるドライブレターを指定する場合は、コマンドラインに `LETTER=option` を追加します。たとえば、「`GUEST.EXE LETTER=G`」と入力すると、最初に見つかった対応ドライブに G が割り当てられます。

複数の Iomega ドライブを使用している場合は、アルファベット順で G の次のドライブレターが 2 台目以降のドライブに割り当てられていきます。複数のドライブをサポートする場合、ドライブレターは SCSI ID 番号の小さいドライブから順番に割り当てられます。

MO ディスクドライブ

3.5 インチ MO ドライブは、SCSI インターフェイスまたは ATAPI インターフェイスで接続されます。それぞれのインターフェイスに合わせて、別個の DOS デバイスドライバが用意されています。各デバイスドライバは、FAT(File Allocation Table) ファイルシステム、読み書き、ディスク変更ステータスに対応しています。

SCSI デバイスドライバには、SCSI ホストアダプタカードとそれに対応した ASPI マネージャが必要です。詳細については、104 ページの「ASPI マネージャと対応アダプタ」と SCSI ホストアダプタのマニュアルを参照してください。

3.5 インチ MO ディスクには、いくつかの種類があります。

ボリュームフォーマットには、スーパーフロッピー、AT ハードディスク、NSR フォーマットがあります。ドライバがボリュームフォーマットを自動的に検出し、論理ドライブレター (D: など) を割り当てます。有効なフォーマットまたはパーティションが検出できなければ、デバイスドライバはそのディスクを未フォーマットとして認識します。MO ディスクのフォーマットについては、製品に付属しているドライバのマニュアルを参照してください。

MO ドライバのインストール

ATAPI MO デバイスドライバは、次のコマンドを使って、`CONFIG.SYS` ファイルでロードします。

```
DEVICE[HIGH]=(path)¥MODISKAP.SYS [/P][/Ii][/Rr]
```

SCSI MO デバイスドライバをロードするには、`CONFIG.SYS` ファイルで次のコマンドを使います。

```
DEVICE[HIGH]=(path)¥ASPIXXX.SYS  
DEVICE[HIGH]=(path)¥MODISK2.SYS [/P][/Ii][/Rr]
```

`ASPIXXX.SYS` には、お使いの SCSI ホストアダプタに対応した ASPI マネージャを指定します。

オプションのスイッチ

/P

ドライバがロードされて初期化されたところで画面をいったん停止します。次の操作に進むには、いずれかのキーを押します。このオプションは、ドライバが表示するメッセージを確認したい場合に使います。

/li (ATAPI ドライバ)

IDE *i* ポートに接続されたデバイスだけをマウントします。この指定がないと、すべてのポートで MO デバイスが検索されます。

i は、次のように定義します。

- 1 = プライマリマスター
- 2 = プライマリスレーブ
- 3 = セカンダリマスター
- 4 = セカンダリスレーブ

/li (SCSI ドライバ)

ID *i* の SCSI デバイスだけをマウントします。この指定がないと、すべての SCSI ID が検索されます。ホストアダプタ番号も指定するには、「/lh:*i*」を入力します。*h* はホストアダプタ番号、*i* は SCSI ID です。複数のデバイスを指定するには、デリミタとして「+」を使います。たとえば、次のように指定します。/l0:1+1:2

/Rr

1 台のドライブに指定の数のドライブレター (*r*=1 から 10) を確保します。この指定がないと、1 つのドライブレターしか確保されません。ここで確保する数とドライブのパーティション数とは関係ありません。ドライバがアクセスできるのは、確保したドライブレターと同じ数のパーティションだけです。

挿入したディスクのパーティションが /r オプションで指定した数よりも多い場合は、定義されたパーティションと同じ数のドライブレターがディスクドライブに割り当てられません。パーティション数が確保したドライブレターの数よりも少ない場合は、ドライバが追加のドライブレターにアクセスしようとしたときにだけエラーになります。ドライバのロード中には、2048 バイトセクタのディスクは拒否されます。ロードが終了してからディスクを挿入してください。

LASTDRIVE

CONFIG.SYS の LASTDRIVE コマンドは、MO ディスクドライブに割り当てられるドライブレターには影響しません。ドライバが LASTDRIVE コマンドで指定したドライブレター（デフォルトは E:）よりも上位のドライブレターを割り当てると、CD-ROM ドライブにはアクセスできません。CD-ROM ドライブにアクセスできるようにするには、LASTDRIVE コマンドに大きな値を指定してください。

次のような状況では、デバイスドライバがメモリにロードされず、「ドライバをロードできません」というメッセージが表示されます。

- ASPI マネージャがロードされていない
- MO ドライブが見つからない（ディスクが挿入されているかいないかにかかわらず）
- ドライバが既にロードされている

重要： デフォルトでは、MO ディスクドライブの SMARTDRV キャッシュはオフになっています。これは、SMARTDRV の書き込みキャッシュがオンのときに書き込み保護がされているディスクにデータを書き込もうとすると、コンピュータをリセットしなければならないからです。

MO ディスクドライバの詳細については、製品に付属しているインストールディスク、または富士通の Web サイト (<http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/aboutmo/>) を参照してください。

ASPI マネージャと対応アダプタ

次の表は、Drive Image Pro に同梱されている ASPI マネージャとそれに対応するカードの一覧です。Drive Image は、SCSI カードに対応するためにインストールされた ASPI マネージャを使います。

ASPI8DOS.SYS

PCI バス

Adaptec AHA-2910A/2910B
Adaptec AHA-2930A/2930B
Adaptec AHA-2940/2940AU/2940W/2940U/2940UW
Adaptec AHA-2944W/2944UW
Adaptec AHA-3940/3940U/3940W/3940UW
Adaptec AVA-2904、AVA-2902E/I
Adaptec AIC-7850/7855/7860/7870/7880 ベースの SCSI ホストアダプタ
Jaz jet (PC モデル)

ASPI7DOS.SYS

EISA バス

Adaptec AHA-1740/1742/1744
Adaptec AHA-1740A/1742A
Adaptec AHA-2740/2742/2740T/2742T
Adaptec AHA-2740A/2742A/2740AT/2742AT
Adaptec AHA-2740W/2742W
Adaptec AIC-7770 ベースの SCSI ホストアダプタ

VL バス

Adaptec AVA-2825
Adaptec AHA-2840VL/2842VL
Adaptec AHA-2840A/2842A

ASPI4DOS.SYS

ISA バス

Adaptec AHA-1540B/1542B
Adaptec AHA-1540C/1542C
Adaptec AHA-1540CF/1542CF
Adaptec AHA-1540CP/1542CP
Microchannel Adaptec AHA-1640

ASPI2DOS.SYS

ISA バス

Adaptec AVA-1502P/AP
Adaptec AVA-1505
Adaptec AVA-1515
Adaptec AHA-1510/1520/1522
Adaptec AHA-1510A/1520A/1522A
Adaptec AHA-1510B/1520B/1522B
Adaptec AHA-1530P/1532P
Adaptec AVA-1502AE/AI、AVA-1505AE/AI、AVA-1505AES
Adaptec AIC-6260/6360/6370 ベースの SCSI ホストアダプタ
Adaptec AVA-1502AE/AI、AVA-1505AE/AI、AVA-1505AES

MCAM18XX.SYS

PCI バス

Adaptec AHA-2920/2920A

MA160.SYS

必要に応じて、GUEST.INI ファイルまたは LDSQSCSI.BAT ファイルの ASPI マネージャの行にこのアダプタを追加します。

ISA バス

Trantor T160
Microchannel Trantor T260

MA348.SYS

必要に応じて、GUEST.INI ファイルまたは LDSQSCSI.BAT ファイルの ASPI マネージャの行にこのアダプタを追加します。

パラレルポート Trantor MiniSCSI Plus(T348)
Adaptec MiniSCSI Plus(APA-348)

MA358.SYS

必要に応じて、GUEST.INI ファイルまたは LDSQSCSI.BAT ファイルの ASPI マネージャの行にこのアダプタを追加します。

パラレルポート Trantor MiniSCSI EPP(T358)
Adaptec MiniSCSI EPP(APA-358)
Adaptec MiniSCSI EPP(APA-358A)

ASPIIDE.SYS

IDE

SCSI から IDE の ASPI マネージャ
Zip IDE ドライブ

ASPIATAP.SYS

SCSI から ATAPI の ASPI マネージャ

ASPIPPM1.SYS と ASPIPPM2.SYS

SCSI からパラレルポートの Zip ドライバ
Jaz Traveller

ASPIEDOS.SYS

Adaptec AHA-1740/1742/1744(拡張モードのみ)

ASPIPC16.SYS

PC1600 アダプタ Zip Zoom SCSI アクセラレータ
Adaptec APA-1460 とその他の AIC-6260/5360 ベースのアダプタ
Jaz jet ISA アダプタ
Zip zoom SCSI アクセラレータ
Zip カード PCMCIA SCSI アダプタ

ASPI1616.SYS

PC1616 とその他の NCR-53C406A ベースのアダプタ

ASPI2930.SYS

AHA-2930 アダプタ

付録 C

トラブルシューティング

付録 C では、Drive Image の使用時に発生する可能性のある問題を修復する方法について説明します。この付録で説明する内容は次のとおりです。

- CD-ROM ドライブにアクセスする
- Drive Image の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する
- 診断エラーを修復する
- パーティションテーブルエラーを修復する
- パーティションテーブルとウイルス
- PARTINFO を使って診断レポートを作成する
- エラーメッセージと解決策

CD-ROM ドライブにアクセスする

Drive Image から CD-ROM ドライブにアクセスする必要がある場合は、CD-ROM ドライバをロードするためのコマンドを CONFIG.SYS ファイルに追加します。また、CD-ROM の機能拡張をロードするためのコマンドを AUTOEXEC.BAT ファイルに追加します。

1. DOS プロンプトで、編集対象の CONFIG.SYS ファイルがあるディレクトリに移動します。たとえば、起動ディスクに収められている CONFIG.SYS ファイルを編集する場合は、「*drive:*」と入力し、Enter キーを押します。ここで、*drive* には、起動ディスクのドライブレターを指定します。
2. 「EDIT CONFIG.SYS」と入力し、Enter キーを押します。これで、DOS エディタが起動し、CONFIG.SYS ファイルが読み込まれます。
3. DEVICE コマンドまたは DEVICEHIGH コマンドを追加します。たとえば、次のように入力します。

```
DEVICE=[drive:][path]filename [dd-parameters]
```

または、次のように入力します。

```
DEVICEHIGH=[drive:][path]filename [dd-parameters]
```

[*drive:*][*path*]*filename* には、CD-ROM のデバイスドライバの場所と名前を指定し、[*dd-parameters*] にはデバイスドライバに必要なコマンドライン情報を指定します。

コンベンショナルメモリを節約する必要がある場合は、DEVICEHIGH コマンドを使用してください。111 ページの「Drive Image の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する」を参照してください。

デバイスドライバの詳細については、CD-ROM に付属のマニュアルを参照してください。

4. [ファイル] [保存] をクリックしてファイルを保存します。
5. [ファイル] [開く] をクリックして AUTOEXEC.BAT ファイルを開きます。
6. コマンドライン MSCDEX.EXE を追加します。
7. [ファイル] [保存] をクリックしてファイルを保存します。
8. [ファイル] [終了] をクリックしてエディタを終了します。

Drive Image の起動に必要なコンベンショナルメモリを確保する

DOS の Drive Image 実行ファイルを起動するには、コンピュータのアドレス領域の最初 (下位) の 640KB 以内 (コンベンショナルメモリ) に最低 400KB のメモリが必要です。コンベンショナルメモリが足りない場合は、次の方法で必要なメモリを確保してください。

MEMMAKER を実行する

MEMMAKER は、DOS の起動時にロードされるデバイスドライバやプログラムの設定を変えずに、コンベンショナルメモリを節約するようにコンピュータを自動的に設定するプログラムです。できるだけ多くのアプリケーションをコンベンショナルメモリから上位のメモリに移動することによって、コンベンショナルメモリを確保します。MEMMAKER を実行するには、DOS プロンプトで「MEMMAKER」と入力します。以降は、画面に表示される指示に従って操作してください。

MEMMAKER は、DOS 6.0 より前のバージョンでのみ使用できます。Windows 95、98 では使用できません。

F8 キーでプログラムのロードを中止する

MEMMAKER を実行しても十分なコンベンショナルメモリを確保できなかった場合は、コンピュータを起動した直後の DOS の起動中に F8 キーを押します。これで、メモリをさらに確保できます。F8 キーを押すと、ハードディスクドライブ上の CONFIG.SYS ファイルおよび AUTOEXEC.BAT ファイルからコマンドが 1 つずつ読み込まれ、各コマンドに対し、そのコマンドを実行するかどうかの確認を求められます。Drive Image の実行に不要なデバイスドライバや TSR プログラムをロードするコマンドが表示されたら、「N」(いいえ) を入力してメモリへのロードを中止します。これで、コンベンショナルメモリを節約できます。

オペレーティングシステムの起動ディスクを作成する

MEMMAKER と F8 キーを使っても十分なメモリを確保できなかった場合は、コンベンショナルメモリの消費量を最小限に抑える起動ディスクを作成します。

DOS の全バージョンに対応した起動ディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. 空のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブ (A:) に挿入します。
2. DOS プロンプトに続けて、「FORMAT drive: /S」と入力します。ここで、*drive* にはフロッピーディスクドライブのドライブレターを指定します。
3. Enter キーを押します。

ディスクが初期化され、オペレーティングシステムファイルがコピーされます。これで、このディスクからコンピュータを起動できるようになります。フロッピーディスクドライブに挿入したディスクからコンピュータを再起動すると、コンベンショナルメモリの消費量を最小限に抑えることができます。このディスクからコンピュータが正常に起動したら、フロッピーディスクからでもハードディスクドライブからでもDrive Imageを実行できます。

ネットワークを介してイメージを作成または復元するには、ネットワークの起動ディスクが必要です。

CONFIG.SYS ファイルを起動ディスクに作成する

標準の起動ディスクを作成しても十分なメモリを確保できない場合は、起動ディスクをカスタマイズし、更にコンベンショナルメモリを確保できるように変更します。具体的には、ディスクからコンピュータを起動したときに、DOS オペレーティングシステムの一部が上位メモリにロードされるようにします。起動ディスクをカスタマイズするには、ルートディレクトリ(A:¥)にCONFIG.SYSファイルを作成します。ルートディレクトリにCONFIG.SYSファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. DOS プロンプトに続で、「*drive:*」と入力し、Enter キーを押します。ここで、*drive* には、フロッピーディスクドライブのドライブレターを指定します。

フロッピーディスクドライブに移動したかどうかを確認してください。移動していれば、*drive:¥>* プロンプトが表示されています。

2. 「EDIT CONFIG.SYS」と入力し、Enter キーを押します。

DOS エディタが起動します。CONFIG.SYS ファイルがまだ作成されていない場合は、画面には空のファイルが作成されます。

3. エディタで次の3行を入力します。

```
DEVICE=C:¥DOS¥HIMEM.SYS
```

```
DEVICE=EMM386.EXE
```

```
DOS=HIGH,UMB
```

重要： 行の順番を変えずに入力してください。Windows の場合は、次のように指定します。DEVICE=C:¥WINDOWS¥HIMEM.SYS

4. [ファイル] [保存] をクリックしてファイルを保存します。
5. [ファイル] [終了] をクリックしてエディタを終了します。

これで、カスタマイズした起動ディスクからコンピュータを再起動できます。DOS のロード時に DOS カーネルの一部が上位メモリにロードされ、コンベンショナルメモリを最大限に節約できます。

オペレーティングシステム圧縮ファイルを削除する

DOS 6.22 をお使いで、システムに圧縮ドライブ (DriveSpace、DoubleSpace、Stacker など) がない場合は、オペレーティングシステム圧縮ファイルの DRVSPACE.BIN または DBLSPACE.BIN を起動ディスクから削除して、コンベンショナルメモリを解放できます。これらの非表示のシステムファイルを削除するには、次の手順に従います。

1. DOS プロンプトに続けて、「drive:」と入力します。ここで、drive には、フロッピーディスクドライブのドライブレターを指定します。
2. 「ATTRIB -R -H -S *.BIN」と入力します。
3. 「DEL *.BIN」と入力します。

診断エラーを修復する

Drive Image は、イメージファイルの作成またはパーティションのコピーを実行する前にパーティションの状態を詳しく診断します。この診断は、CHKDSK、SCANDISK、AUTOCHK などのオペレーティングシステムのユーティリティを使って実行する診断と同じです。

診断エラーのメッセージが表示された場合は、まずハードディスクのバックアップを作成し、次にオペレーティングシステムのCHKDSKプログラムを問題の発生したパーティションで実行します。通常は、Drive Image と同じ問題が検出されるはずですが、Windows NT のCHKDSK を使う場合、最初は /F スイッチを使用しないでください。

MS-DOS 6.x または Windows 95、98 を使用している場合は、SCANDISK を実行してください。

DOS のCHKDSKプログラムでは、拡張属性の問題は検出できません。

CHKDSK または SCANDISK が Drive Image と同じ問題を検出しなかった場合は、(株)ネットジャパンにお問い合わせください。問い合わせ先は、付録 D に掲載されていません。CHKDSK または SCANDISK が Drive Image と同じ問題を検出した場合は (これが通常の結果です) /F スイッチを指定してCHKDSKを実行し、問題を修復してください。

/F スイッチを指定してCHKDSKを実行したら、次に、/F スイッチを指定しないで再度CHKDSKを実行し、パーティションに問題がなくなったことを確認します。OS/2 では、この手順を2回繰り返してから次に進んでください。Drive Image が引き続きエラーを検出した場合は、パーティションを再フォーマットし、バックアップコピーからファイルを復元して問題を修復してください。

Drive Image は、パーティションを復元した後も診断処理を実行します。この診断が失敗した場合は、(株)ネットジャパンのテクニカルサポートに問題を報告してください。通常は、軽度のファイルシステムエラーであり、CHKDSK /F でデータを損失することなく修復できます。重度のエラーの場合は、バックアップコピーからファイルを復元する必要があります。

パーティションテーブルエラーを修復する

パーティションテーブルエラーは、データを維持したままで修復できる場合があります。次の手順を実行する前に、(株)ネットジャパンにお問い合わせください。

パーティションテーブルエラーを修復するには、エラーのないパーティションテーブルを新しく作成する必要があります。

1. ウィルスに感染していないかどうかを確認します。
114 ページの「パーティションテーブルとウィルス」を参照してください。
2. 問題のあるパーティションのバックアップを作成します。
3. そのパーティションを削除します。
DOS の旧バージョンでは、HPFS パーティションや非表示パーティションは削除できません。削除する必要がある場合は、最新バージョンの FDISK プログラムを使ってください。
OS/2 の FDISK プログラムでは、パーティションが破損していると判断され、変更できない場合があります。この場合は、DOS の最新バージョンの FDISK プログラムを実行してください。
4. パーティションを作成し直します。
5. パーティションの中身を復元します。

パーティションテーブルとウィルス

あるオペレーティングシステムでパーティションを変更しても、その変更内容が別のオペレーティングシステムでは認識されない場合があります。この場合、MBR(マスターブートレコード)がウィルスに感染している可能性があります。

最新のウィルスを検出できるウィルス検出ユーティリティを実行してください。ウィルスが検出された場合は、データが失われている可能性があります。ウィルスが検出された場合は、次の手順に従ってください。

1. ウィルスを除去する前に、両方のオペレーティングシステムで ScanDisk または CHKDSK を実行し、パーティションの状態を診断します。
2. 問題が検出されなかったパーティションのバックアップを作成します。
3. すべてのオペレーティングシステムからファイルをバックアップした後、ウィルスを除去します。
4. オペレーティングシステムごとに ScanDisk または CHKDSK をもう一度実行します。
5. 問題が検出されたパーティションを削除して作成し直します。

6. オペレーティングシステムを再インストールします。
7. 必要に応じてバックアップファイルを復元します。

PARTINFO を使って診断レポートを作成する

PARTINFO は、ハードディスクのパーティションテーブルのレポートを作成する PowerQuest のユーティリティプログラムであり、Drive Image の CD に収められています。レポートの情報は、パーティションに関するさまざまな問題の解決に役立ちます。

1. コンピュータを DOS で起動します。
2. PARTINFO.EXE が収められているディレクトリに移動します。
3. PARTINFO は、目的に応じて次のようなオプションを選択できます。

目的	操作内容
パーティション情報を画面に表示する	「PARTINFO」と入力し、Enter キーを押します。
レポートをプリンタで印刷する	「PARTINFO >LPT1」または「PARTINFO >PRN」と入力し、Enter キーを押します。
レポートをテキストファイルとしてフロッピーディスクに保存する	「PARTINFO >A:¥PARTINFO.TXT」と入力し、Enter キーを押します。

テクニカルサポートに相談すると、Drive Image で発生した問題を修復するため、サポート担当者から、PARTINFO を使って作成したレポートを求められる場合があります。

エラーメッセージと解決策

エラーメッセージと解決策の一覧（英語）を参照するには、Drive Image CD から Setup を起動し、[ドキュメント] [エラードキュメント] をクリックします。また、PowerQuest Master Error List(<http://www.powerquest.com/support/ER/err-0000.html>)で同様の情報を参照することもできます。また、主要なエラーの内容と解決方法を、ネットジャパンのホームページ (<http://www.netjapan.co.jp/>) でもご覧頂けます。エラー発生時にご参考ください。

付録 D

テクニカルサポート

この付録では、テクニカルサポートについて説明します。

- テクニカルサポートへ連絡する前に
- テクニカルサポートフォーム
- テクニカルサポートを受けるための条件
- テクニカルサポートの連絡先
- 補足

テクニカルサポートへ連絡する前に

(株)ネットジャパンでは、総合的なテクニカルサポートを実施しています。但し、テクニカルサポートへご連絡いただく場合は、その前に本書で解説している問題への対処方法を参照し、お試してください。ハードディスクに関連した問題については、ハードディスクのメーカー、または購入先のお店にお問い合わせください。また、本書の発行後に変更された情報が README.TXT ファイルに入っています。こちらも先に参照してください。

テクニカルサポートフォーム

本書の解説に適切な解決法が見つからなかった場合は、パッケージに同梱されている『ユーザー登録とテクニカルサポートのご案内』に「テクニカルサポートフォーム」がありますので、その用紙に必要な事項をご記入の上、ファックスまたはEメールにてお送りください。

注意： Drive Image の CD-ROM の中には、パーティション診断ソフト PARTINFO が入っています。エラーが出た場合には、PARTINFO を実行し、解析した情報をテキストにしてEメールあるいはファックスにて弊社のテクニカルサポートまでお送りください。

DOS プロンプトにて、

```
PARTINFO > ドライブ名 : ¥PARTINFO.TXT
```

を実行する事で、解析した情報がテキストとして作成されます。

テクニカルサポートを受けるための条件

本書の解説では問題解決に至らなかった場合は、以下の方法でテクニカルサポートへご連絡ください。ここでサポートを受けられるのは、Drive Image の登録ユーザーに限られています。無償サポートを受けられる期間は、ご購入日から 90 日間まで、とさせていただきます。

テクニカルサポートの連絡先

注意： テクニカルサポートへお問い合わせなさる際には：

- テクニカルサポートフォーム（シリアル番号を必ず明記してください。）
- PARTINFO の結果（前ページを参照してください。）
- 症状（同梱のテクニカルサポートフォーム、もしくはそれに準拠したもので、なるべく手順がはっきりわかるようお願いします。）

上記の資料をお送りください。（電話でお問い合わせなさる際も、お手元にこれらをご用意ください。）これらの情報がそろっていない場合には、ご回答できないこともございます。

ファックス 03-3864-5230

前ページに記載された内容と、発生した問題の概略をお送りください。

E メール support@netjapan.co.jp

Eメールでのメッセージも受け付けています。送付先は、support@netjapan.co.jp です。また、弊社 Web サイト (www.netjapan.co.jp) や PowerQuest 社 Web サイト (www.powerquest.com) にも情報が掲載されていますので、お問い合わせいただく前にご参照ください。

郵便

郵送先：〒 101-0032 東京都千代田区岩本町 2-18-3
(株) ネットジャパン
テクニカルサポートまで

電話 03-3864-5290

このサービスは、休日・祝日を除く月曜から金曜日の 10:00 から 12:00、13:00 から 17:00 の間に実施していますが、混雑が予想されますので、緊急の場合以外は極力お避けください。

補足

- JIS キーボード（通常日本で販売されているものは全てこれです）を使用している場合、英語 MS-DOS を起動させた時に、“ : ” や “ ¥ ” を入力する方法は次のとおりです。
 - “ : ” の入力方法：Shift キーを押しながら “ ;+れ ” が表示されたキーを押します。
 - “ ¥ ” の入力方法：“]}む ” が表示されたキーを押します。
- 本書は開発中の画面をもとに作成しています。お手元の製品の画面表示と異なる場合がある旨、ご了承ください。

用語集

ATA

コントローラポートまたはコントローラカードにハードディスクドライブを接続するための標準規格。ハードディスクドライブは、コントローラポートやコントローラカードを介して、コンピュータと接続されます。ATA が標準規格となるまで、ハードディスクドライブとコンピュータの接続方法はさまざまで、互換性がありませんでした。しかし、この処理を単純化した ATA の発表により、関連ハードウェアの開発および購入にかかるコストが低減しました。ATA は、IDE (Integrated Drive Electronics) の正式名称です。

ATA-2

新しい拡張 IDE 規格の一般名称。この規格は現在策定中であり、標準規格としては認定されていません。

BIOS (Basic Input/Output System)

PC 互換の ROM に組み込まれたプログラムコード。コンピュータを起動したり、低水準のハードディスクドライブアクセスなどの基本的なサービスを提供します。

EIDE (Enhanced Integrated Drive Electronics)

ATA-2 の特定の機能を普及させるためのマーケティング用語。

FAT (File Allocation Table)

ファイルやディレクトリを格納したり、取得するために DOS、Windows 95/98、および Windows NT で使用されているファイルシステム。OS/2 で使用される場合もあります。

FAT32

Windows 95 のアップデート版 (バージョン 4.00.950B 以降および Windows 98) で使用されているファイルシステム。FAT32 は、FAT ファイルシステムの拡張版です。FAT ファイルシステムのファイルアロケーションテーブルのエントリは 16 ビットですが、FAT32 では 32 ビットです。そのため、FAT32 では、より大きいサイズのボリューム (2 テラバイトまで) を扱うことができます。

GB (ギガバイト)

1.073.741.824 バイトのこと。

HPFS

High Performance File System の略。OS/2 では、FAT ファイルシステムの代わりに使用されます。

IDE

「ATA」を参照してください。

LBA (Logical Block Addressing)

1) EIDE では、CHS 値を単一の連続する 28 ビットの数字に置き換えてセクタアドレスを指定する方法のこと。2) 一般的には、CHS と対照的な、ハードディスクのセクタの 1 次元のアドレスのこと。

Linux

UNIX オペレーティングシステムのフリーウェア版。Linux Ext2 ファイルシステムは、Linux オペレーティングシステム用に開発されました。Linux Ext2 ファイルシステムは、最大 4 テラバイトのボリュームに対応しています。

MB (メガバイト)

1,048,576 バイトのこと。

NetBIOS

IP/SP や TCP/IP などの低水準のネットワークプロトコルに対応した、高水準のネットワークプログラミングインターフェイス。

NetWare

Novell NetWare ネットワークオペレーティングシステムでは、NetWare サーバー用に開発された NetWare ファイルシステムを採用しています。

NTFS (New Technology File System)

Windows NT で、FAT や HPFS の代わりに採用されているファイルシステム。

空き領域

ハードディスクドライブ上の領域のうち、どのパーティションにも割り当てられていない領域。

イメージ

ドライブにあるパーティションのスナップショット。イメージを使って、システムのバックアップ、新しいハードディスクドライブのインストール、または新しいシステムの設定を行うことができます。

拡張パーティション

ハードディスクドライブ上の 4 つの基本パーティションのうちの 1 つを拡張パーティションにすることができます。拡張パーティションには、直接データを保存できません。拡張パーティション内に論理パーティションを作成することによって、その中にデータを格納することができます。拡張パーティション内に作成できる論理パーティションの数には制限がありません。拡張パーティションをアクティブパーティションにすることはできません。

基本パーティション

マスターブートレコードのパーティションテーブルで参照されるパーティション。1 台のハードディスクドライブには、4 つの基本パーティションを作成できます。そのうちの 1 つを拡張パーティションにすることもできます。アクティブに設定できる基本パーティションは一度に 1 つだけです。一般的に、データやアプリケーションは拡張パーティション内の論理パーティションに置かれます。この結果、データは、すべての基本パーティションからアクセスできるようになります。

~先

たとえば、あるハードディスクドライブに対してコピーや復元を行う場合、そのハードディスクドライブを " コピー先 " または " 復元先 " のハードディスクドライブと呼びます。

ジャンパ

ハードディスクドライブの外側に取り付けてある金属製のピンと回路の遮断キャップ。ピンからキャップを取り外し、別の位置のピンにキャップをかぶせて、マスターやスレーブなどのジャンパ設定を変更することができます。

スレーブ

IDE ハードディスクドライブコントローラ上の 2 台目のハードディスクドライブ。

ディスク

データを格納するためのハードウェアデバイス。ディスクには、MBR(マスターブートレコード) とパーティションが含まれます。

パーティション

ディスク上の連続した領域。マスターブートレコードで定義されています。パーティションには、特定のファイルシステム (FAT、FAT32、HPFS、NTFS など) が使用されます。

復元

イメージファイルを復元先のドライブにダウンロードすること。

分割イメージ

イメージそのものより小さいメディアに保存するために、複数のセグメントに分割されたイメージファイル。

ボリューム

このユーザーガイドでは、" パーティション " と同じ意味で使用しています。

マスター

IDE のハードディスクドライブコントローラの先頭に接続されたハードディスクドライブ。

～元

たとえば、あるハードディスクドライブのイメージを作成する場合、イメージ化されるハードディスクドライブを "作成元" と呼びます。

論理ドライブ

拡張パーティション内の連続する領域のうち、オペレーティングシステムがファイルの格納や取得に使用できる領域。

索引

数字

- 1024 シリンダ境界、表示インジケータ 58
- 2GB 起動コード境界、表示インジケータ 58

A

- ASPI マネージャ
 - 一覧と対応アダプタ 104
 - リファレンス 101
- ASPI マネージャが対応するアダプタ 104

B

- BIOS、古いバージョンの BIOS を搭載したコンピュータ 90

C

- Castlewood ORB ドライブ 93
- CD-ROM
 - イメージファイルを作成する 23
 - イメージファイルを復元する 39
 - ドライブにアクセスする 110
 - ドライブレター、割り当てる 94
- CD-ROM ドライブにアクセスする 110
- CD-ROM ドライブ、ドライブレターを割り当てる 110
- CD-R のサポート 13
- CHKDSK 6, 113
- CONFIG.SYS、起動ディスクに作成する 112

D

- DataKeeper 77
 - インストールおよび設定する 78
 - オンラインヘルプ 88
 - カスタムバックアップの作成 81
 - コマンドラインオプション 87
 - システムを監視する 81
 - バックアップを復元する 85
 - モバイルのサポート 84
- DataKeeper を使ってバックアップする 77
- DOS ドライブ、PCMCIA カード用をロードする 93
- DOS、緊急用ディスクを使用して Drive Image を実行する 5

Drive Image

- Ghost イメージファイルを変換する 96
- SCSI ハードディスクドライブでの使用 90
- パーティション操作 57
- 古いバージョンの BIOS を搭載したコンピュータで使う 90
- Drive Image File Editor 65
 - イメージを検証する 72
 - 環境設定 (オプション) 74
 - システム要件 66
 - パスワードによる保護 70
- Drive Image から CD-ROM ドライブにアクセスする 110
- Drive Image の実行を準備する 6
- Drive Image をアンインストールする 10
- Drive Image を実行する
 - 準備 6
 - スケジューリングした時間に実行 7
 - ハードディスクからの実行 6
 - フロッピーディスクからの実行 7
- Drive Image を実行するための前提条件 6
- Drive Image を実行する、準備 13

F

- F8 キー、プログラムのロードを中止する 111
- FAT 診断エラー 115
- FireWire 接続の CD-R ドライブ 13

G

- Ghost イメージファイルの変換 96
- GUEST.INI、編集 100

H

- HPFS 診断エラー 115

I

- IDE 接続の CD-R および CD-RW ドライブ 13
- ImageShield 21, 70
- Iomega ドライブ 100
 - ASPI マネージャ 101
 - GUEST.INI ファイルを編集する 100

- USB ポートに接続された Zip ドライブが
表示されない 100
 - インストールする 6
 - ドライブレターを割り当てる 102
- J**
- Jaz ドライバ 100
 - Jaz ドライバが原因で Drive Image が停止する
99
 - JIS キーボード 119
- K**
- KEYB.COM 98
- M**
- MEMMAKER 111
 - MO ドライバ
ドライバをインストールする 6
 - MO ドライブ 102
ドライバをインストールする 6
- N**
- NetWare クライアント、パラレルポート
デバイスとともに使用する 6
 - NTFSINL.EXE 12
 - NTFS 診断エラー 115
 - NTFS パーティション、イメージを作成する 16
 - NTFS パーティション、イメージを復元する 29
- O**
- ORB ドライブ 93
- P**
- PARTINFO プログラム 115
 - PCMCIA カード用の NIC ドライバ 93
 - PCMCIA カード、Drive Image と使う 93
 - PQPACKET.EXE 13, 28
- S**
- ScanDisk、Drive Image の実行前 6
 - SCSI 接続の CD-R ドライブ 13
 - SCSI ハードディスクドライブ 90
 - SmartSector コピーを使用しない 20, 53
- U**
- USB 接続の CD-R ドライブ 13
 - USB ポート、接続された Zip ドライブを
使用できない 100
- W**
- Windows 2000 Professional 2
緊急用ディスクの制限 5
 - Windows NT
緊急用ディスクの制限 5
パーティションをコピーする 12
非表示 NTFS パーティション上でイメージ
を作成する 16
非表示の NTFS パーティションから
イメージを復元する 29
 - Windows NT Workstation 2
- Z**
- Zip ドライブ
Drive Image を停止させる原因 99
Iomega ドライバを参照
イメージファイルを作成する 22
イメージファイルを復元する 37
ドライブ 100
- あ**
- 空き領域、元のサイズを保持する 49
 - アクティブパーティション 62
 - アクティブパーティションを設定する 62
 - 圧縮
OS ファイルを削除する 113
レベル 17
- い**
- 一般的なパーティション操作 57
 - イメージ作成後にイメージ状態を診断する 21
 - イメージ状態を検証する
Drive Image File Editor 72
イメージを復元する前に 29
拡張オプション 21
 - イメージファイル
CD から復元する 28
Ghost ファイルを変換する 96
OS 圧縮ファイルを削除する 113
圧縮する 17, 70
検証する 72

- 削除する 72
- 作成する 11, 14
- ハードウェア構成 12
- 復元する 27
- メディアを分割する 19
- イメージファイルサイズを推定する
 - イメージファイルのサイズ、推定する 17
- イメージファイルサイズ、推定する 17
- イメージファイルを圧縮する 17, 70
- イメージファイルを作成する 11, 14
 - CD-ROM 23
 - CD-R 上に 13
 - Zip ドライブ 22
 - イメージ状態を検証する 21
 - 拡張オプション 20
 - 事例 22
 - 第 2 ハードディスク 25
- イメージファイルを復元する 27
 - CD 28, 39
 - 拡張オプション 36
 - サイズ変更オプション 35
 - 事例 37
 - パーティションのサイズを変更する 31
- イメージファイルを分割する 21
- イメージを作成する、非表示パーティション 16
- イメージをメディアに分割する 21
- インストールする
 - DataKeeper 78
 - Drive Image 4
 - アンインストール 10
 - イメージファイルを復元するを参照
 - リムーバブルデバイスドライバ 6
- インストールする、リムーバブルメディアのドライバ 99

う

- ウイルス検出 13, 28

え

- エラーメッセージ 115

お

- オペレーティングシステム
 - 圧縮ファイルを削除する 113
 - インストール用 4
 - 起動ディスク 111
- オンラインヘルプ 10
 - DataKeeper 88
 - Drive Image File Editor 75

か

- カードバスサービス、Drive Image で使うために有効にする 93
- 拡張オプション
 - イメージを作成する 20
 - イメージを復元する 36
 - ディスク間のコピー 53
- 拡張パーティション、作成する 59
- 環境設定、Drive Image File Editor 74

き

- キーボード、国際 98
- 起動ディスク
 - CONFIG.SYS を作成する 112
 - Drive Image の緊急用ディスクを作成する 5
 - システムディスクを作成する 111
 - 使用する 111
- 緊急用ディスク
 - Drive Image を実行する 7
 - Windows NT または Windows 2000 上での制限 5
 - 作成する 5

く

- クライアント、パラレルポートデバイスを NetWare とともに使用する 6

こ

- 国際キーボード 98
- コピー後にパーティションを非表示にする 54
- コピー先のドライブのパーティションのサイズを変更する 49
- コピーする、ディスク間 43
- コピーにかかる時間を短縮する 54
- コピーの高速化 20, 53
- コマンドラインオプション、DataKeeper 87
- コンベンショナルメモリ 111

さ

- サイズ変更オプション 35, 49
- サイズを自動的に変更して復元 / コピーをする 49
- 削除する
 - 圧縮ファイル 113
 - イメージファイル 72
 - パーティション 60
- 作成する
 - 起動ディスク 111
 - パーティションを拡張する 59

し

- システム要件、Drive Image 2
- システム要件、Drive Image File Editor 66
- ジャンパ設定 98
- 手でパーティションのサイズを変更する 49
- 使用しない、SmartSector コピー 20, 53
- 情報、ドライブについて表示する 58
- 事例
 - Zip ドライブからイメージファイルを復元する 37
 - Zip ドライブにイメージファイルを作成する 22
 - イメージファイルを CD-ROM に作成する 23
 - イメージファイルを作成する 22
 - イメージファイルを復元する 37
 - 第 2 ハードディスクからイメージを復元する 41
 - 第 2 ハードディスクにイメージファイルを作成する 25
- 新機能 1
- 診断エラー 115
- 診断レポート、PARTINFO を使って作成する 115

す

- スケジュール 7

せ

- セキュリティ、パスワードをイメージファイルに追加する 21

そ

- 操作
 - Drive Image File Editor 65
 - イメージファイル 65
 - パーティション 57

た

- 第 2 ハードディスクからイメージを復元する 41
- ダウンロードする
 - イメージファイルを復元するを参照

つ

- [ツール] メニュー 58

て

- ディスクアクセスエラー 115
- ディスク間のコピー 43
 - 同じハードディスク上のパーティション間 55
 - 拡張オプション 53
 - ドライブ間 56
 - パーティションのサイズを変更する 48
- ディスクの書き込み検証 20, 54
- テクニカルサポート 117
 - オンラインヘルプ 10
- テクニカルサポートへ連絡する前に 118
- デバイスドライバ、インストールする 6
- デバイス、パラレルポートデバイスを NetWare とともに使用する 6

と

- ドライバ
 - リムーバブルデバイスに対してインストールする 6
 - リムーバブルメディアドライブ 99
- ドライブ
 - 情報を表示する 58
 - ドライブ間でコピーする 56

ドライブオーバレイソフトウェア 90
ドライブ情報を表示する 58
ドライブレター
 Omega に割り当てる 102
 オペレーティングシステムによる割り当て 94
トラブルシューティング 109
 [完了]をクリックした後で Drive Image
 が停止する 13, 28
 CD-ROM ドライブにアクセスする 110
 CD-ROM にドライブレターが
 割り当てられない 110
 CD-R ドライブが認識されない 13
 CONFIG.SYS を起動ディスクに作成する
 112
 Drive Image では Castlewood ORB
 ドライブが認識されない 93
 Drive Image の起動時の停止 99
 Drive Image を実行するための緊急用
 ディスクを作成する 5
 MEMMAKER を実行する 111
 OS 圧縮ファイルを削除する 113
 PARTINFO を使って診断レポートを
 作成する 115
 Windows NT が起動しない 12
 オペレーティングシステムの起動ディスク
 を使用する 111
 起動ディスクを作成する 111
 プログラムのロードを中止する 111

の

ノート型コンピュータ、Drive Image を使う 93

は

パーティション
 アクティブパーティションを設定する 62
 一般的な操作 57
 同じハードディスク上にある
 パーティション間でコピーする 55
 画面に表示される情報 58
 コピー後非表示にする 54
 サイズを変更する 31, 48
 削除する 60
 手動でサイズを変更する 49
 テーブルエラー 115
 非表示にする 61
 復元後非表示にする 37
 有効な領域に合わせてサイズを自動的に
 変更する 49

パーティションテーブルエラーを修復する 114
パーティションのサイズを指定する 48
パーティションのサイズを変更する 31, 48
パーティションマップ 58
パーティションマップ上のマーカー 58
パーティションマップ上の矢印 58
パーティションマップに表示される三角形 58
パーティションを非表示にする 61
ハードウェアを構成する 12
ハードディスクドライブ
 SCSI 90
 イメージファイルを作成する 25
 イメージを復元する 41
 ジャンパ設定 98
パスワード
 イメージファイルに追加する 70
パスワード、イメージファイルに追加する 21
パラレルポートデバイス、NetWare
 クライアント 6

ひ

非表示にする
 復元後のパーティション 37
非表示のパーティションからイメージを
 復元する 29
非表示のパーティション、イメージを復元する
 29
非表示パーティションにイメージを保存する 16

ふ

ファイルシステムエラーの診断 20, 53
ファイルを編集する 65
ファイル、管理 65
富士通製ドライバ、インストールする 6
不良セクタの診断を省略 54
不良セクタ、診断 54
古いコンピュータ上のオーバレイ
 ソフトウェア 90
フロッピーディスク、イメージファイルを
 作成する 21

へ

ヘルプ、オンライン 10
 Drive Image File Editor 75
変換する、Ghost イメージファイル 96

ほ

ポートデバイス、NetWare クライアントとともに使用する 6

み

未使用領域、元のサイズを保持する 49

め

メディアを分割する 19

メニュー、[ツール] 58

メモリ

Drive Image の実行に必須 2

プログラムをロードしないでメモリを確保する 111

も

元のサイズで復元 / コピーをする 49

元のレイアウトと同じ比率でパーティションのサイズを変更する 49

ゆ

ユーザーファイル、DataKeeper を使ってバックアップする 77

よ

要件 2

用語集 121

ら

ラップトップコンピュータ、Drive Image を使う 93

り

リムーバブルメディア

Castlewood ORB ドライブ 93

Drive Image で使用するために設定する 99

Iomega 100

MO ドライブ 102

ネットワーククライアントで使用する 99

リムーバブルメディアドライブを設定する 99

リムーバブルメディアドライブ、ドライバをインストールする 6

れ

例

イメージファイルを作成する 22
事例を参照

連続バックアップ 77